

令和6年度
千葉県こどもの生活実態調査
報告書

令和7年3月
千葉県

■目次■

I. 調査概要	1
1. 目的	1
2. 実態調査票の配布及び回答数	1
3. 生活困難度の定義（参考：平成 28 年度東京都子供の生活実態調査）	2
4. 困窮層の割合	3
5. 分析対象について	6
6. 回答者の基本属性	7
7. 集計方法等について	8
II. 結果概要	9
1. 生活困窮の状況	9
（1）結果概要	9
（2）考察	9
2. こどもの生活の状況	10
（1）結果概要	10
（2）考察	10
3. こども及び保護者の健康・自己肯定感	11
（1）結果概要	11
（2）考察	11
4. 保護者とこども・地域との関わり	12
（1）結果概要	12
（2）考察	12
5. 保護者のこれまでの経験	13
（1）結果概要	13
（2）考察	13
6. こどもの学びの状況	13
（1）結果概要	13
（2）考察	14
7. 保護者の就労状況	14
（1）結果概要	14
（2）考察	14
8. 経済的支援制度の利用状況	15
（1）結果概要	15
（2）考察	15
9. 子育て支援・相談機関の利用状況	15
（1）結果概要	15
（2）考察	16
10. 新型コロナウイルス感染症の影響	16

(1) 結果概要	16
(2) 考察	16
III. 基本集計	17
1. 保護者アンケート集計結果	17
(1) 基本属性	17
(2) 保護者の就業状況・収入状況	27
(3) 暮らしの状況	40
(4) 健康状態	57
(5) こどもとの関わり	78
(6) 新型コロナウイルス感染症の影響	104
(7) 相談相手、過去の経験、自己肯定感など	118
(8) 支援の利用状況	153
2. こどもアンケート集計結果	222
(1) 学校・勉強について	222
(2) 生活習慣について	251
(3) 平日放課後や休日の過ごし方について	267
(4) 普段の活動状況について	296
(5) 所有物について	325
(6) 周囲との関わりについて	339
(7) 学校生活に関する悩み	363
(8) 健康状態について	377
(9) 自己肯定感について	399
(10) 支援場所の利用意向	417
(11) 新型コロナウイルス感染症の影響	425
IV. テーマ別集計	437
1. 経年比較	437
(1) 分析結果	437
(2) 考察	445
2. 貧困の継続状況別分析	446
(1) 分析結果	447
(2) 考察	458
3. 保護者の国籍別分析	459
(1) 分析結果	460
(2) 考察	471
4. 保護者との関わりとこどもの自己肯定感	472
(1) 分析結果	473
(2) 考察	479
5. 習い事の有無とこどもの自己肯定感	480
(1) 分析結果	480

(2) 考察	485
6. こどもの生活習慣と健康	486
(1) 分析結果	486
(2) 考察	505
7. 保護者の相談相手の有無と心の健康	506
(1) 分析結果	506
(2) 考察	512
<参考資料>	513

I. 調査概要

1. 目的

千葉県内に住む小学5年生及び中学2年生とその保護者を対象に勉強時間・場所、放課後の過ごし方、学校の授業の理解度、保護者の学歴、就業の状況・収入、公的支援等に対する認知度・利用度等、教育や生活に関連する調査を行い、その結果を取りまとめた。

2. 実態調査票の配布及び回答数

実態調査票については、人口規模や地域性のバランスを考慮し、県内の14市町村（柏市、成田市、旭市、八千代市、我孫子市、鴨川市、鎌ヶ谷市、富津市、四街道市、匝瑳市、山武市、多古町、睦沢町、長生村）に配布。当該回答に加えて、君津市が同時期に本調査と同様の設問を含めて実施した「君津市こどもの生活状況調査」の回答を統合し、計15市町村の回答結果の集計・分析を行った。

配布数	こども票・保護者票 各 19,728 件 うち小学5年生：9,931 件 中学2年生：9,797 件
回答者数	こども票 7,127 件 うち小学5年生：3,605 件 中学2年生：3,401 件 学年不明：121 件 保護者票 7,275 件 うち小学5年生：3,887 件 中学2年生：3,372 件 学年不明：16 件
回答率	こども票 36.1% うち小学5年生：36.3% 中学2年生：34.7% 保護者票 36.9% うち小学5年生：39.1% 中学2年生：34.4%

3. 生活困難度の定義（参考：平成 28 年度東京都子供の生活実態調査）

本調査では、こどもの「生活困難」にかかる 3 要素を以下のとおり定義した。

①低所得	<p>等価世帯所得が厚生労働省「2023（令和 5）年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯と定義する。</p> <p><低所得基準></p> <p>世帯所得の中央値 405 万円 ÷ √平均世帯人数（2.25 人） × 50% = 135.0 万円</p>
②家計の逼迫	<p>保護者票において、以下の 7 項目中、1 つ以上が該当する場合と定義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過去 1 年以内に経済的な理由で電話料金の滞納があった 2. 過去 1 年以内に経済的な理由で電気料金の滞納があった 3. 過去 1 年以内に経済的な理由でガス料金の滞納があった 4. 過去 1 年以内に経済的な理由で水道料金の滞納があった 5. 過去 1 年以内に経済的な理由で家賃の滞納があった 6. 過去 1 年以内に「家族が必要とする食料が買えなかった経験」があった 7. 過去 1 年以内に「家族が必要とする衣類が買えなかった経験」があった
③こどもの体験や所有物の欠如	<p>保護者票において、過去 1 年以内にこどもの体験や所有物に関する以下 15 項目のうち、経済的な理由により欠如している項目が 3 つ以上ある場合と定義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 海水浴に行く 2. 博物館・科学館・美術館などに行く 3. キャンプやバーベキューに行く 4. スポーツ観戦や劇場に行く 5. 遊園地やテーマパークに行く 6. 毎月おこづかいを渡す 7. 毎年新しい洋服・靴を買う 8. 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる 9. 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう） 10. お誕生日のお祝いをする 11. 1 年に 1 回くらい家族旅行に行く 12. クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる 13. こどもの年齢にあった本 14. こども用のスポーツ用品・おもちゃ 15. こどもが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所

上記 3 つの要素について、該当する要素の数に応じて以下のとおり生活困難度を分類した。

困窮層	2 つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか 1 つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない

なお、上記 3 要素についてひとつでも欠損がある場合は無効としたため、生活困難度を算出できるサンプルは 5406 件（保護者票ベース）となった。

4. 困窮層の割合

保護者票における困窮層の割合をみると、全体では困窮層が9.7%、周辺層が12.8%であった。また、3要素に該当する割合はそれぞれ①低所得が5.4%、②家計の逼迫が14.1%、③こどもの体験や所有物の欠如が14.6%となっていた。

図表 1 困窮層・周辺層・一般層の割合（保護者票ベース）

	全体		小学5年生		中学2年生	
	人	割合	人	割合	人	割合
① 困窮層	522	9.7%	264	9.0%	257	10.4%
② 周辺層	694	12.8%	360	12.3%	333	13.4%
小計（①+②）	1216	22.5%	624	21.4%	590	23.8%
③ 一般層	4190	77.5%	2297	78.6%	1890	76.2%
合計（①+②+③）	5406	100.0%	2921	100.0%	2480	100.0%

図表 2 生活困難に係る3要素の構成割合（保護者票ベース）

	全体		小学5年生		中学2年生	
	人	割合	人	割合	人	割合
①低所得	294	5.4%	141	4.8%	151	6.1%
②家計の逼迫	763	14.1%	407	13.9%	356	14.4%
③こどもの体験や所有物の欠如	790	14.6%	394	13.5%	395	15.9%

図表 3 困窮層・周辺層の割合（小学5年生・保護者票ベース）

			人	割合	人	%
困窮層	3つに該当	①低所得+②家計の逼迫+③こどもの体験や所有物欠如	54	1.8%	264	9.0%
		①低所得+②家計の逼迫	17	0.6%		
	2つに該当	①低所得+③こどもの体験や所有物欠如	18	0.6%		
		②家計の逼迫+③こどもの体験や所有物欠如	175	6.0%		
周辺層	1つに該当	①低所得	52	1.8%	360	12.3%
		②家計の逼迫	161	5.5%		
		③こどもの体験や所有物欠如	147	5.0%		
困窮層と周辺層の計					624	21.4%

図表 4 困窮層・周辺層の割合（中学2年生・保護者票ベース）

			N	%	N	%
困窮層	3つに 該当	①低所得+②家計の逼迫+③こどもの 体験や所有物欠如	55	2.2%	257	10.4%
	2つに 該当	①低所得+②家計の逼迫	11	0.4%		
		①低所得+③こどもの体験や所有物 欠如	31	1.3%		
		②家計の逼迫+③こどもの体験や所 有物欠如	160	6.5%		
周辺層	1つに 該当	①低所得	54	2.2%	333	13.4%
		②家計の逼迫	130	5.2%		
		③こどもの体験や所有物欠如	149	6.0%		
困窮層と周辺層の計					590	23.8%

図表 5 困窮層・周辺層の割合（全体・保護者票ベース）

			人	%	人	%
困窮層	3つに 該当	①低所得+②家計の逼迫+③こども の体験や所有物欠如	109	2.0%	522	9.7%
	2つに 該当	① 低所得+②家計の逼迫	28	0.5%		
		①低所得+③こどもの体験や所有物 欠如	50	0.9%		
		②家計の逼迫+③こどもの体験や所 有物欠如	335	6.2%		
周辺層	1つに 該当	① 低所得	107	2.0%	694	12.8%
		② 家計の逼迫	291	5.4%		
		③ こどもの体験や所有物欠如	296	5.5%		
困窮層と周辺層の計					1216	22.5%

世帯タイプ別に、困窮層・周辺層・一般層の割合をみると、特に「ひとり親（二世帯）」において困窮層が32.1%、周辺層が23.3%と高い割合となっていた。

図表 6 世帯タイプ別 困窮層・周辺層・一般層の割合（保護者票ベース）

<全体>

	全体		ふたり親 (二世帯)		ふたり親 (三世帯)		ひとり親 (二世帯)		ひとり親 (三世帯)	
	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合
①困窮層	522	9.7%	298	6.9%	45	8.2%	120	32.1%	55	30.4%
②周辺層	694	12.8%	493	11.5%	66	12.1%	87	23.3%	45	24.9%
③一般層	4190	77.5%	3504	81.6%	435	79.7%	167	44.7%	81	44.8%

<小学5年生>

	全体		ふたり親 (二世帯)		ふたり親 (三世帯)		ひとり親 (二世帯)		ひとり親 (三世帯)	
	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合
①困窮層	264	9.0%	155	6.5%	27	10.0%	58	32.4%	22	27.5%
②周辺層	360	12.3%	273	11.4%	31	11.5%	41	22.9%	14	17.5%
③一般層	2297	78.6%	1959	82.1%	212	78.5%	80	44.7%	44	55.0%

<中学2年生>

	全体		ふたり親 (二世帯)		ふたり親 (三世帯)		ひとり親 (二世帯)		ひとり親 (三世帯)	
	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合
①困窮層	257	10.4%	143	7.5%	18	6.5%	61	31.8%	33	32.7%
②周辺層	333	13.4%	220	11.5%	35	12.7%	45	23.4%	31	30.7%
③一般層	1890	76.2%	1543	81.0%	223	80.8%	86	44.8%	37	36.6%

注) 全体には世帯タイプが4パターンに該当しなかったサンプルも含まれるため、各世帯タイプの合計と全体は一致しない。

5. 分析対象について

有効回答となったこども票・保護者票のうち、こどもと保護者がマッチングできたのは小学5年生では3,468件、中学2年生では3,021件であった。本報告書において、こども票の分析のうち、保護者票の回答にもとづいたクロス軸を用いる場合、こどもと保護者がマッチングできたサンプル以外はクロス軸が作成できないため、全体と各クロス軸の合計は一致しない。また、保護者票の分析にあたっては、マッチングの有無にかかわらず、全サンプルを対象とする。分析対象となる保護者・こどもの件数内訳は以下のとおりである。

図表 7 分析対象の件数内訳（生活困難度別）

(人)

	こども		保護者	
	小学生	中学生	小学生	中学生
全体	3,605	3,401	3,887	3,372
困窮層	230	228	264	257
周辺層	314	291	360	333
一般層	2,056	1,684	2,297	1,890

注) 全体には生活困難度が算出できなかったサンプルも含まれるため、困窮層・周辺層・一般層の合計と全体は一致しない。

6. 回答者の基本属性

図表 8 こども問 1 学年

	n	割合
小学生	3605	50.6%
中学生	3401	47.7%
無回答	121	1.7%
全体	7127	100.0%

図表 9 こども問 2 性別

		全体	男子	女子	その他・答 えたくない	無回答
		小学生	n 3605	1741	1813	43
	割合	100.0%	48.3%	50.3%	1.2%	0.2%
中学生	n 3401	1553	1656	51	141	
	割合	100.0%	45.7%	48.7%	1.5%	4.1%

図表 10 保護者問 2 回答者の続柄

		全体	母親	父親	祖父・祖 母	叔父・叔 母などの 親戚	施設職員	里親	その他	無回答
		小学生	n 3887	3456	399	15	0	7	3	2
	割合	100.0%	88.9%	10.3%	0.4%	0.0%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%
中学生	n 3372	3004	338	11	4	9	3	1	2	
	割合	100.0%	89.1%	10.0%	0.3%	0.1%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%

図表 11 保護者問 3・4 世帯タイプ

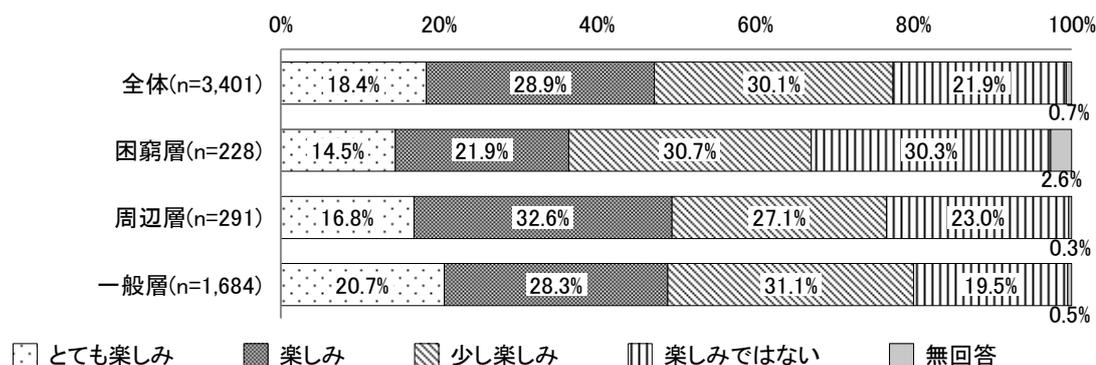
		全体	ふたり親 (二世帯)	ふたり親 (三世帯)	ひとり親 (二世帯)	ひとり親 (三世帯)	その他	無回答
		小学生	n 3887	3126	384	237	125	15
	割合	100.0%	80.4%	9.9%	6.1%	3.2%	0.4%	0.0%
中学生	n 3372	2580	387	251	134	19	1	
	割合	100.0%	76.5%	11.5%	7.4%	4.0%	0.6%	0.0%

7. 集計方法等について

- 各図表の結果数値 (%) は小数点第二位以下を四捨五入して表示しているため、各項目の割合の合計が 100% に一致しない場合がある。
- 本報告書においては、クロス集計結果の掲載時に、 χ^2 乗検定によって項目間に統計的に有意な差を認められるかを検定している。その結果、1%水準で有意である場合には $p < .01$ (もしくは[**])、5%水準で有意である場合には $p < .05$ (もしくは[*]) とそれぞれ記載している。なお、1%水準で有意であるとは、図表で示している項目間に統計的に差がない確率が1%未満であり、項目間に差があるという差し支えないという意味である。

例) 以下の図表の場合、 $p < .01$ であるため、困窮状況によって数学の授業を楽しみと思う割合に有意な差がみられるとすることができる。

図表○ 学校生活_数学の授業：単数回答（こども Q3A）（生活困難度別）
 <中学生> ($p < .01$)



- グラフ内の数値が細かく見づらい場合には、グラフ内の数値を省略し、別途数値表をグラフの下に掲載している。
- 「Ⅲ. 基本集計」において、生活困難度別のグラフは有意差がみられたかどうかにかかわらず、すべてのグラフを掲載している。一方、世帯タイプ別のグラフは、紙幅の都合上一部の項目に限定してグラフを掲載している。

Ⅱ. 結果概要

以下では、各調査結果についてテーマごとに概要を整理するとともに、今後必要と考えられる施策等に関する考察を行う。

1. 生活困窮の状況

(1) 結果概要

- 生活困難度について経年変化をみると、令和元年度「千葉県子どもの生活実態調査」（以下、R1 調査）に比べて今回調査（以下、R6 調査）では、困窮層がやや増加し、一般層がやや減少している。（図表 393、図表 394）
- 生活困難の構成要素別にみると、「低所得」に該当する割合が 4.1%から 5.4%へ、「家計の逼迫」に該当する割合が 12.4%から 14.1%へ、「こどもの体験や所有物の欠如」に該当する割合が 10.6%から 14.6%へそれぞれ増加している。（図表 395、図表 396）
- 困窮層では、一般層に比べて現在の暮らしが「大変苦しい」とする割合や、金銭不足で食料や衣類を買えなかったり、電話料金などを期限までに支払えなかったことがあるとする割合が高くなっている。（図表 28、図表 30～図表 41）
- 世帯にないものをみると、困窮層では一般層に比べて、「急な出費のための貯金」「新聞の定期購読」「こどもの年齢にあった本」などが無いとする割合が高くなっている。（図表 42）
- こどもの所有物をみると、「自宅で宿題をすることができる場所」や「自分専用の勉強机」などの勉強に適した環境や、「友達が着ているのと同じような服」、「2足以上のサイズのあった靴」など日常生活を送る上で重要なものを所有するこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が低い。一方、「けいたい電話、スマートフォン」「けいたい音楽プレーヤー」については、生活困難度による所有率の差はみられない。（図表 284～図表 297）
- 10 年前の生活が大変苦しいと回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 110）
- 世帯タイプ別にみると、「ひとり親（二世帯）」「ひとり親（三世帯）」では、全体に比べて現在の暮らしが「やや苦しい」「大変苦しい」とする割合が高くなっている。（図表 29）

(2) 考察

- R1 調査と R6 調査の比較から、コロナ禍を経て、直接的な収入の格差自体はそれほど広がっていないものの、家計への影響やこどもの体験・所有物といった間接的な格差が拡大しているという可能性が示唆される。
- 困窮状況により物品の所有状況には差がみられ、こどもの学習や日常生活に影響が出ている可能性がある。特に、食料や衣類といった日常生活に不可欠なものが買えなかった経験があるという家庭も一定数みられ、こどもの健康状態への影響が懸念される。
- 一方で、スマートフォン等の所持については、困窮状況による差がみられないものもあることから、所有しているものや外見だけでは判断できないことも留意が必要である。
- ふたり親世帯と比べてひとり親世帯では、経済的に困窮した状況に置かれている傾向がみられるため、優先的な支援が必要であると考えられる。

2. こどもの生活の状況

(1) 結果概要

- 中学生について、午前0時以降に就寝すると回答したこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 219)
- 平日に毎日朝ご飯を食べる割合は、一般層に比べて困窮層の方が低い。(図表 220)
- 長期休暇中にいつも昼ご飯を食べる割合は、一般層に比べて困窮層の方が低い。(図表 222)
- 給食以外で野菜を毎日食べるこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が低く 15～20 ポイントの差がある。(図表 223)
- 同様に、肉か魚を毎日食べるこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が低く約 15 ポイントの差がある。(図表 227)
- 平日の放課後一緒に過ごす人について、生活困難度別では差がみられなかったが、世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親(二世帯)」において「家族」とする割合が低く、「ひとりである」とする割合が高くなっている。(図表 234)
- 居場所の利用意向をみると、小学生では「家で勉強できない時、静かに勉強できる場所」「大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」を使ってみたいという割合が一般層に比べて困窮層ほど高い。(図表 377、図表 378)
- 中学生においては、一般層に比べて困窮層において、要介護者の家族がいる割合が高い。(図表 13) また、家事や家族の世話で勉強する時間・遊ぶ時間がとれないことが「よくあった」「時々あった」とする割合が高くなっている。(図表 330、図表 331)
- また、保護者が外国籍の場合にも、同様の傾向がみられる。(図表 452、図表 453)

(2) 考察

- 困窮層のこどもほど、睡眠・食事などの基本的な生活習慣において課題がみられる。睡眠については、困窮層のこどもほど夜遅くまで起きているという傾向がみられる。また、食事については、困窮層のこどもほど毎日朝ご飯を食べておらず、野菜や魚・肉を食べる頻度も低いという傾向がみられる。
- ひとり親世帯(特に二世帯)のこどもは、平日の放課後にひとりで過ごしている割合が高い。また、困窮層の小学生ほど、静かに勉強できる場所や、無料で勉強をみてくれる場所へのニーズが高い。
- こうしたことから、こどもの食事や睡眠など、生活習慣を整える支援が必要であるとともに、こどもが安心して勉強できるような居場所の確保について検討する必要がある。
- 困窮層では、要介護者の家族がいる割合が高く、貧困のみでない複合的な課題を抱えている可能性が高く、家庭内での家事や家族の世話によって勉強や遊びの時間が確保できないヤングケアラー状態におかれているこどもの割合が高い。また、保護者が外国籍の場合も、言語面でのサポート等の必要性からヤングケアラー状態にあるこどもがいることもうかがわれ、包括的な支援が必要と考えられる。

3. こども及び保護者の健康・自己肯定感

(1) 結果概要

- こどもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがあったと回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。特に、中学生については一般層に比べて困窮層の方が約 10 ポイント高い。(図表 57)
- 健康状態が良いと回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が低く、20 ポイント以上の差がある。(図表 43)
- 健康診断やがん検診を定期的に受けていると回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が低く、費用面を理由に挙げる割合が高い。(図表 52、図表 53)
- 「がんばれば、むくわれる」「自分は価値のある人間だ」「目標や計画は達成できる」「積極的に色々な人と話したい」「今後の人生が楽しみだ」「自分のことが好きだ」と「思わない」保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 115、図表 117、図表 123、図表 125、図表 126、図表 128)
- また、「不安に感じることがある」「孤独を感じることもある」と「とても思う」保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 119、図表 121)
- こどもの自己肯定感をみると、中学生においては、「自分は価値のある人間だ」「自分は友達に好かれている」「自分のことが好きだ」と「思わない」こどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 357、図表 365、図表 371)
- 同じく中学生においては、「孤独を感じることもある」と「とても思う」こどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 363)
- 世帯タイプ別にみると、小学生において、「自分は価値のある人間だ」「自分のことが好きだ」と「思わない」こどもの割合は、全体に比べて「ひとり親(二世代)」で高い。(図表 358、図表 372)
- 貧困の継続状況別にみると、特に貧困継続群において、全体的に保護者の自己肯定感が低い傾向がみられる。(図表 410～図表 416)
- こどもにおいても、貧困継続群において同様の傾向がみられる。(図表 419～図表 425)

(2) 考察

- 困窮層ほど、費用負担を理由としてこどもの医療機関受診や保護者自身の健康診断等の受診を抑制する傾向がみられる。また、困窮層の保護者ほど、健康状態がよくないという傾向がみられる。これらのことにより、健康状態の悪化が懸念され、医療費負担の増大や保護者が働けなくなるリスクが高まり、状況がより深刻になる可能性がある。
- また、困窮層やひとり親世帯であるほど、保護者やこどもの自己肯定感が低い傾向がみられた。特に、困窮状況が長く続いている家庭においてそうした傾向がみられることから、貧困初期段階での早期介入の重要性がうかがわれる。

4. 保護者と子ども・地域との関わり

(1) 結果概要

- おうちの大人と一緒に朝食を食べる機会が「ほぼない」と回答したこどもの割合は、一般層と比べて困窮層の方が高い。(図表 258)
- 小学生においては、おうちの大人と一緒に遊んだり体を動かしたりする機会や、学校生活の話をする機会、ニュースなど社会の出来事の話をする機会が困窮層ほど少ない傾向がみられる。(図表 264、図表 266、図表 268)
- 保護者が外国籍の場合にも、保護者から子どもへの関わり(学校生活の話をする、ニュースなどの社会のできごとについて話す)について、日常的に行っている割合が低い傾向がみられる。(図表 429、図表 430)
- 保護者の関わりとこどもの自己肯定感の関連をみると、生活困難度に関わらず、「がんばれば、むくわれる」「自分は価値のある人間だ」「自分のことが好きだ」といった自己肯定感は、保護者との関わりが多いほど高くなる傾向にあり、保護者との関わりとこどもの自己肯定感には高い相関関係がみられた。(図表 457～図表 465)
- 困ったときや悩みがあるときに相談できる相手や、近隣で挨拶をしたり悩みを相談できる知人等がないと回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 99、図表 101、図表 103)
- 相談相手がない割合は、貧困状態が継続している場合や、保護者が外国籍である場合にも高い。(図表 406、図表 432)

(2) 考察

- 困窮層の家庭は家族間のコミュニケーションや外部とのコミュニケーションが少なく、孤立している可能性がうかがわれる。相談できる相手がない世帯は、困窮の初期段階にあっても周囲が気づかず見落とされてしまい、困窮の問題が雪だるま式に肥大化してしまう可能性があるため、相談支援体制の充実や相談窓口のより効果的な周知の方法を検討する必要がある。
- 子どもにおいては、保護者との関わりが自己肯定感を高めることがうかがえたが、困窮層の場合、さまざまな要因からそうした関わりを十分にもてない保護者がいることも想定される。そうした家庭の子どもに対しても、居場所支援等を通じて、親以外の大人とのコミュニケーション機会やさまざまな体験の機会を確保していくことが重要である。
- また、保護者が外国籍である場合、日本国籍の場合に比べてこどもとのコミュニケーションが少ない傾向がみられる。この背景には、外国籍保護者の多忙さだけでなく、親子間で日本語と母語の使用に差が生じ、コミュニケーションが難しくなっていることも一因として想定される。
- 加えて、外国籍の保護者の場合、相談相手や近隣の友人・知人がいないという割合も高いため、周囲からのサポートが得られないまま、親子のコミュニケーションが少なくこどもが孤立してしまうという可能性が懸念される。そのため、こうした外国籍家庭の保護者・子どもに対しても相談支援や居場所支援等をより充実させる必要がある。

5. 保護者のこれまでの経験

(1) 結果概要

- 保護者が最後に卒業した学校をみると、母親・父親ともに、「中学校」「高校」と回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 105、図表 106)
- 15 歳頃の暮らし向きが「やや苦しかった」「大変苦しかった」と回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 109)
- 成人する前に体験したこととして、「両親が離婚した」と回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 111)
- こどもを持ってから経験したことをみると、「(元) 配偶者 (パートナー) から暴力をふるわれたことがある」「こどもに行き過ぎた体罰を与えたことがある」「育児放棄になった時期がある」「出産や育児でうつ (状態) になったことがある」「わが子を虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」「自殺を考えたことがある」と回答した保護者の割合は、いずれも一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 113)
- 世帯タイプ別にみると、全体に比べて「ひとり親 (二世帯)」「ひとり親 (三世帯)」において、「(元) 配偶者 (パートナー) から暴力をふるわれたことがある」「自殺を考えたことがある」とする割合が高くなっている。また、「ひとり親 (二世帯)」においては、「こどもに行き過ぎた体罰を与えたことがある」「育児放棄になった時期がある」とする割合もやや高い。(図表 114)

(2) 考察

- 困窮家庭では、保護者自身がこども時代に経済的に困窮していたり両親の離婚を経験していたりと厳しい家庭環境にあり、一般家庭に比べると教育水準にも差がみられ、世代を超えた困窮状況の連鎖がうかがえる。
- また、困窮している家庭ほど配偶者からの暴力や保護者のうつ状態、希死念慮などが生じているとともに、こどもに対する体罰や育児放棄、虐待の傾向がうかがわれることから、経済状況だけでなく、こどもの育つ環境そのものにも負の連鎖が生じている可能性が示唆される。
- こうした負の連鎖を断ち切り、こどもが置かれた環境によらず夢や希望をもつことができるようにするためには、こどもだけでなく保護者に対する相談支援等を充実させることが必要であると考えられる。

6. こどもの学びの状況

(1) 結果概要

- 学校の授業が分からないと感じるこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高く、中学生ではその傾向が顕著である。(図表 208)
- 自宅で宿題ができる場所がない、欲しいと回答したこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 287)
- 学校の授業が「あまりわからない／わからないことが多い／ほとんど分からない」と回答した者のうち、中学生において、勉強が分からないときに塾や習い事の先生が教えてくれると回答したこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が低い。(図表 209)

- 学習塾に通っていないこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 214)
- 学校の授業以外の勉強時間は、一般層に比べて困窮層の方が少ない。(図表 212)
- 将来、大学またはそれ以上まで進学したいと回答した中学生の割合は、一般層に比べて困窮層の方が低い。(図表 215)
- 世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、勉強がわからないときに教えてもらう人として「親」を挙げる割合は、ふたり親世帯に比べてひとり親世帯で低くなっている。また、中学生においてはひとり親世帯において「教えてもらえる人がいない」とする割合も高い。(図表 210)

(2) 考察

- 困窮状況によって授業の理解度や学校外での学習環境・勉強時間に差がみられ、中学生においてその差が顕著に確認された。
- また、中学生の進学希望にも差があり、困窮が影響して進学を諦めるこどもが一定数いることが推測される。
- ひとり親世帯では、親が勉強を教えることが難しい状況にあることもうかがえ、こうしたこどもたちに対する学習支援の重要性が示唆される。

7. 保護者の就労状況

(1) 結果概要

- 小学生において、母親の就業状況は「パート・アルバイト」の割合が一般層よりも困窮層・周辺層において高くなっているが、中学生においては困窮状況による有意な差がみられない。(図表 19)
- 困窮層の場合、父親の就業形態は「民間企業の正社員」「公務員などの正職員」の割合が一般層での割合よりも低くなっている。(図表 21)
- 世帯タイプ別にみると、ふたり親世帯に比べて母子世帯(母親がいるひとり親世帯)の場合、母親が正社員・正職員として働いている割合が高いが、パート・アルバイトとして働いている割合も約3～4割となっている。(図表 20)
- 一方、父子世帯(父親がいるひとり親世帯)では、父親が正社員・正職員として働いている割合は約8～9割であり、母子世帯に比べて高くなっている。(図表 22)
- 保護者国籍別にみると、保護者が外国籍の場合、父親が非正規雇用(契約社員、パート・アルバイト等)や自営業で働いている割合が高い。(図表 427)

(2) 考察

- 困窮層、周辺層、一般層の違いは、母親の就業状況よりも父親の就業状況との関係が強くみられる。
- 母子世帯の場合は父子世帯に比べて親が非正規雇用である割合が高く、世帯の困窮につながっていると推測される。非正規雇用で働く保護者に対する支援が必要であると考えられる。
- また、保護者が外国籍の家庭では、父親が非正規雇用など不安定な就業状況におかれている傾向がみられており、こどもへの支援を検討するうえで、世帯全体の状況を考慮する必要性がうかがえる。

8. 経済的支援制度の利用状況

(1) 結果概要

- 経済的支援制度の利用状況をみると、一般層・周辺層だけでなく、困窮層においても、多くの支援制度について「利用したいと思ったことがなかった」が一定の割合を占めている。また、困窮層、周辺層において「利用したかったが条件を満たしていなかった」や「制度等について全く知らなかった」と回答した保護者が一定数存在する。(図表 151～図表 167)
- 児童扶養手当、就学援助費については、困窮層においても「現在利用している」と「利用したことがある」を合わせた割合が3～4割となっている。(図表 153、図表 157)
- 母子・父子・寡婦福祉資金や生活福祉資金について、困窮層では一般層に比べて「制度等について全く知らなかった」という割合が高くなっている。(図表 163、図表 165)

(2) 考察

- 困窮層であっても、支援制度について「全く知らなかった」「利用したいと思ったことがなかった」という保護者が一定数存在しており、必要な家庭に支援制度が届いていない可能性がうかがえる。
- こうしたことから、支援が必要なすべての家庭に必要な情報が提供できるよう、各支援制度の情報をわかりやすく伝える方法を検討するとともに、利用しやすい制度設計を検討していく必要がある。

9. 子育て支援・相談機関の利用状況

(1) 結果概要

- こどもに関する支援制度等の情報の受け取り方法で最も割合の高いものは「学校からのお便り」。「行政の広報誌」や「学校からのメール」、「家族・友人」から情報を受け取っている割合は一般層に比べて困窮層の方が低い。(図表 191)
- 保護者国籍別にみると、保護者が外国籍の場合、行政の広報誌やSNS、家族・友人から情報を得ているという割合が低い。(図表 446)
- 公的機関の中で保護者が相談した経験があると回答した割合が最も高かった相談先は「学校や幼稚園、保育園の先生」となっている。一方、学校や幼稚園、保育園の先生に対し「相談したかったが抵抗感があった」と回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 171)
- 小中学生いずれの保護者も、スクールカウンセラーに対して「相談したかったが抵抗感があった」、「相談する窓口や方法がわからなかった」と回答した割合は一般層に比べて困窮層で高い。(図表 173)
- 世帯タイプ別にみると、中学生の保護者において、ふたり親世帯に比べてひとり親世帯では「学校や幼稚園、保育園の先生」に相談したことがある割合が低い。(図表 172)
- 保護者国籍別にみると、いずれの相談先についても、保護者が「外国籍」の場合、「相談する窓口や方法がわからなかった」を選択している割合が高くなっている。(図表 435～図表 445)
- 子育て支援サービスの中で保護者が「利用したことはないが興味がある」とする割合が特に高いのは「学校以外が実施する学習支援」「こども食堂」「フードバンク等の食料支援」であ

- り、小学生においては特に困窮層・周辺層で関心が高い。(図表 142、図表 145、図表 149)
- 子育て支援サービスに関して世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、「ひとり親(二世帯)」の場合に「放課後に過ごせる居場所」を利用したことがある割合が高い。また、ひとり親世帯の場合、「こども食堂」「フードバンク等の食料支援」を「利用したことはないが興味がある」とする割合が高い。(図表 138、図表 146、図表 150)

(2) 考察

- こどもに関する支援制度等の情報の受け取り先や、相談する先としていずれも学校が中心となっているが、困窮層やひとり親世帯ほど学校への相談に対して抵抗感を感じ、相談できていない可能性がある。
- 各支援サービスの中で、利用したことはないが興味があるという回答が多いもの(学校外の学習支援、こども食堂、フードバンク等)については、必要な人に支援が届いていない可能性があるため、提供しているサービスの過不足量や周知の方法について検討していく必要がある。
- また、保護者が外国籍である場合、両方が日本国籍の家庭に比べると情報が届きづらく、相談したくても窓口や方法がわからないという課題を抱えている可能性が高い。こうした家庭に対しては、情報提供の方法や内容について配慮をする必要がある。

10. 新型コロナウイルス感染症の影響

(1) 結果概要

- 新型コロナウイルス感染症が流行し始めた頃(2020年頃)とそれまでの変化を聞いたところ、小中学生いずれの保護者においても、「世帯全体の収入」が減ったと回答した割合や、「お金が足りなくて必要な食料や衣服を買えないこと」「保護者自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」等が増えたと回答した割合は、一般層よりも困窮層で高い。(図表 85～図表 91)
- こどもにおいては、小中学生いずれも、「学校の授業がわからないと感じること」が増えたと回答した割合は、一般層よりも困窮層で高い。(図表 382)

(2) 考察

- 新型コロナウイルス感染症による影響は特に困窮層において大きかった。困窮層の保護者は経済面・メンタル面で大きな影響を受けていた一方、こどもにおいては休校等による学習の遅れの格差が拡大していたことが推察される。

Ⅲ. 基本集計

1. 保護者アンケート集計結果

(1) 基本属性

1) お子さんからみた同居家族の続柄

小学生の「全体」では、「母親」が98.2%でもっとも割合が高く、次いで「父親」が91.7%となっている。

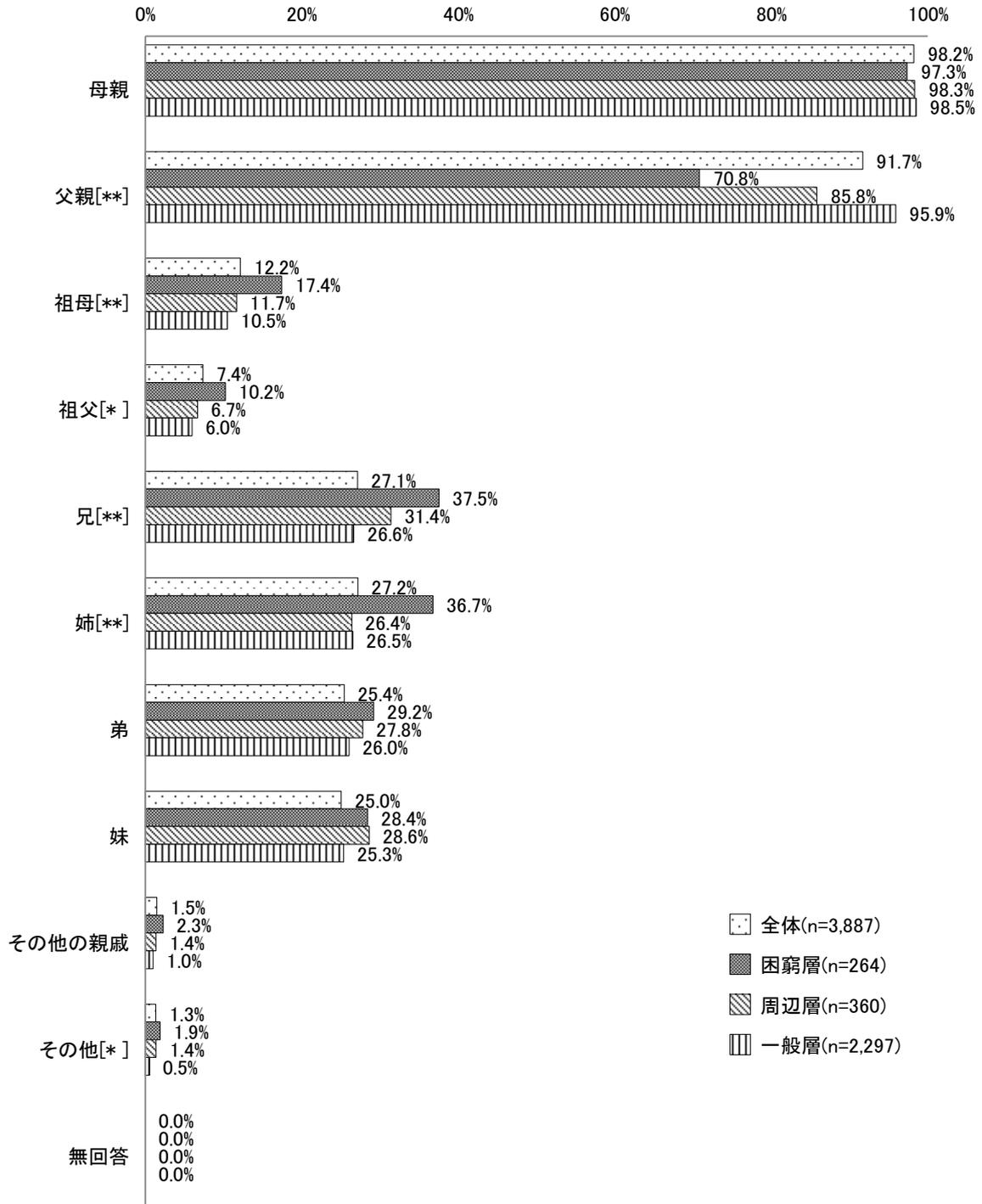
「困窮層」では、「母親」が97.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「母親」が98.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「母親」が98.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「母親」が98.0%でもっとも割合が高く、次いで「父親」が89.4%となっている。

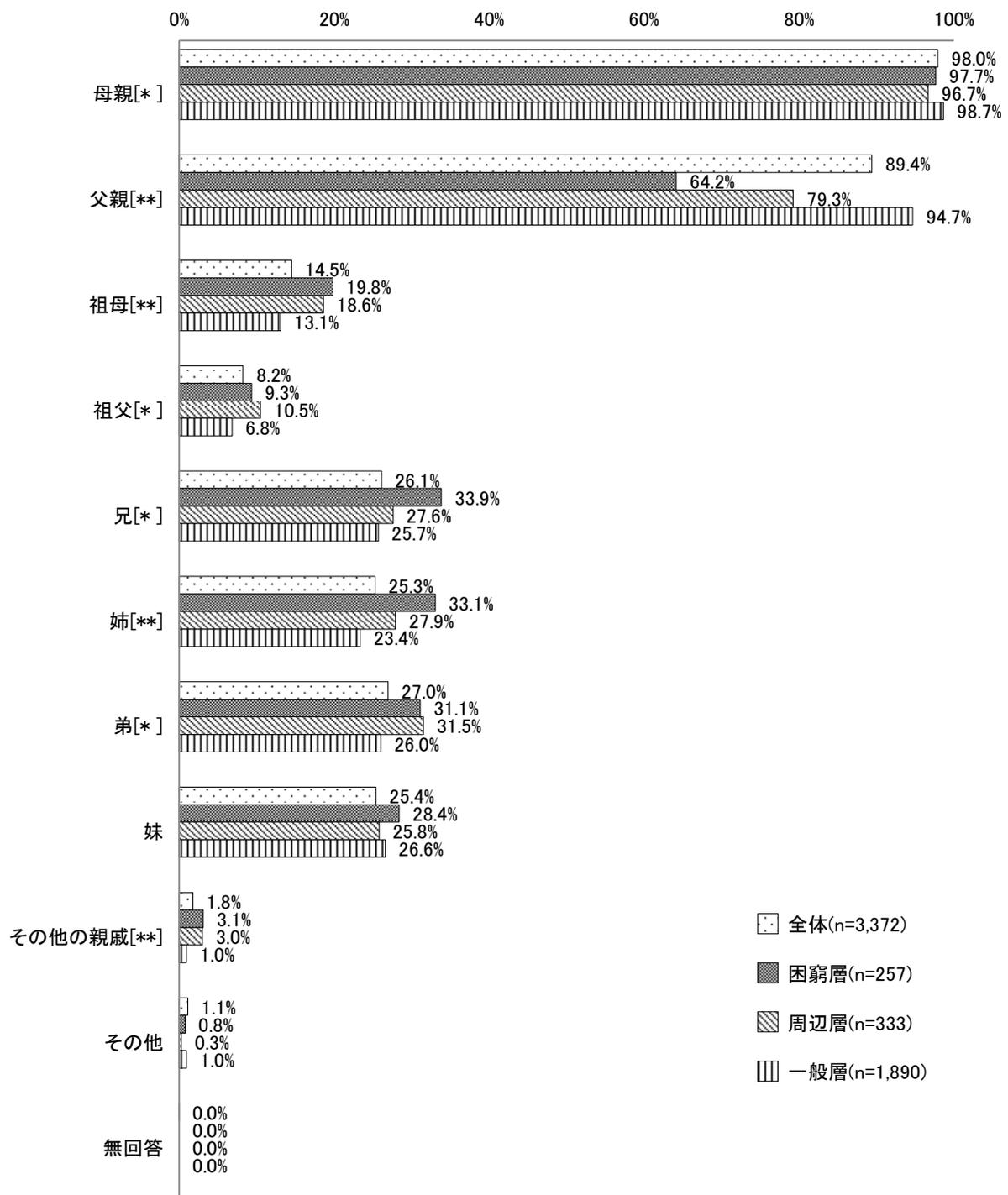
「困窮層」では、「母親」が97.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「母親」が96.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「母親」が98.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 12 お子さんからみた同居家族の続柄：複数回答（Q4）（生活困難度別）

<小学生>



< 中学生 >



2) 要介護者の有無

小学生の「全体」では、「いない」が94.6%でもっとも割合が高く、次いで「いる」が5.2%となっている。

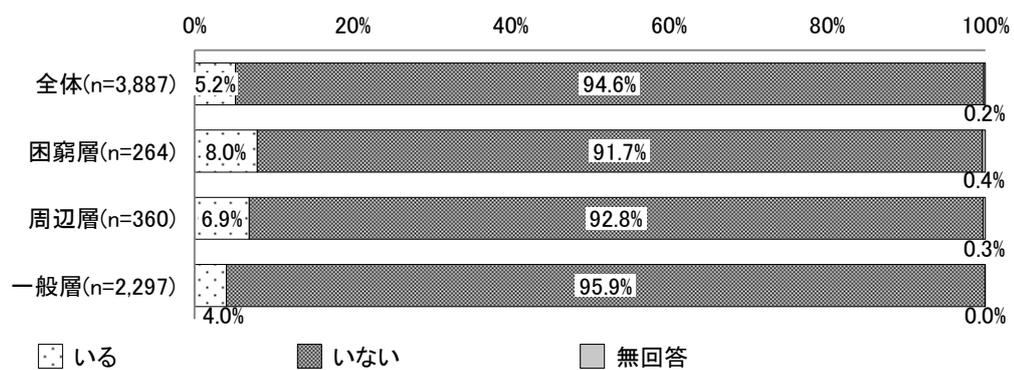
「困窮層」では、「いない」が91.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いない」が92.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いない」が95.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いない」が92.4%でもっとも割合が高く、次いで「いる」が7.3%となっている。

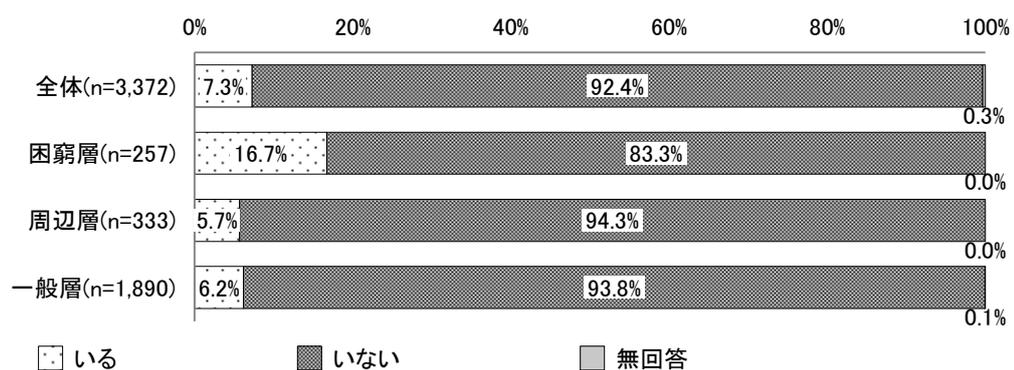
「困窮層」では、「いない」が83.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いない」が94.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いない」が93.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 13 要介護者の有無：単数回答（Q5）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



3) 親の婚姻状況

小学生の「全体」では、「結婚している」が90.5%でもっとも割合が高く、次いで「離婚」が7.4%となっている。

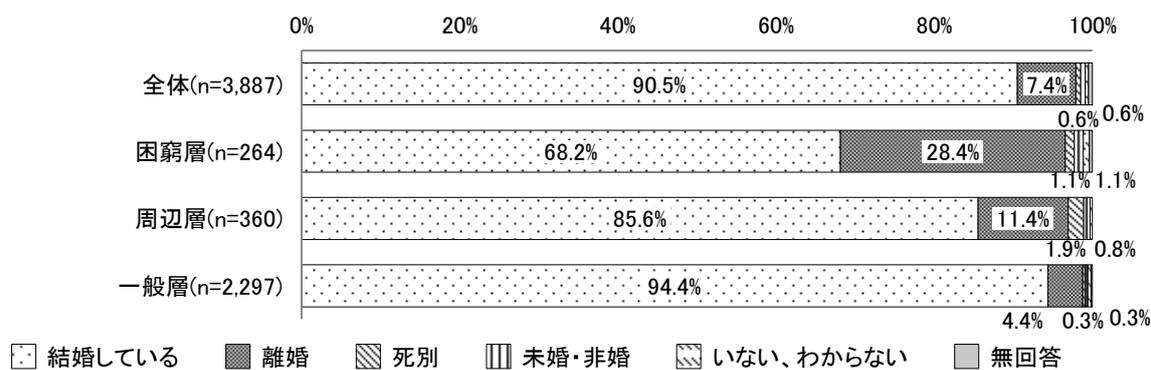
「困窮層」では、「結婚している」が68.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「結婚している」が85.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「結婚している」が94.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「結婚している」が88.6%でもっとも割合が高く、次いで「離婚」が8.8%となっている。

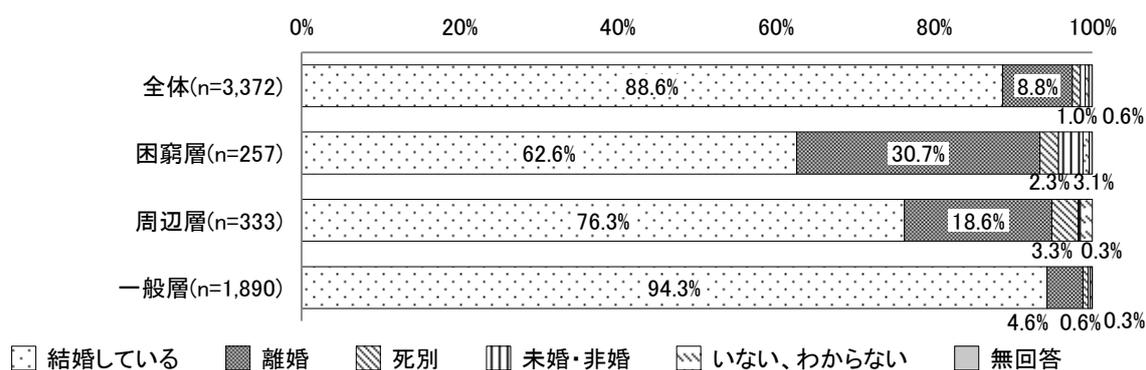
「困窮層」では、「結婚している」が62.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「結婚している」が76.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「結婚している」が94.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 14 親の婚姻状況：単数回答（Q6）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



<数値表：小学生>

	合計	Q6 親の婚姻状況					
		結婚して いる	離婚	死別	未婚・非 婚	いない、 わからない	無回答
全体	3,887	90.5	7.4	0.6	0.6	0.4	0.5
困窮層	264	68.2	28.4	1.1	1.1	0.8	0.4
周辺層	360	85.6	11.4	1.9	0.8	0.3	0.0
一般層	2,297	94.4	4.4	0.3	0.3	0.4	0.2

<数値表：中学生>

	合計	Q6 親の婚姻状況					
		結婚して いる	離婚	死別	未婚・非 婚	いない、 わからない	無回答
全体	3,372	88.6	8.8	1.0	0.6	0.4	0.4
困窮層	257	62.6	30.7	2.3	3.1	0.8	0.4
周辺層	333	76.3	18.6	3.3	0.3	1.5	0.0
一般層	1,890	94.3	4.6	0.6	0.3	0.2	0.1

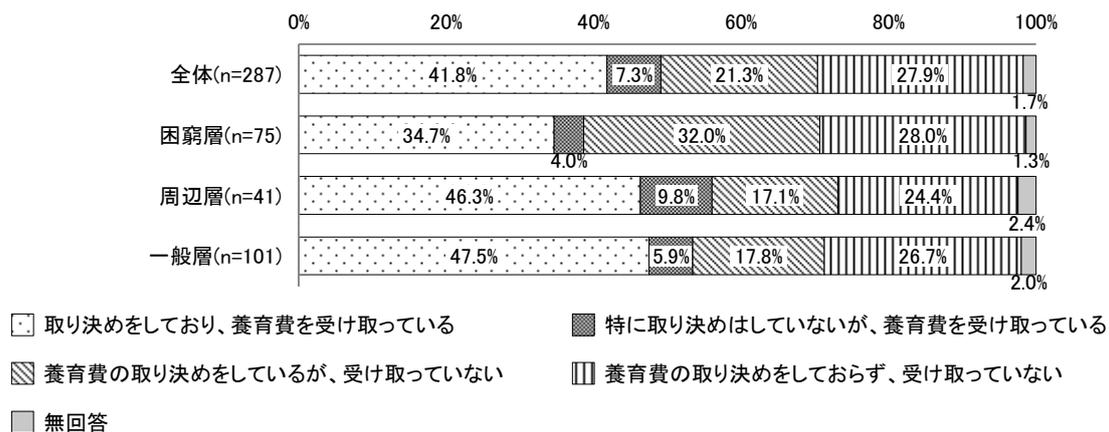
4) 養育費の取り決め状況

小学生の「全体」では、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が41.8%でもっとも割合が高く、次いで「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」が27.9%となっている。「困窮層」では、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が34.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が46.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が47.5%でもっとも割合が高くなっている。

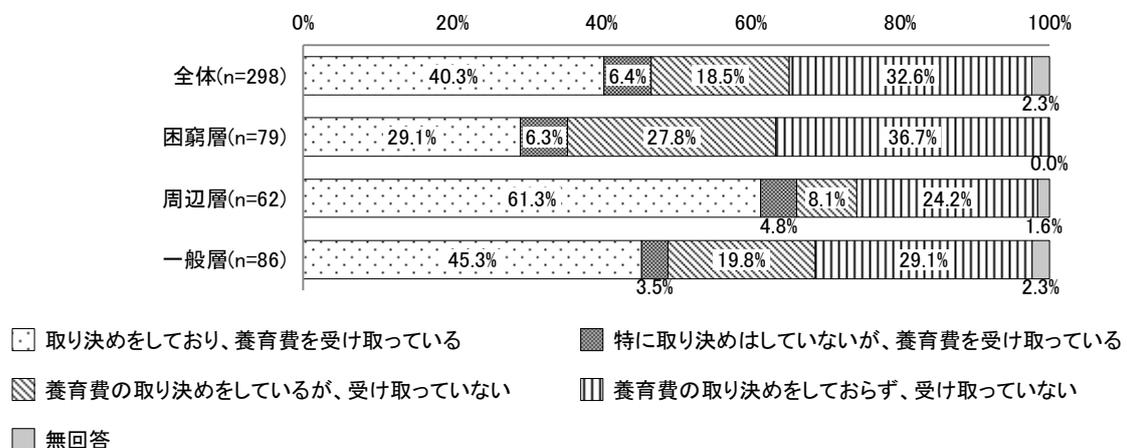
中学生の「全体」では、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が40.3%でもっとも割合が高く、次いで「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」が32.6%となっている。「困窮層」では、「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」が36.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が61.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が45.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 15 養育費の取り決め状況：単数回答 (Q7①) (生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (p<.01)



注) 対象は Q6 で「離婚」と回答した者に限定

5) 金額の満足度

小学生の「全体」では、「十分ではない」が 68.1%でもっとも割合が高く、次いで「十分である」が 29.1%となっている。

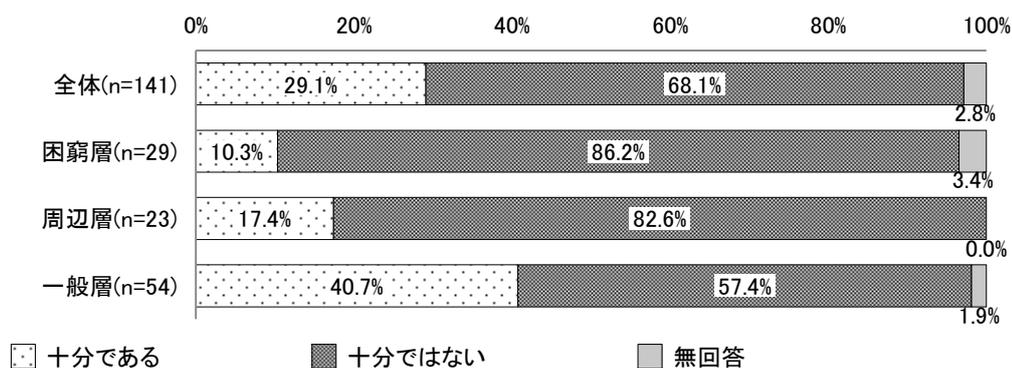
「困窮層」では、「十分ではない」が 86.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「十分ではない」が 82.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「十分ではない」が 57.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「十分ではない」が 74.1%でもっとも割合が高く、次いで「十分である」が 24.5%となっている。

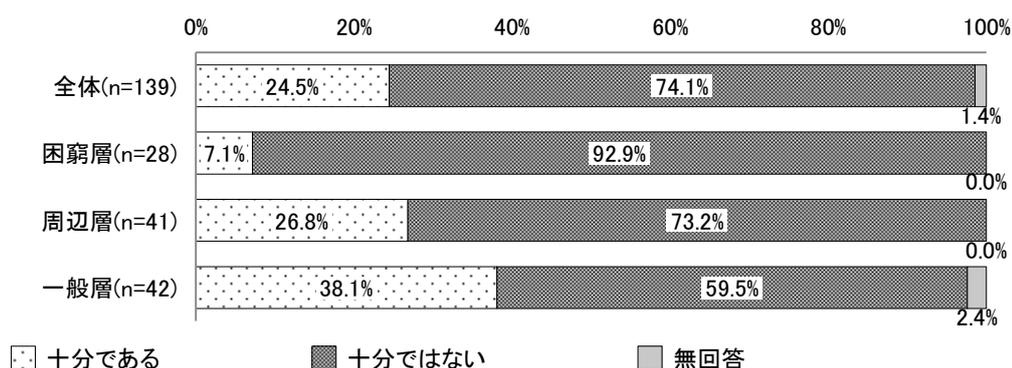
「困窮層」では、「十分ではない」が 92.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「十分ではない」が 73.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「十分ではない」が 59.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 16 金額の満足度：単数回答（Q7②）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.05)



注) 対象は Q7①で「取り決めをしており、養育費を受け取っている」「特に取り決めはしていないが、養育費を受け取っている」と回答した者に限定

6) 母親の国籍

小学生の「全体」では、「日本」が96.7%でもっとも割合が高く、次いで「日本以外」が1.9%となっている。

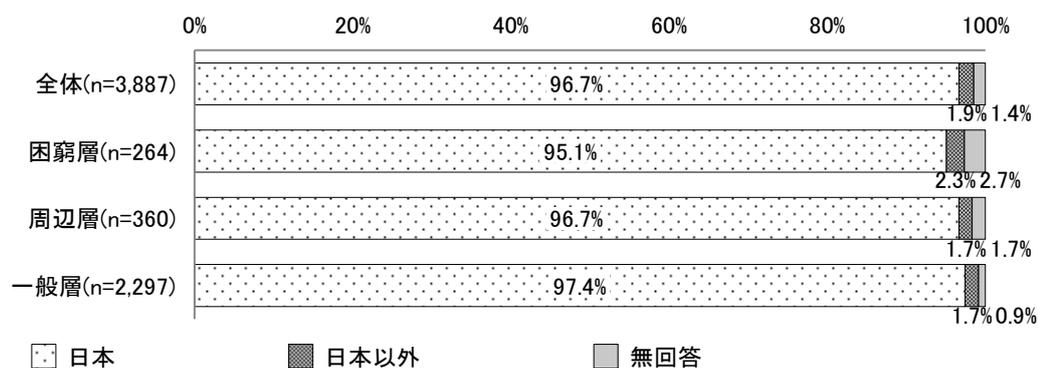
「困窮層」では、「日本」が95.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「日本」が96.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「日本」が97.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「日本」が96.9%でもっとも割合が高く、次いで「日本以外」が1.8%となっている。

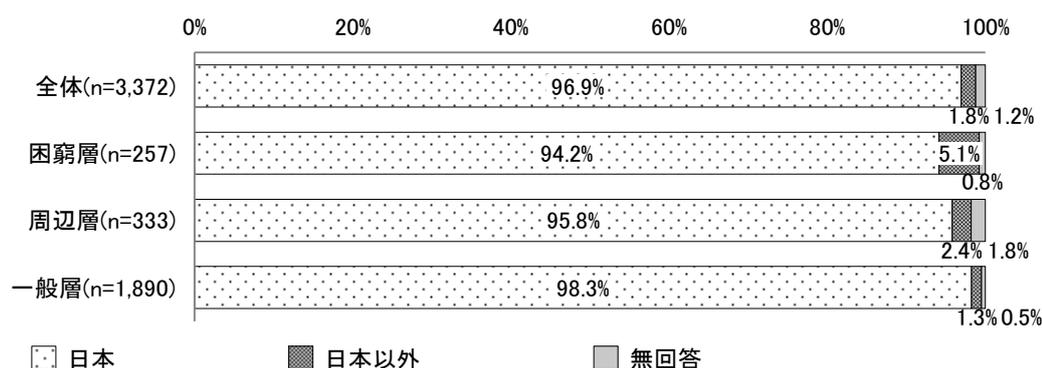
「困窮層」では、「日本」が94.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「日本」が95.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「日本」が98.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 17 母親の国籍：単数回答（Q8A）（生活困難度別1.）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（p<.01）



7) 父親の国籍

小学生の「全体」では、「日本」が95.7%でもっとも割合が高く、次いで「日本以外」が1.6%となっている。

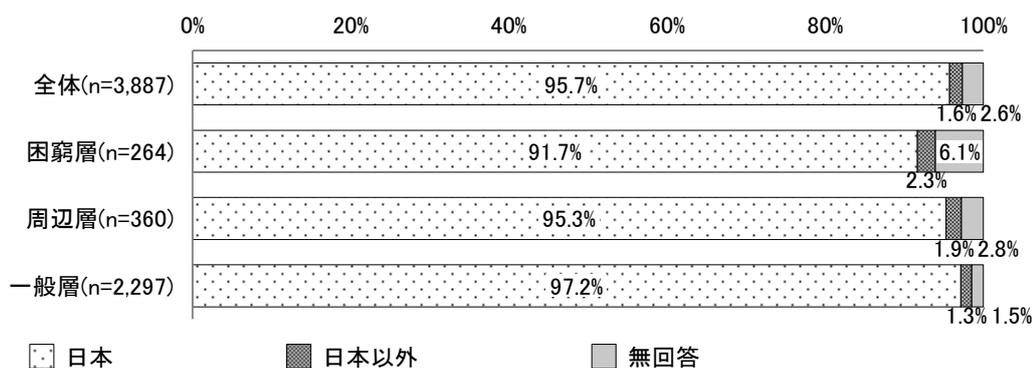
「困窮層」では、「日本」が91.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「日本」が95.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「日本」が97.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「日本」が96.1%でもっとも割合が高く、次いで「日本以外」が1.4%となっている。

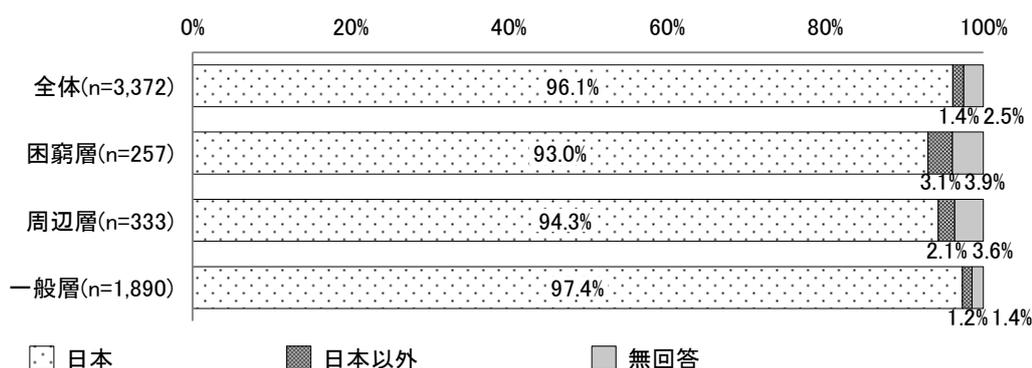
「困窮層」では、「日本」が93.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「日本」が94.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「日本」が97.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 18 父親の国籍：単数回答（Q8B）（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生> (p<.05)



(2) 保護者の就業状況・収入状況

1) 母親の就業状況

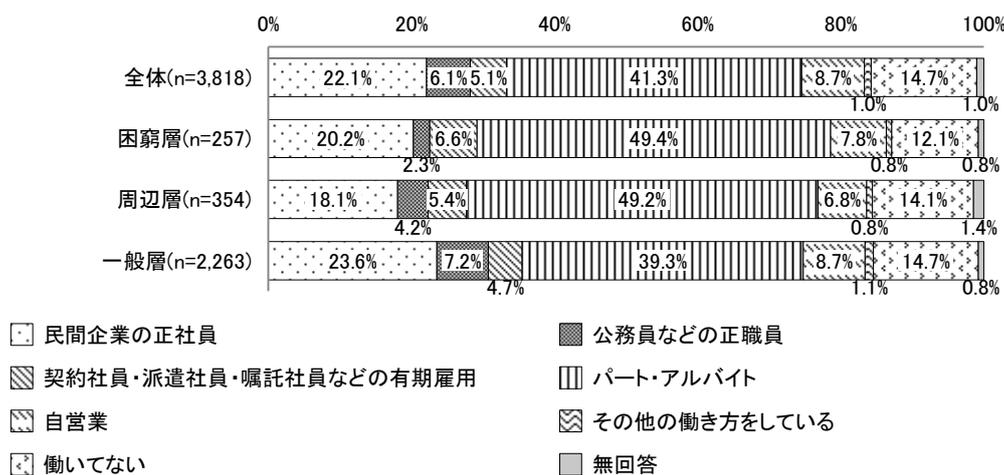
母親と同居している場合について、母親の就業状況をみると、小学生の「全体」では、「パート・アルバイト」が41.3%でもっとも割合が高く、次いで「民間企業の正社員」が22.1%となっている。「困窮層」では、「パート・アルバイト」が49.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「パート・アルバイト」が49.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「パート・アルバイト」が39.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「パート・アルバイト」が46.1%でもっとも割合が高く、次いで「民間企業の正社員」が20.0%となっている。

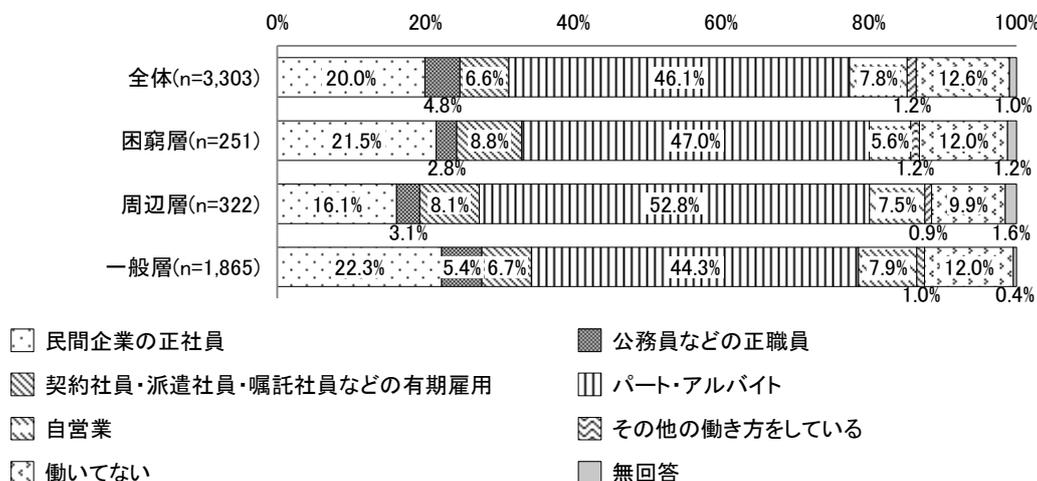
「困窮層」では、「パート・アルバイト」が47.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「パート・アルバイト」が52.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「パート・アルバイト」が44.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 19 母親の就業状況：単数回答（Q9）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)

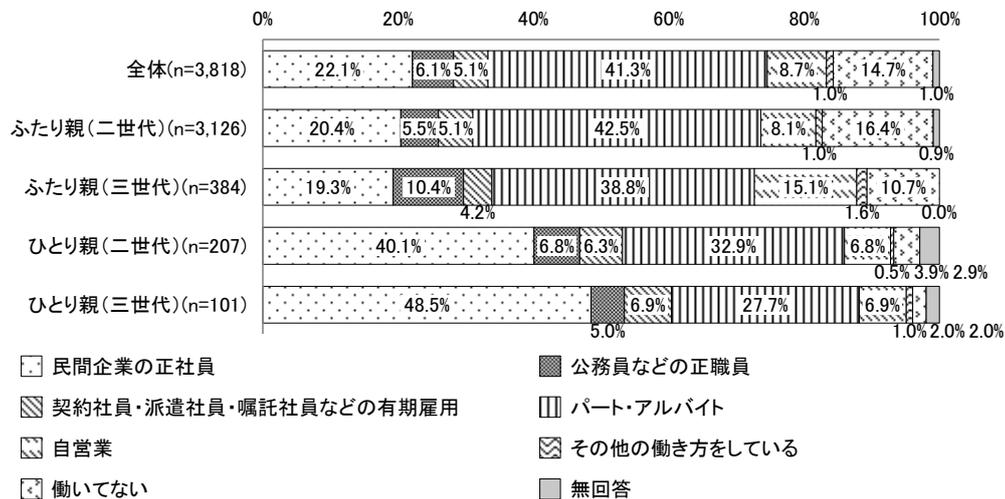


注) 対象は Q4 で「母親と同居」と回答した者に限定

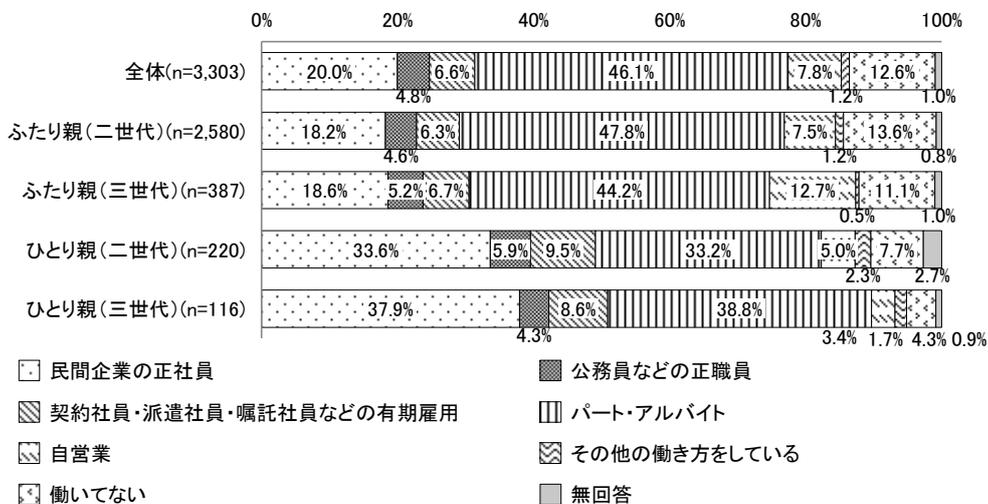
世帯タイプ別にみると、小学生・中学生ともに、「ふたり親（二世帯）」「ふたり親（三世帯）」では「パート・アルバイト」の割合が高く、「ひとり親（二世帯）」「ひとり親（三世帯）」では「民間企業の正社員」の割合が高くなっている。

図表 20 母親の就業状況：単数回答（Q9）（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



注) 対象は Q4 で「母親と同居」と回答した者に限定

2) 父親の就業状況

父親と同居している場合について、父親の就業状況をみると、小学生の「全体」では、「民間企業の正社員」が71.5%でもっとも割合が高く、次いで「自営業」が12.6%となっている。

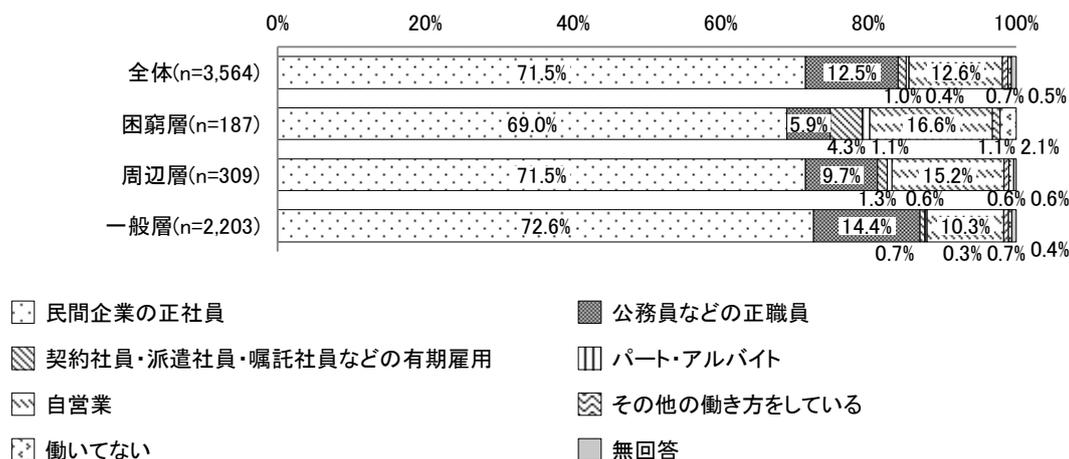
「困窮層」では、「民間企業の正社員」が69.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「民間企業の正社員」が71.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「民間企業の正社員」が72.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「民間企業の正社員」が71.9%でもっとも割合が高く、次いで「自営業」が12.4%となっている。

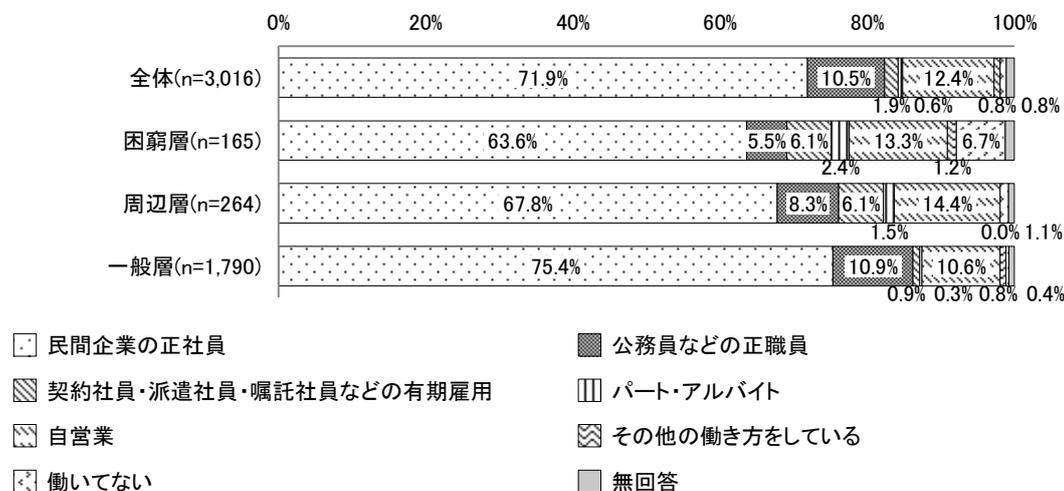
「困窮層」では、「民間企業の正社員」が63.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「民間企業の正社員」が67.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「民間企業の正社員」が75.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 21 父親の就業状況：単数回答（Q10）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



注) 対象は Q4 で「父親と同居」と回答した者に限定

<数値表：小学生>

	合計	Q10 父親の就業状況							
		民間企業 の正社員	公務員な どの正職 員	契約社 員・派遣 社員・嘱 託社員な どの有期 雇用	パート・ アルバイト	自営業	その他の 働き方を している	働いてな い	無回答
全体	3,564	71.5	12.5	1.0	0.4	12.6	0.7	0.5	0.6
困窮層	187	69.0	5.9	4.3	1.1	16.6	1.1	2.1	0.0
周辺層	309	71.5	9.7	1.3	0.6	15.2	0.6	0.6	0.3
一般層	2,203	72.6	14.4	0.7	0.3	10.3	0.7	0.4	0.6

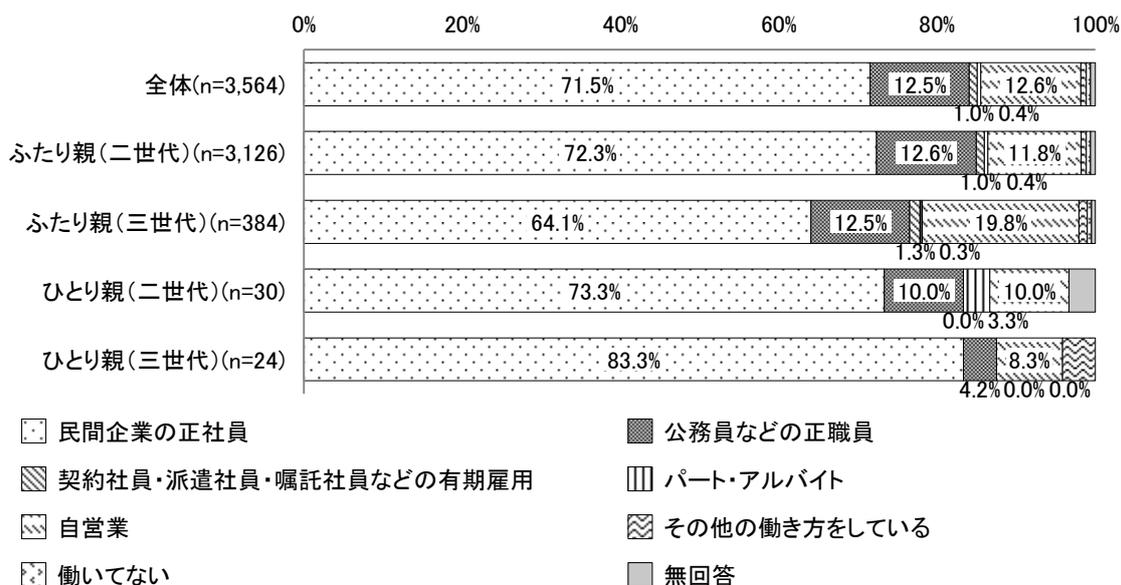
<数値表：中学生>

	合計	Q10 父親の就業状況							
		民間企業 の正社員	公務員な どの正職 員	契約社 員・派遣 社員・嘱 託社員な どの有期 雇用	パート・ アルバイト	自営業	その他の 働き方を している	働いてな い	無回答
全体	3,016	71.9	10.5	1.9	0.6	12.4	0.8	0.8	1.1
困窮層	165	63.6	5.5	6.1	2.4	13.3	1.2	6.7	1.2
周辺層	264	67.8	8.3	6.1	1.5	14.4	0.0	1.1	0.8
一般層	1,790	75.4	10.9	0.9	0.3	10.6	0.8	0.4	0.7

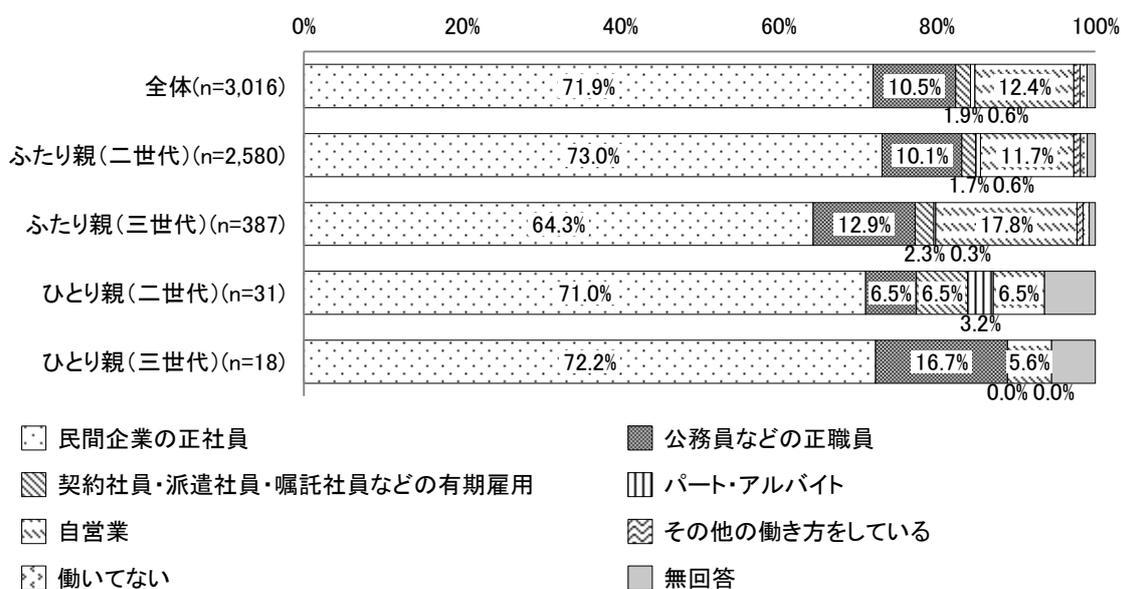
世帯タイプ別にみると、小学生・中学生ともに、「ふたり親（三世代）」では「自営業」の割合が高くなっている。

図表 22 父親の就業状況：単数回答（Q10）（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.05)



注) 対象は Q4 で「父親と同居」と回答した者に限定

<数値表：小学生>

	合計	Q10 父親の就業状況							
		民間企業の正社員	公務員などの正職員	契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用	パート・アルバイト	自営業	その他の働き方をしている	働いてない	無回答
全体	3,564	71.5	12.5	1.0	0.4	12.6	0.7	0.5	0.6
ふたり親 (二世帯)	3,126	72.3	12.6	1.0	0.4	11.8	0.6	0.5	0.6
ふたり親 (三世帯)	384	64.1	12.5	1.3	0.3	19.8	1.0	0.5	0.5
ひとり親 (二世帯)	30	73.3	10.0	0.0	3.3	10.0	0.0	0.0	3.3
ひとり親 (三世帯)	24	83.3	4.2	0.0	0.0	8.3	4.2	0.0	0.0

<数値表：中学生>

	合計	Q10 父親の就業状況							
		民間企業の正社員	公務員などの正職員	契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用	パート・アルバイト	自営業	その他の働き方をしている	働いてない	無回答
全体	3,016	71.9	10.5	1.9	0.6	12.4	0.8	0.8	1.1
ふたり親 (二世帯)	2,580	73.0	10.1	1.7	0.6	11.7	0.9	0.9	1.0
ふたり親 (三世帯)	387	64.3	12.9	2.3	0.3	17.8	0.8	0.8	0.8
ひとり親 (二世帯)	31	71.0	6.5	6.5	3.2	6.5	0.0	0.0	6.5
ひとり親 (三世帯)	18	72.2	16.7	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	5.6

3) 世帯全員の年間収入

小学生の「全体」では、「900万円以上」が26.5%でもっとも割合が高く、次いで「600～700万円未満」が13.0%となっている。

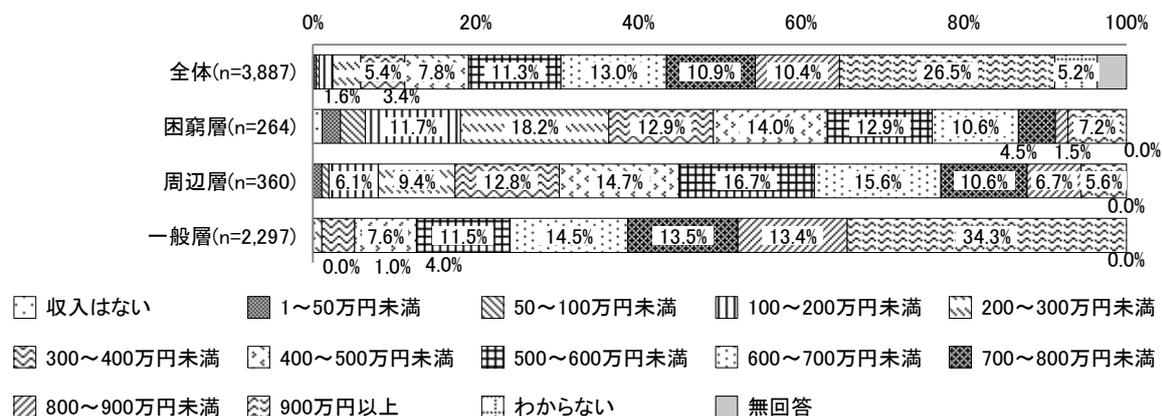
「困窮層」では、「200～300万円未満」が18.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「500～600万円未満」が16.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「900万円以上」が34.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「900万円以上」が24.6%でもっとも割合が高く、次いで「600～700万円未満」が12.2%となっている。

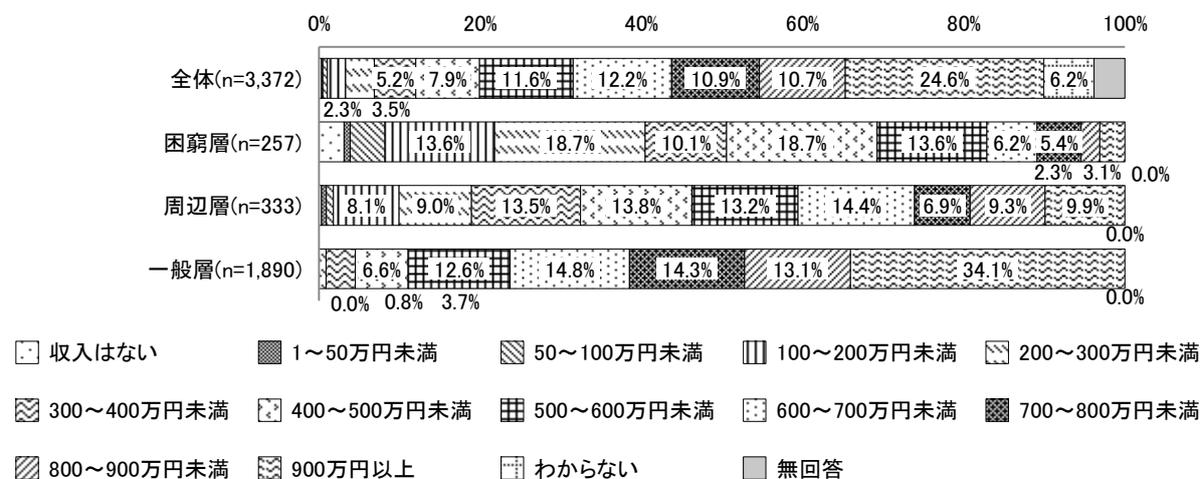
「困窮層」では、「200～300万円未満」「400～500万円未満」が18.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「600～700万円未満」が14.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「900万円以上」が34.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 23 世帯全員の年間収入：単数回答（Q11）（生活困難度別）

<小学生>（検定不可）



<中学生>（検定不可）



<数値表：小学生>

	合計	Q11 世帯全員の年間収入												わからない	無回答
		収入はない	1～50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900万円以上		
全体	3,887	0.1	0.3	0.4	1.6	3.4	5.4	7.8	11.3	13.0	10.9	10.4	26.5	5.2	3.6
困窮層	264	1.1	2.3	3.0	11.7	18.2	12.9	14.0	12.9	10.6	4.5	1.5	7.2	0.0	0.0
周辺層	360	0.0	1.1	0.8	6.1	9.4	12.8	14.7	16.7	15.6	10.6	6.7	5.6	0.0	0.0
一般層	2,297	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	4.0	7.6	11.5	14.5	13.5	13.4	34.3	0.0	0.0

<数値表：中学生>

	合計	Q11 世帯全員の年間収入												わからない	無回答
		収入はない	1～50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900万円以上		
全体	3,372	0.3	0.2	0.5	2.3	3.5	5.2	7.9	11.6	12.2	10.9	10.7	24.6	6.2	3.9
困窮層	257	3.1	0.8	4.3	13.6	18.7	10.1	18.7	13.6	6.2	5.4	2.3	3.1	0.0	0.0
周辺層	333	0.3	0.6	0.9	8.1	9.0	13.5	13.8	13.2	14.4	6.9	9.3	9.9	0.0	0.0
一般層	1,890	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	3.7	6.6	12.6	14.8	14.3	13.1	34.1	0.0	0.0

4) 母親の年間収入

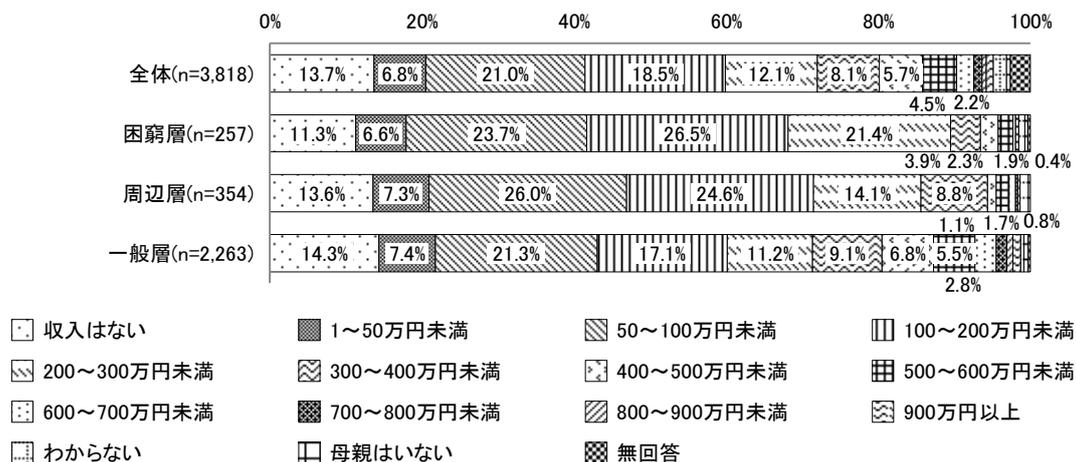
母親と同居している場合について、母親の年間収入をみると、小学生の「全体」では、「50～100万円未満」が21.0%でもっとも割合が高く、次いで「100～200万円未満」が18.5%となっている。「困窮層」では、「100～200万円未満」が26.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「50～100万円未満」が26.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「50～100万円未満」が21.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「50～100万円未満」が23.0%でもっとも割合が高く、次いで「100～200万円未満」が21.8%となっている。

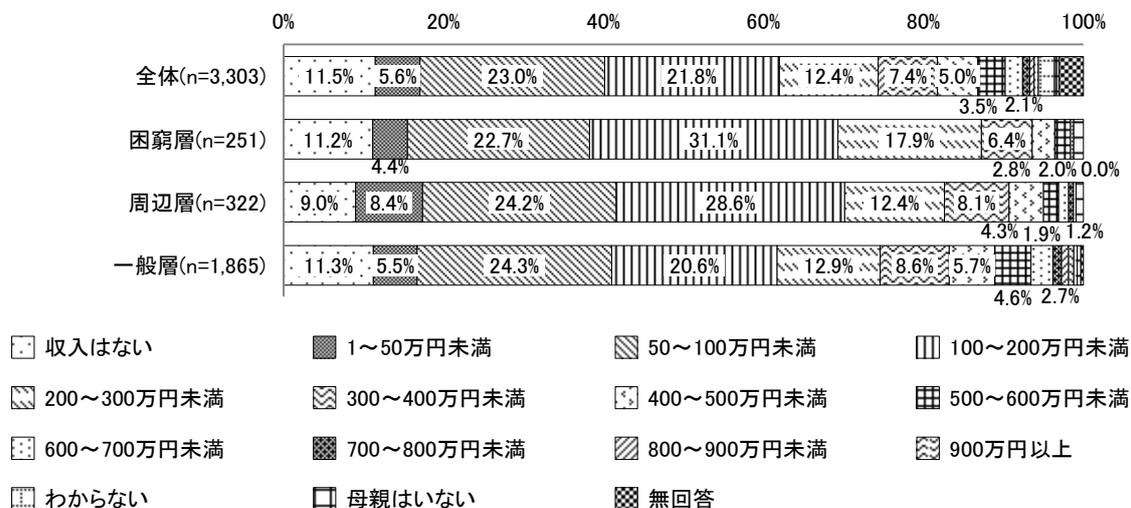
「困窮層」では、「100～200万円未満」が31.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「100～200万円未満」が28.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「50～100万円未満」が24.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 24 母親の年間収入：単数回答（Q12）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



注) 対象は Q4 で「母親と同居」と回答した者に限定

<数値表：小学生>

	合計	Q12 母親の年間収入													わからない	母親はいない	無回答
		収入はない	1~50万円未満	50~100万円未満	100~200万円未満	200~300万円未満	300~400万円未満	400~500万円未満	500~600万円未満	600~700万円未満	700~800万円未満	800~900万円未満	900万円以上				
全体	3,818	13.7	6.8	21.0	18.5	12.1	8.1	5.7	4.5	2.2	1.1	0.6	0.9	1.8	0.5	2.7	
困窮層	257	11.3	6.6	23.7	26.5	21.4	3.9	2.3	1.9	0.4	0.0	0.0	0.4	0.8	0.4	0.4	
周辺層	354	13.6	7.3	26.0	24.6	14.1	8.8	1.1	1.7	0.8	0.3	0.0	0.3	1.1	0.3	0.0	
一般層	2,263	14.3	7.4	21.3	17.1	11.2	9.1	6.8	5.5	2.8	1.4	0.8	1.1	0.4	0.6	0.3	

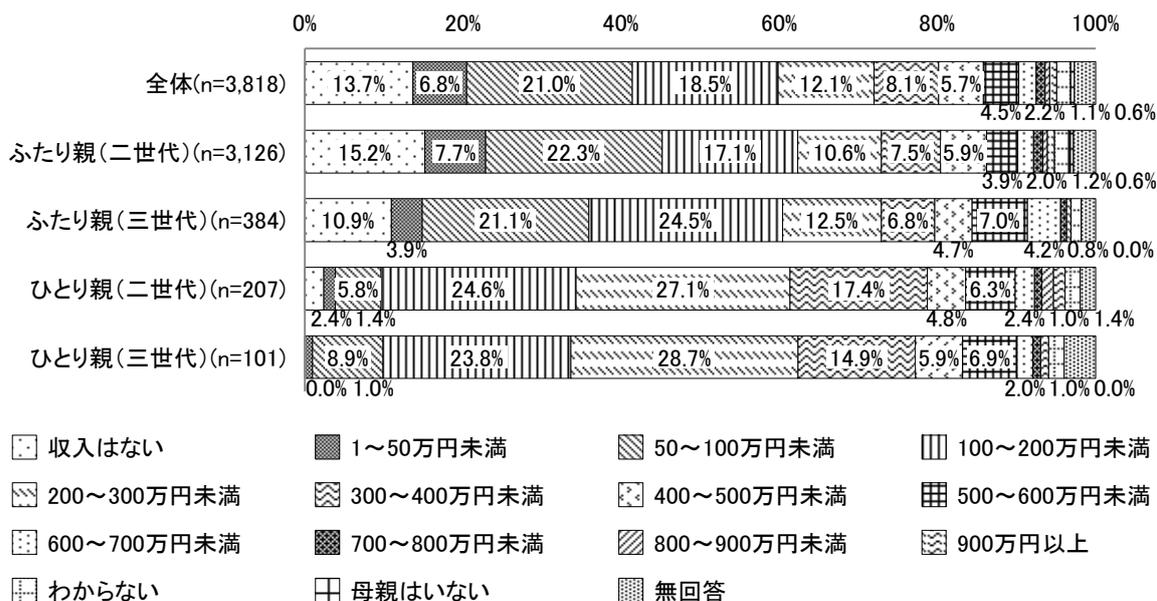
<数値表：中学生>

	合計	Q12 母親の年間収入													わからない	母親はいない	無回答
		収入はない	1~50万円未満	50~100万円未満	100~200万円未満	200~300万円未満	300~400万円未満	400~500万円未満	500~600万円未満	600~700万円未満	700~800万円未満	800~900万円未満	900万円以上				
全体	3,303	11.5	5.6	23.0	21.8	12.4	7.4	5.0	3.5	2.1	0.9	0.6	0.5	2.0	0.6	3.0	
困窮層	251	11.2	4.4	22.7	31.1	17.9	6.4	2.8	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	1.2	0.0	
周辺層	322	9.0	8.4	24.2	28.6	12.4	8.1	4.3	1.9	1.2	0.6	0.0	0.0	0.3	0.9	0.0	
一般層	1,865	11.3	5.5	24.3	20.6	12.9	8.6	5.7	4.6	2.7	1.1	0.9	0.7	0.4	0.4	0.3	

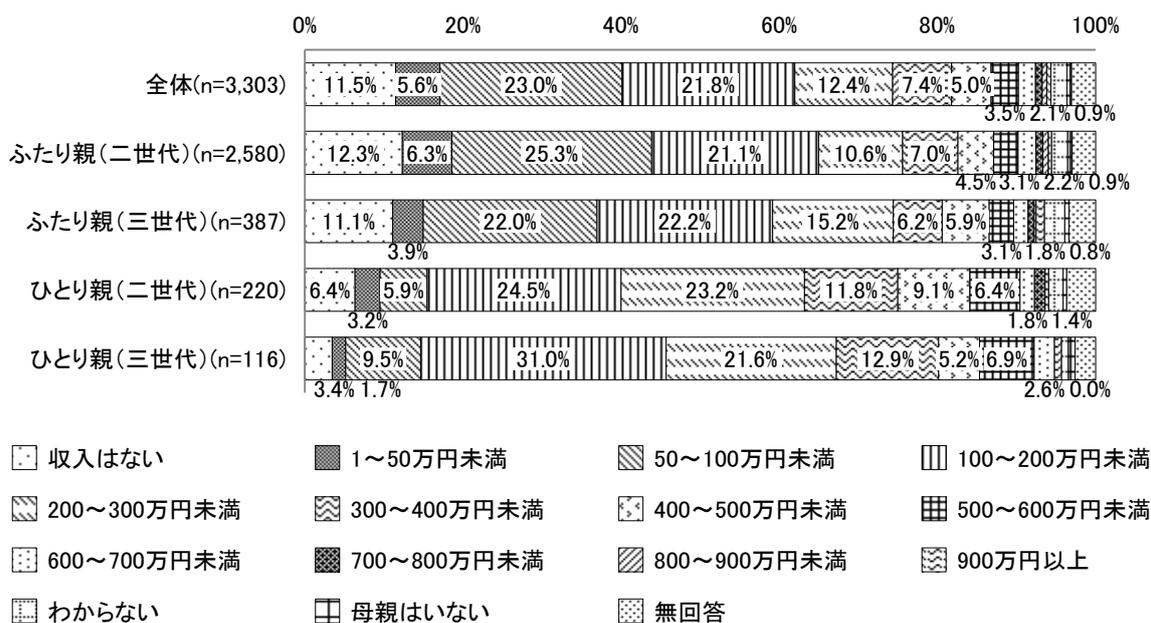
世帯タイプ別にみると、小中学生いずれも、全体に比べて「ひとり親（二世帯）」「ひとり親（三世帯）」において、「200~300万円未満」「300~400万円未満」の割合が高くなっている。

図表 25 母親の年間収入：単数回答（Q12）（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



注) 対象は Q4 で「母親と同居」と回答した者に限定

<数値表：小学生>

	合計	Q12 母親の年間収入														
		収入はない	1~50万円未満	50~100万円未満	100~200万円未満	200~300万円未満	300~400万円未満	400~500万円未満	500~600万円未満	600~700万円未満	700~800万円未満	800~900万円未満	900万円以上	わからない	母親はいない	無回答
全体	3,818	13.7	6.8	21.0	18.5	12.1	8.1	5.7	4.5	2.2	1.1	0.6	0.9	1.8	0.5	2.7
ふたり親(二世)	3,126	15.2	7.7	22.3	17.1	10.6	7.5	5.9	3.9	2.0	1.2	0.6	0.9	1.8	0.6	2.8
ふたり親(三世)	384	10.9	3.9	21.1	24.5	12.5	6.8	4.7	7.0	4.2	0.8	0.0	0.5	1.3	0.0	1.8
ひとり親(二世)	207	2.4	1.4	5.8	24.6	27.1	17.4	4.8	6.3	2.4	1.0	1.4	1.4	1.9	0.0	1.9
ひとり親(三世)	101	0.0	1.0	8.9	23.8	28.7	14.9	5.9	6.9	2.0	1.0	0.0	1.0	2.0	0.0	4.0

<数値表：中学生>

	合計	Q12 母親の年間収入														
		収入はない	1~50万円未満	50~100万円未満	100~200万円未満	200~300万円未満	300~400万円未満	400~500万円未満	500~600万円未満	600~700万円未満	700~800万円未満	800~900万円未満	900万円以上	わからない	母親はいない	無回答
全体	3,303	11.5	5.6	23.0	21.8	12.4	7.4	5.0	3.5	2.1	0.9	0.6	0.5	2.0	0.6	3.0
ふたり親(二世)	2,580	12.3	6.3	25.3	21.1	10.6	7.0	4.5	3.1	2.2	0.9	0.7	0.4	2.0	0.6	2.9
ふたり親(三世)	387	11.1	3.9	22.0	22.2	15.2	6.2	5.9	3.1	1.8	0.8	0.3	1.0	2.6	0.5	3.4
ひとり親(二世)	220	6.4	3.2	5.9	24.5	23.2	11.8	9.1	6.4	1.8	1.4	0.0	0.5	1.8	0.5	3.6
ひとり親(三世)	116	3.4	1.7	9.5	31.0	21.6	12.9	5.2	6.9	2.6	0.0	0.0	0.9	0.9	0.9	2.6

5) 父親の年間収入

父親と同居している場合について、父親の年間収入をみると、小学生の「全体」では、「500～600万円未満」が16.1%でもっとも割合が高く、次いで「900万円以上」が14.0%となっている。

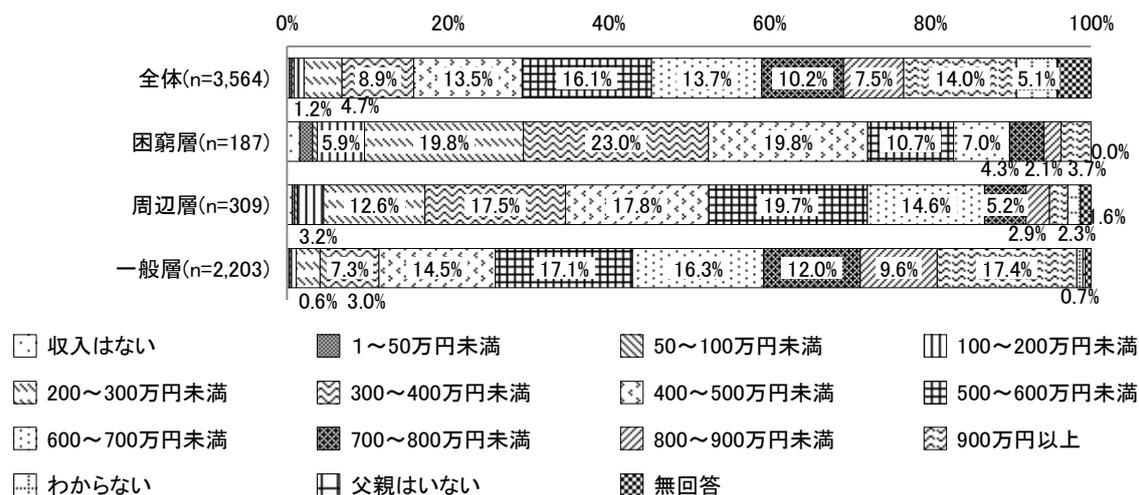
「困窮層」では、「300～400万円未満」が23.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「500～600万円未満」が19.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「900万円以上」が17.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「500～600万円未満」が15.8%でもっとも割合が高く、次いで「400～500万円未満」が14.2%となっている。

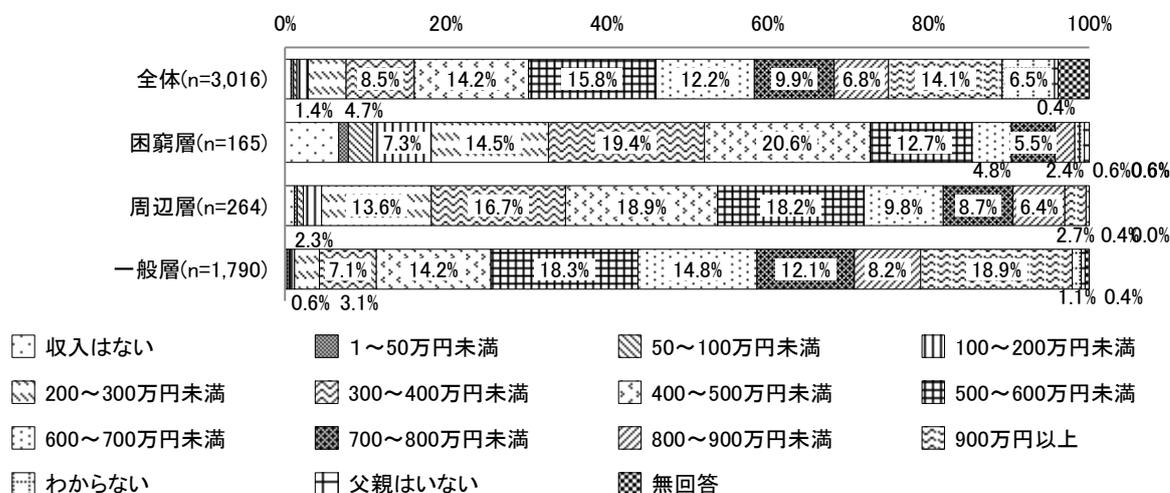
「困窮層」では、「400～500万円未満」が20.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「400～500万円未満」が18.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「900万円以上」が18.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 26 父親の年間収入：単数回答（Q13）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



注) 対象は Q4 で「父親と同居」と回答した者に限定

<数値表：小学生>

	合計	Q13 父親の年間収入													わからない	父親はいない	無回答
		収入はない	1～50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900万円以上				
全体	3,564	0.3	0.3	0.3	1.2	4.7	8.9	13.5	16.1	13.7	10.2	7.5	14.0	5.1	0.2	4.1	
困窮層	187	1.6	1.6	0.5	5.9	19.8	23.0	19.8	10.7	7.0	4.3	2.1	3.7	0.0	0.0	0.0	
周辺層	309	0.6	0.3	0.3	3.2	12.6	17.5	17.8	19.7	14.6	5.2	2.9	2.3	1.6	0.0	1.3	
一般層	2,203	0.2	0.1	0.2	0.6	3.0	7.3	14.5	17.1	16.3	12.0	9.6	17.4	0.7	0.3	0.8	

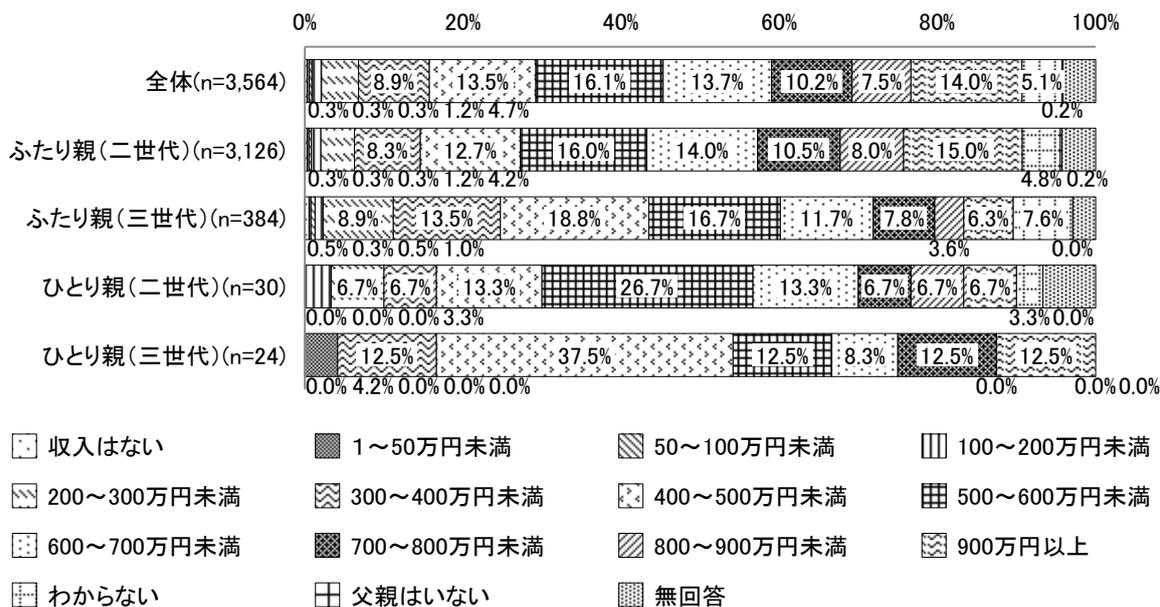
<数値表：中学生>

	合計	Q13 父親の年間収入													わからない	父親はいない	無回答
		収入はない	1～50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900万円以上				
全体	3,016	0.7	0.3	0.4	1.4	4.7	8.5	14.2	15.8	12.2	9.9	6.8	14.1	6.5	0.4	3.9	
困窮層	165	6.7	1.2	3.0	7.3	14.5	19.4	20.6	12.7	4.8	5.5	2.4	0.6	0.6	0.6	0.0	
周辺層	264	1.1	0.4	0.8	2.3	13.6	16.7	18.9	18.2	9.8	8.7	6.4	2.7	0.4	0.0	0.0	
一般層	1,790	0.2	0.3	0.1	0.6	3.1	7.1	14.2	18.3	14.8	12.1	8.2	18.9	1.1	0.4	0.6	

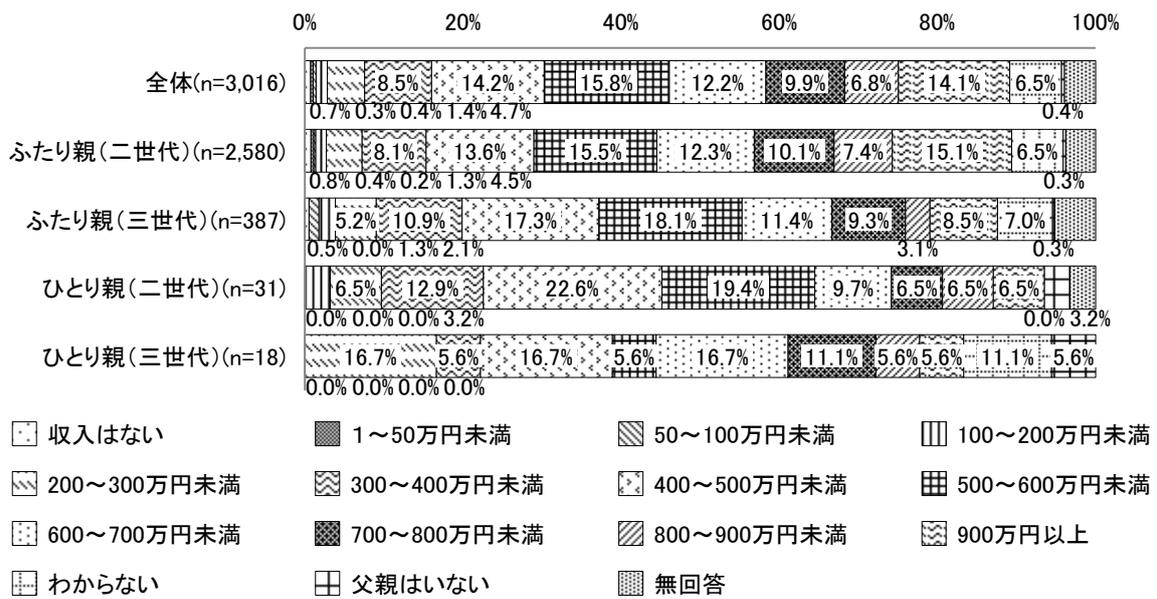
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世帯）」において、「500～600万円」の割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世帯）」において、「400～500万円」の割合が高くなっている。

図表 27 父親の年間収入：単数回答（Q13）（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



注) 対象は Q4 で「父親と同居」と回答した者に限定

(3) 暮らしの状況

1) 暮らしの状況

小学生の「全体」では、「普通」が 49.3%でもっとも割合が高く、次いで「やや苦しい」が 27.1%となっている。

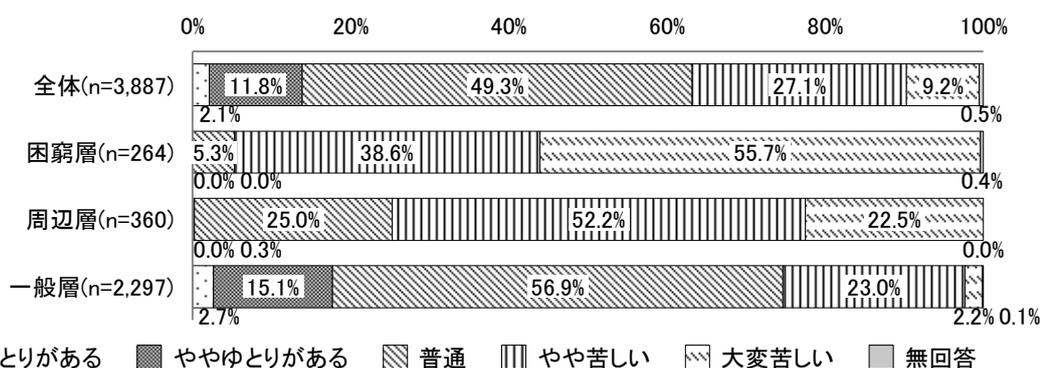
「困窮層」では、「大変苦しい」が 55.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「やや苦しい」が 52.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「普通」が 56.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「普通」が 48.3%でもっとも割合が高く、次いで「やや苦しい」が 29.1%となっている。

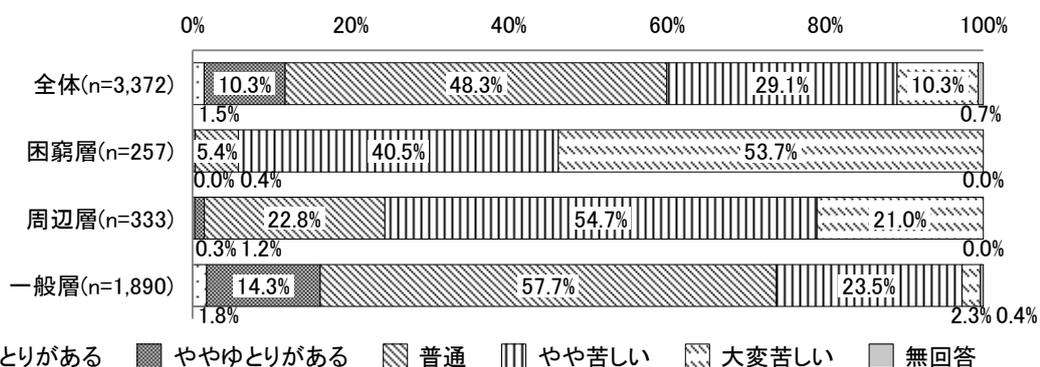
「困窮層」では、「大変苦しい」が 53.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「やや苦しい」が 54.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「普通」が 57.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 28 暮らしの状況：単数回答（Q14）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



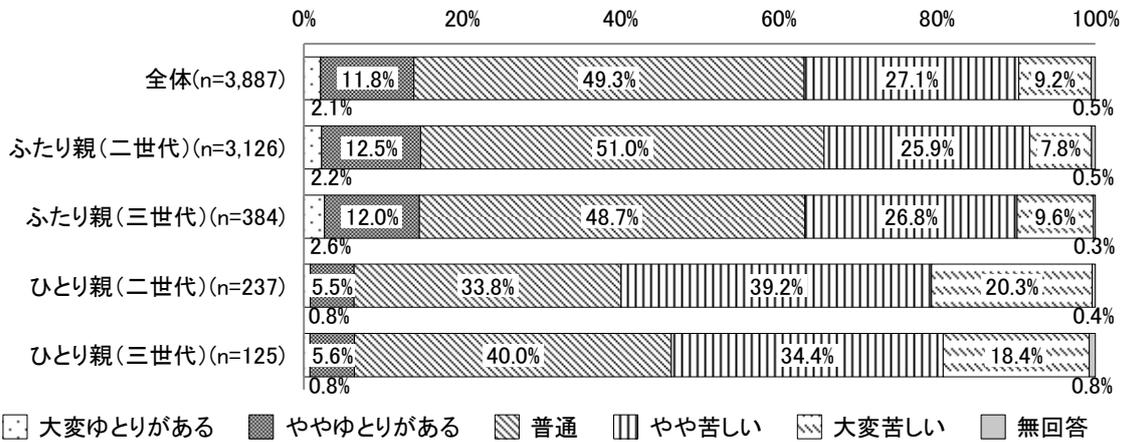
<中学生> (p<.01)



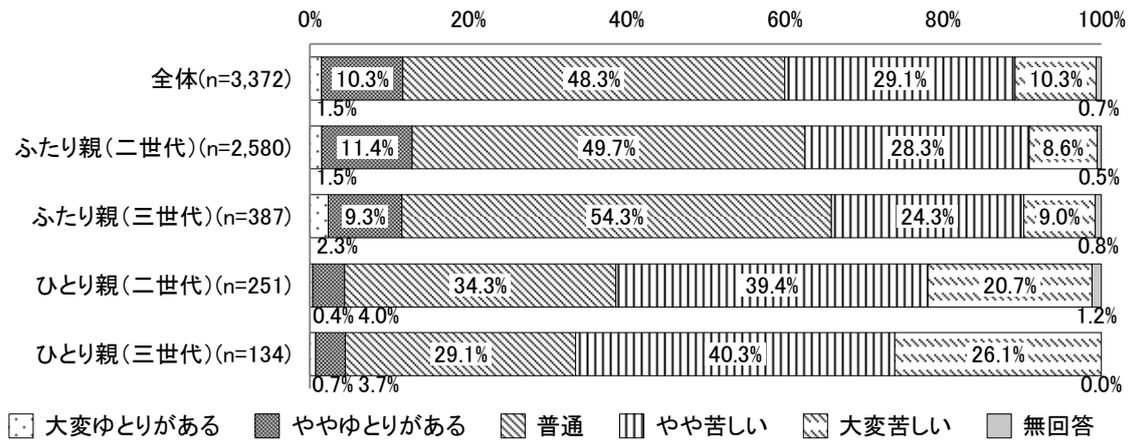
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世帯）」「ひとり親（三世帯）」では、「やや苦しい」「大変苦しい」とする割合が高くなっている。

図表 29 暮らしの状況：単数回答（Q14）（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



2) 金銭不足で買えない食料

小学生の「全体」では、「まったくなかった」が82.8%でもっとも割合が高く、次いで「まれにあった」が9.3%となっている。

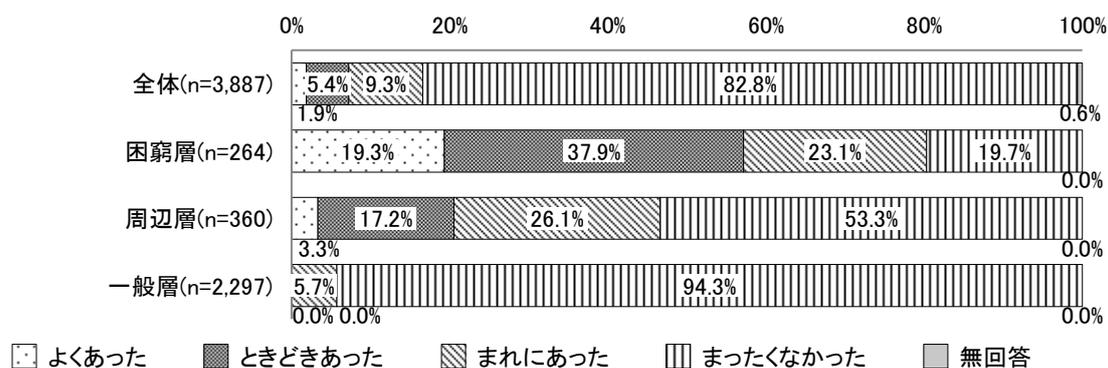
「困窮層」では、「ときどきあった」が37.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「まったくなかった」が53.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「まったくなかった」が94.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「まったくなかった」が82.5%でもっとも割合が高く、次いで「まれにあった」が9.2%となっている。

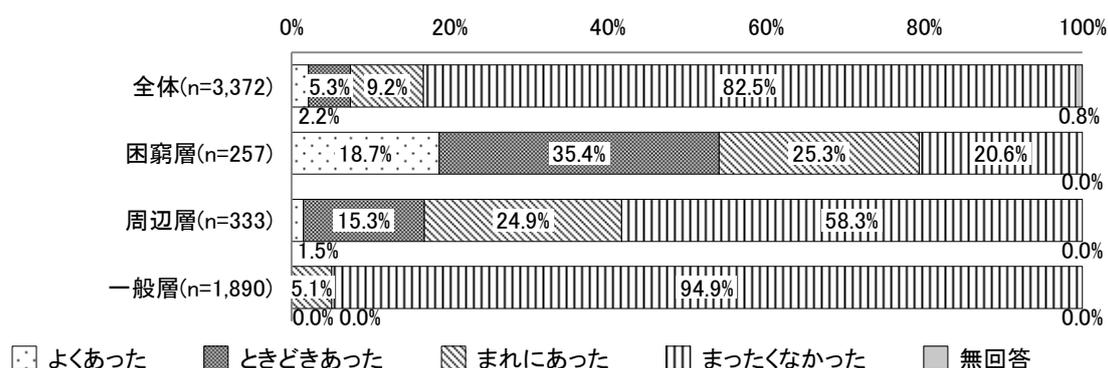
「困窮層」では、「ときどきあった」が35.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「まったくなかった」が58.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「まったくなかった」が94.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 30 金銭不足で買えない食料：単数回答（Q15A）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



3) 金銭不足で買えない衣類

小学生の「全体」では、「まったくなかった」が77.5%でもっとも割合が高く、次いで「まれにあった」が12.2%となっている。

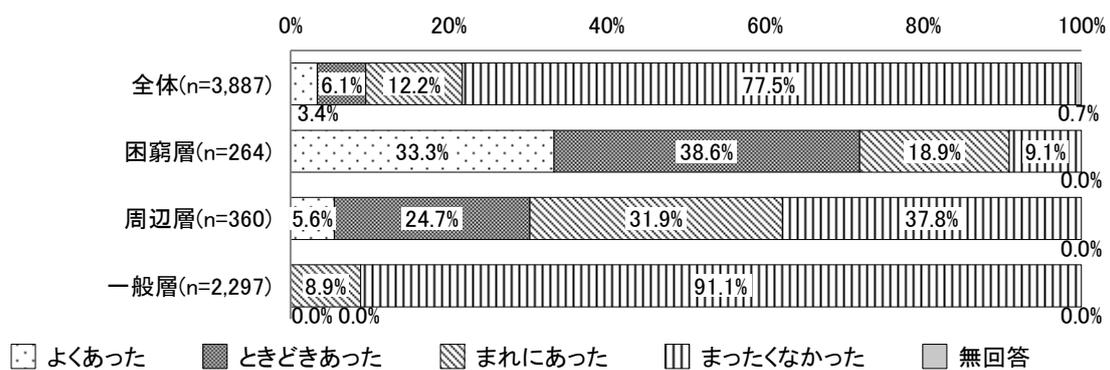
「困窮層」では、「ときどきあった」が38.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「まったくなかった」が37.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「まったくなかった」が91.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「まったくなかった」が76.7%でもっとも割合が高く、次いで「まれにあった」が12.1%となっている。

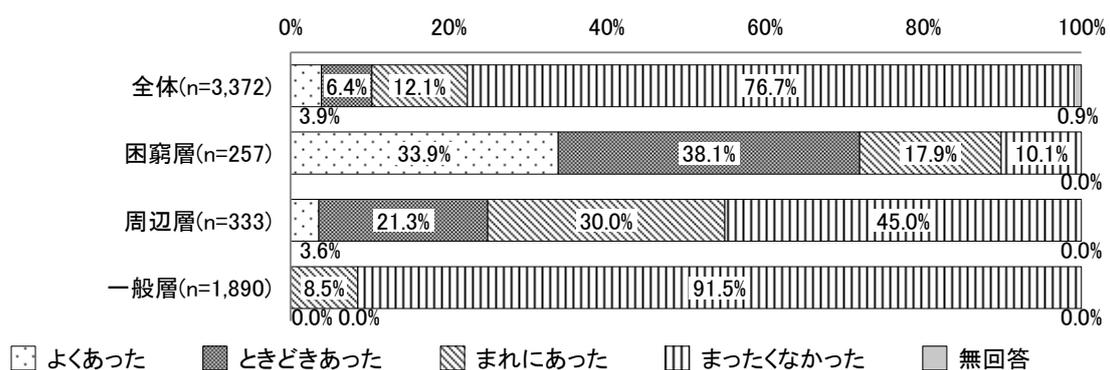
「困窮層」では、「ときどきあった」が38.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「まったくなかった」が45.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「まったくなかった」が91.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 31 金銭不足で買えない衣類：単数回答（Q15B）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



4) 期限内に支払えないこと_電話料金

小学生の「全体」では、「なかった」が88.3%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が7.4%となっている。

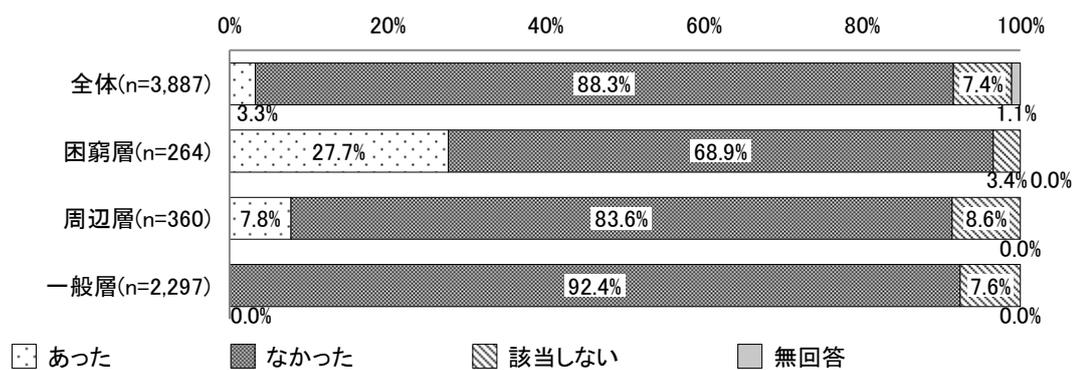
「困窮層」では、「なかった」が68.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が83.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が92.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が87.2%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が7.7%となっている。

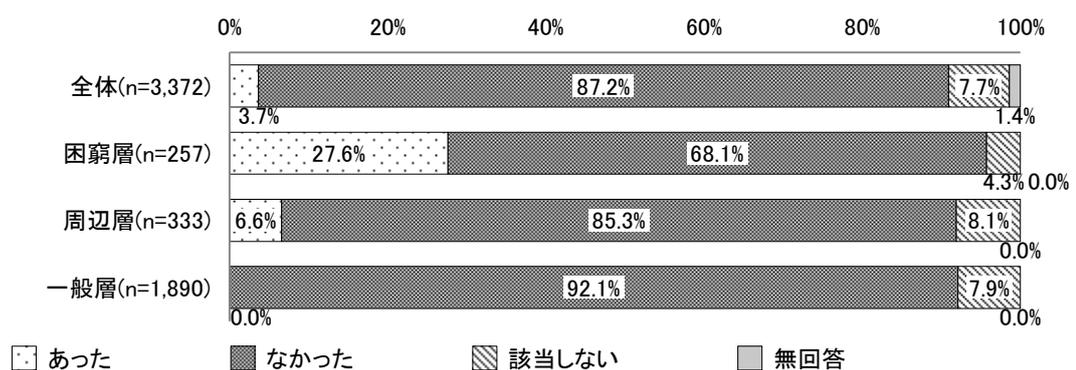
「困窮層」では、「なかった」が68.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が85.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が92.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 32 期限内に支払えないこと_電話料金：単数回答（Q16A）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



5) 期限内に支払えないこと_電気料金

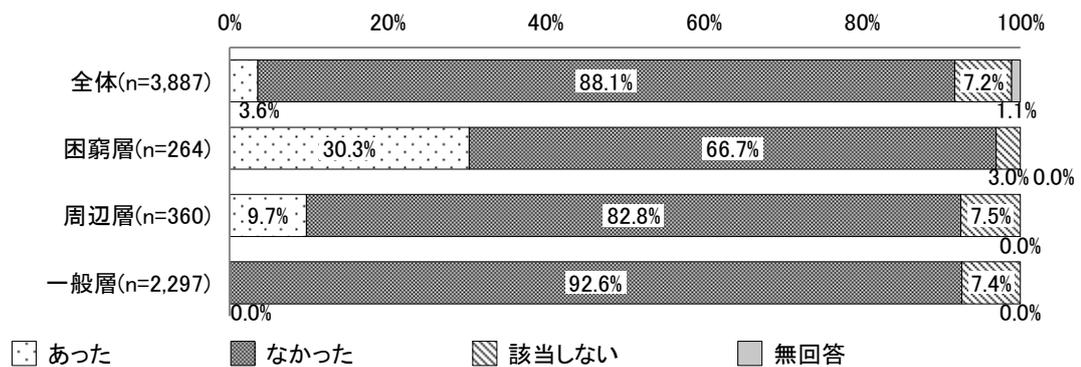
小学生の「全体」では、「なかった」が88.1%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が7.2%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が66.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が82.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が92.6%でもっとも割合が高くなっている。

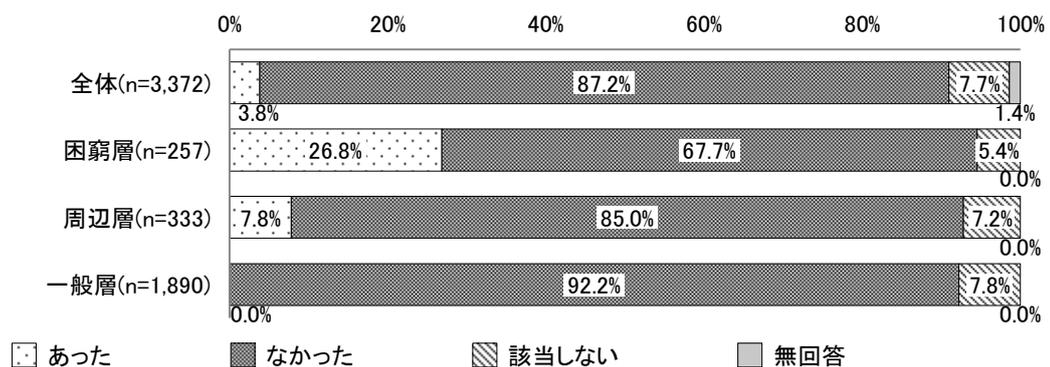
中学生の「全体」では、「なかった」が87.2%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が7.7%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が67.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が85.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が92.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 33 期限内に支払えないこと_電気料金：単数回答（Q16B）（生活困難度別）
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



6) 期限内に支払えないこと_ガス料金

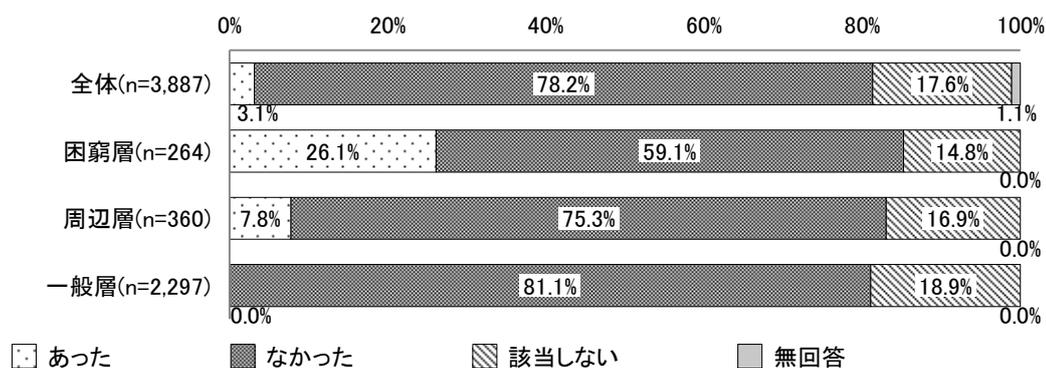
小学生の「全体」では、「なかった」が78.2%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が17.6%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が59.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が75.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が81.1%でもっとも割合が高くなっている。

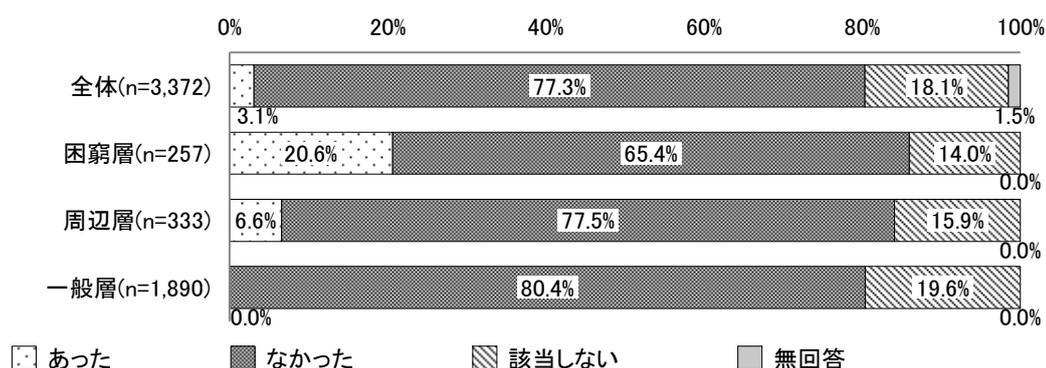
中学生の「全体」では、「なかった」が77.3%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が18.1%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が65.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が77.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が80.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 34 期限内に支払えないこと_ガス料金：単数回答（Q16C）（生活困難度別）
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



7) 期限内に支払えないこと_水道料金

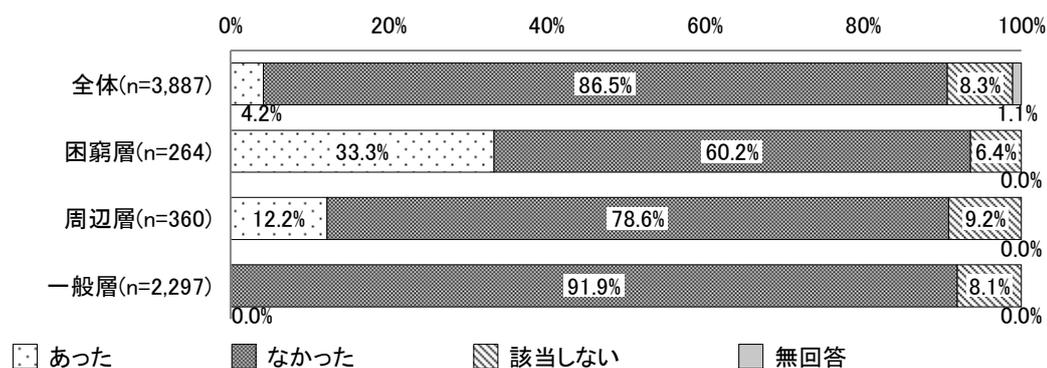
小学生の「全体」では、「なかった」が86.5%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が8.3%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が60.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が78.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が91.9%でもっとも割合が高くなっている。

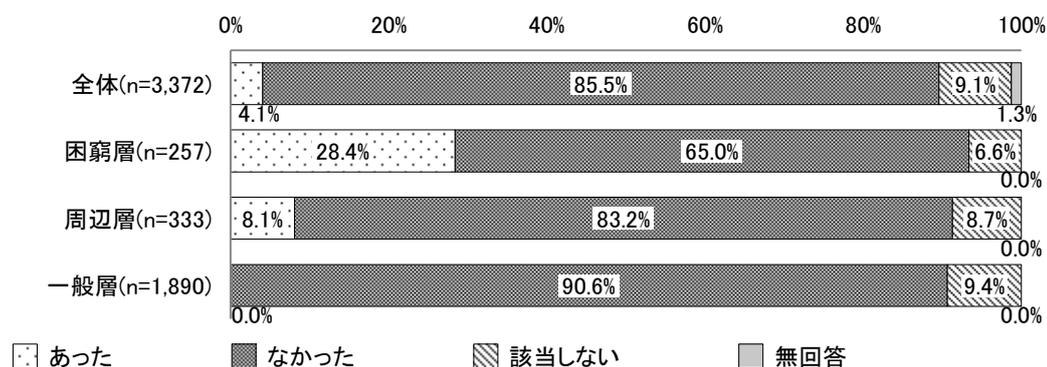
中学生の「全体」では、「なかった」が85.5%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が9.1%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が65.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が83.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が90.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 35 期限内に支払えないこと_水道料金：単数回答（Q16D）（生活困難度別）
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



8) 期限内に支払えないこと_家賃

小学生の「全体」では、「なかった」が59.1%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が37.3%となっている。

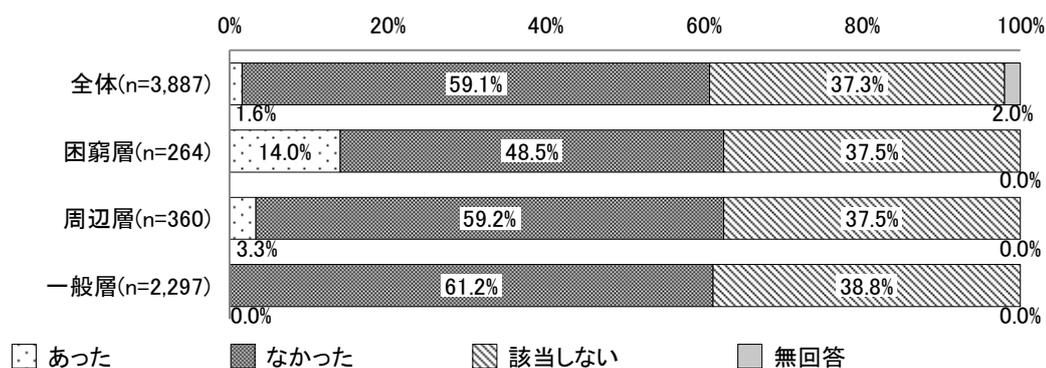
「困窮層」では、「なかった」が48.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が59.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が61.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が56.4%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が39.1%となっている。

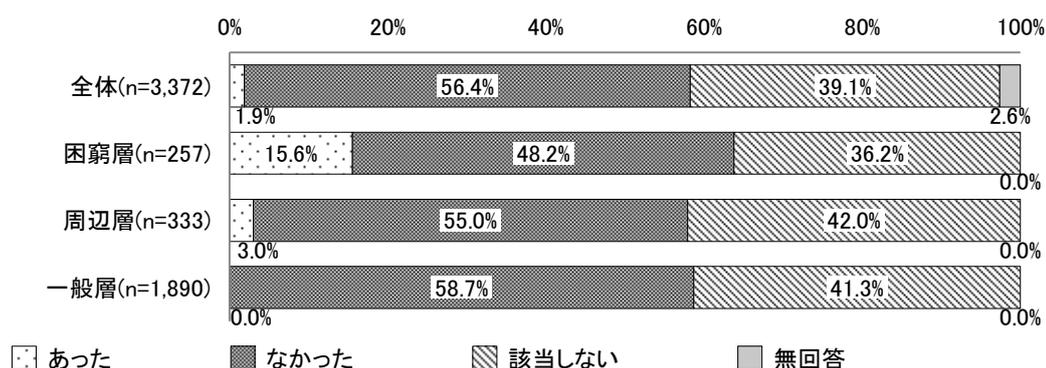
「困窮層」では、「なかった」が48.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が55.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が58.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 36 期限内に支払えないこと_家賃：単数回答（Q16E）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



9) 期限内に支払えないこと_住宅ローン

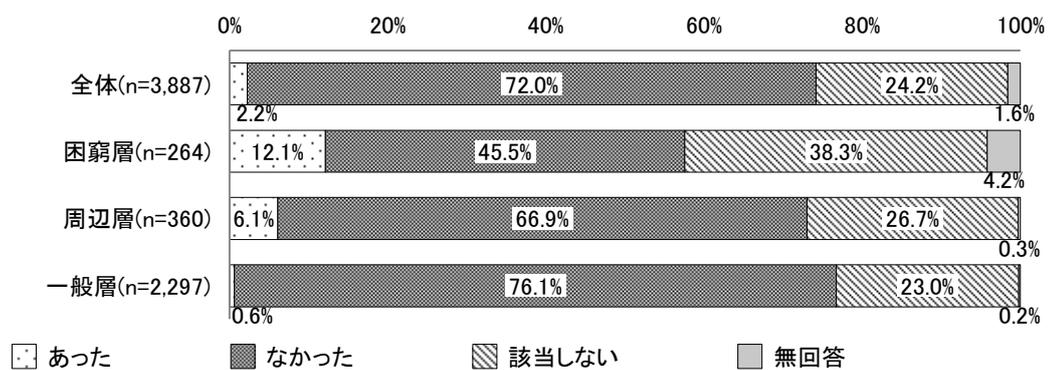
小学生の「全体」では、「なかった」が72.0%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が24.2%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が45.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が66.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が76.1%でもっとも割合が高くなっている。

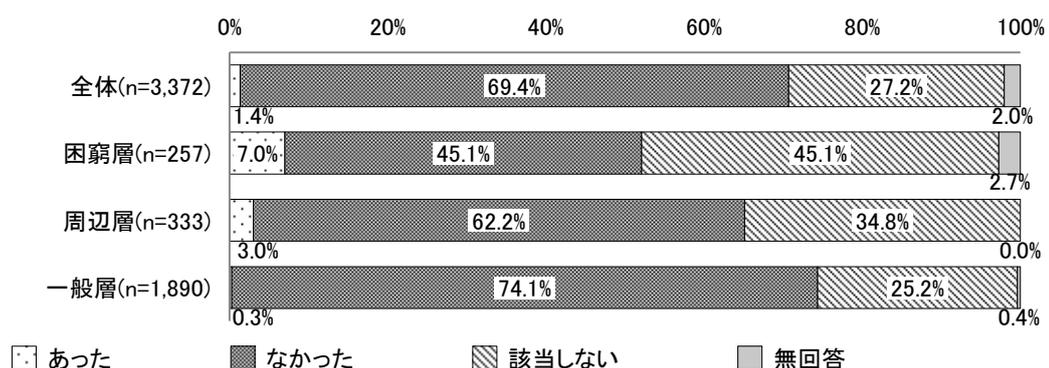
中学生の「全体」では、「なかった」が69.4%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が27.2%となっている。

「困窮層」では、「なかった」「該当しない」が45.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が62.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が74.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 37 期限内に支払えないこと_住宅ローン：単数回答（Q16F）（生活困難度別）
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



10) 期限内に支払えないこと_公的医療保険

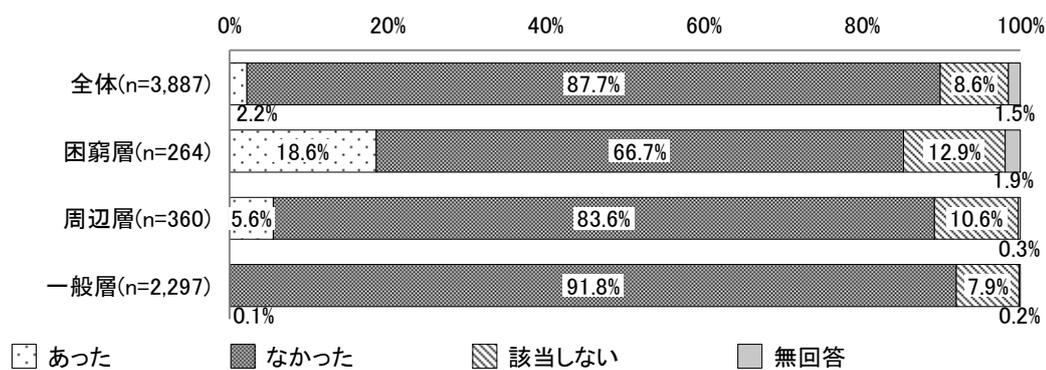
小学生の「全体」では、「なかった」が87.7%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が8.6%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が66.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が83.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が91.8%でもっとも割合が高くなっている。

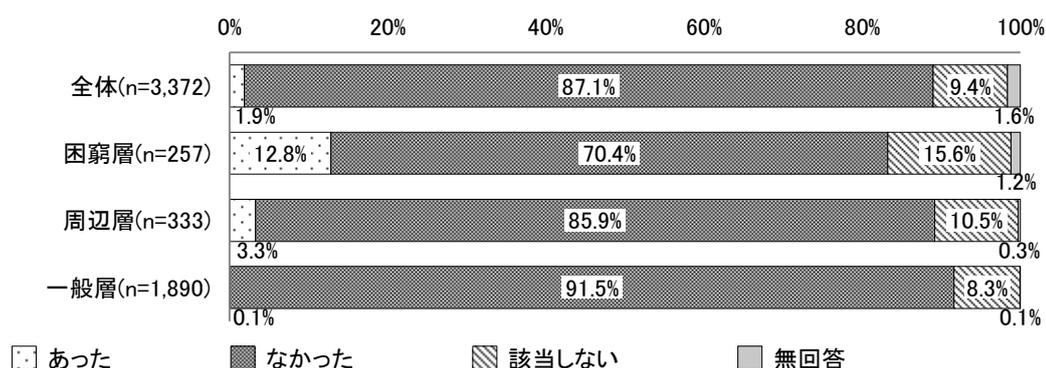
中学生の「全体」では、「なかった」が87.1%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が9.4%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が70.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が85.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が91.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 38 期限内に支払えないこと_公的医療保険：単数回答（Q16G）（生活困難度別）
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



11) 期限内に支払えないこと_お子さんの給食費

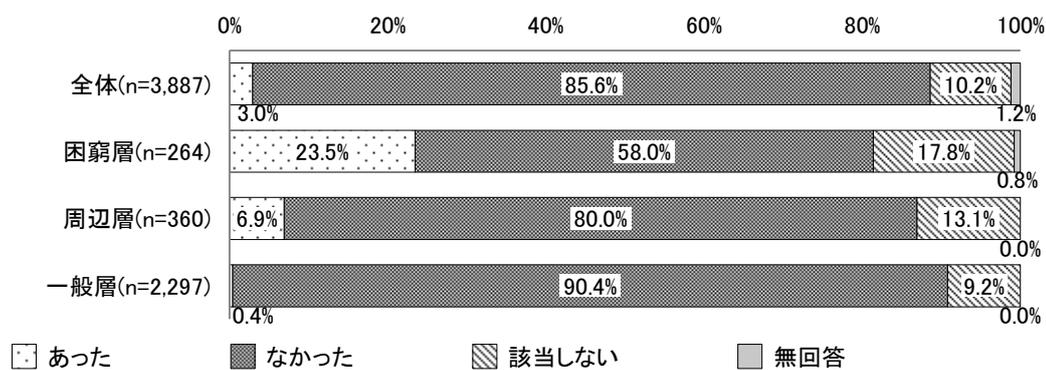
小学生の「全体」では、「なかった」が85.6%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が10.2%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が58.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が80.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が90.4%でもっとも割合が高くなっている。

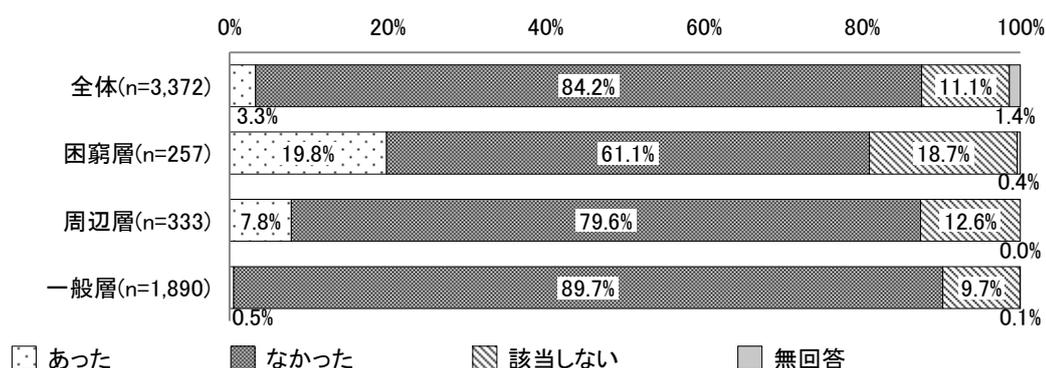
中学生の「全体」では、「なかった」が84.2%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が11.1%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が61.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が79.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が89.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 39 期限内に支払えないこと_お子さんの給食費：単数回答（Q16H）（生活困難度別）
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



12) 期限内に支払えないこと_お子さんの学用品費

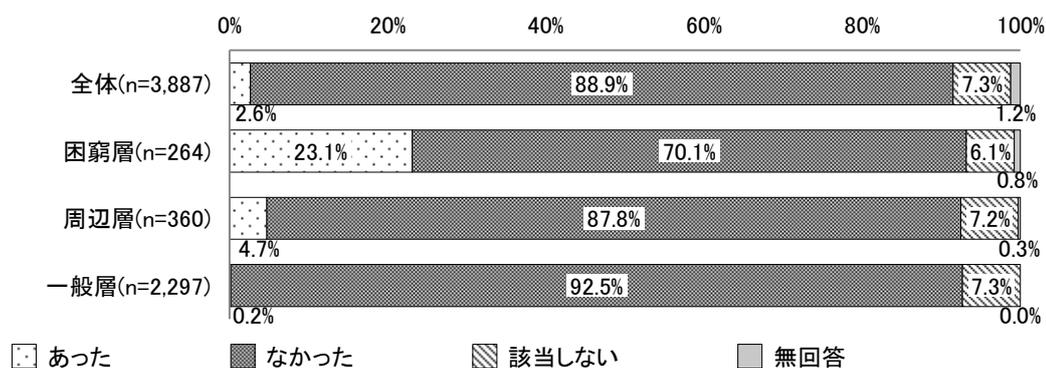
小学生の「全体」では、「なかった」が88.9%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が7.3%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が70.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が87.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が92.5%でもっとも割合が高くなっている。

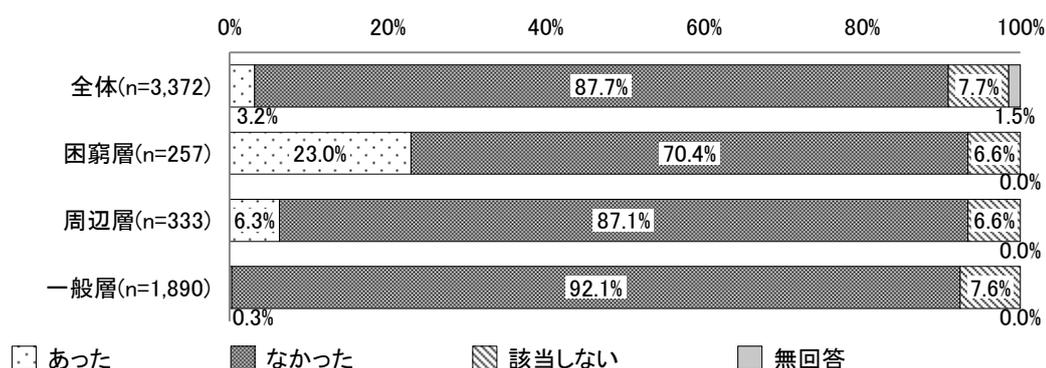
中学生の「全体」では、「なかった」が87.7%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が7.7%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が70.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が87.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が92.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 40 期限内に支払えないこと_お子さんの学用品費：単数回答（Q16I）（生活困難度別）
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



13) 期限内に支払えないこと_その他の債務

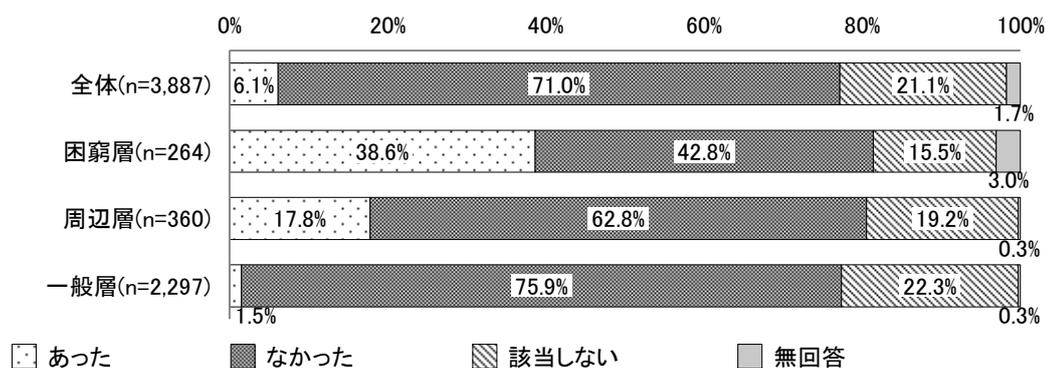
小学生の「全体」では、「なかった」が71.0%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が21.1%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が42.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が62.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が75.9%でもっとも割合が高くなっている。

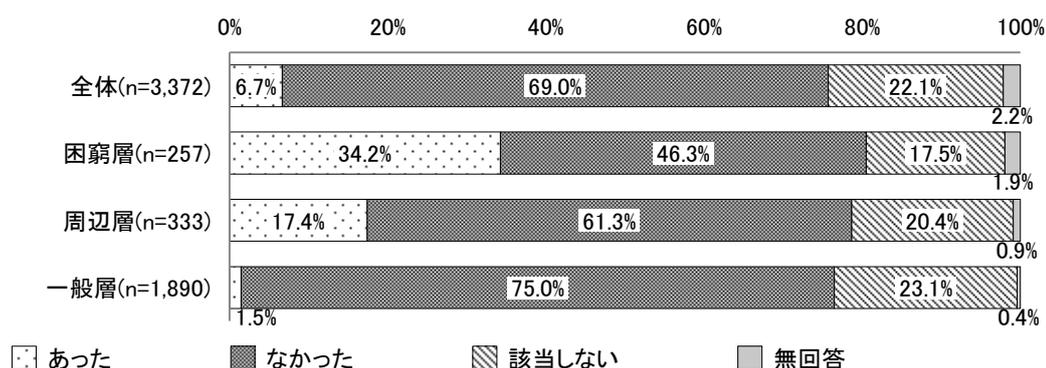
中学生の「全体」では、「なかった」が69.0%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が22.1%となっている。

「困窮層」では、「なかった」が46.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が61.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が75.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 41 期限内に支払えないこと_その他の債務：単数回答 (Q16J) (生活困難度別)
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



14) 世帯にないもの

小学生の「全体」では、「新聞の定期購読」が15.5%でもっとも割合が高く、次いで「インターネットにつながるパソコン」が7.0%となっている。

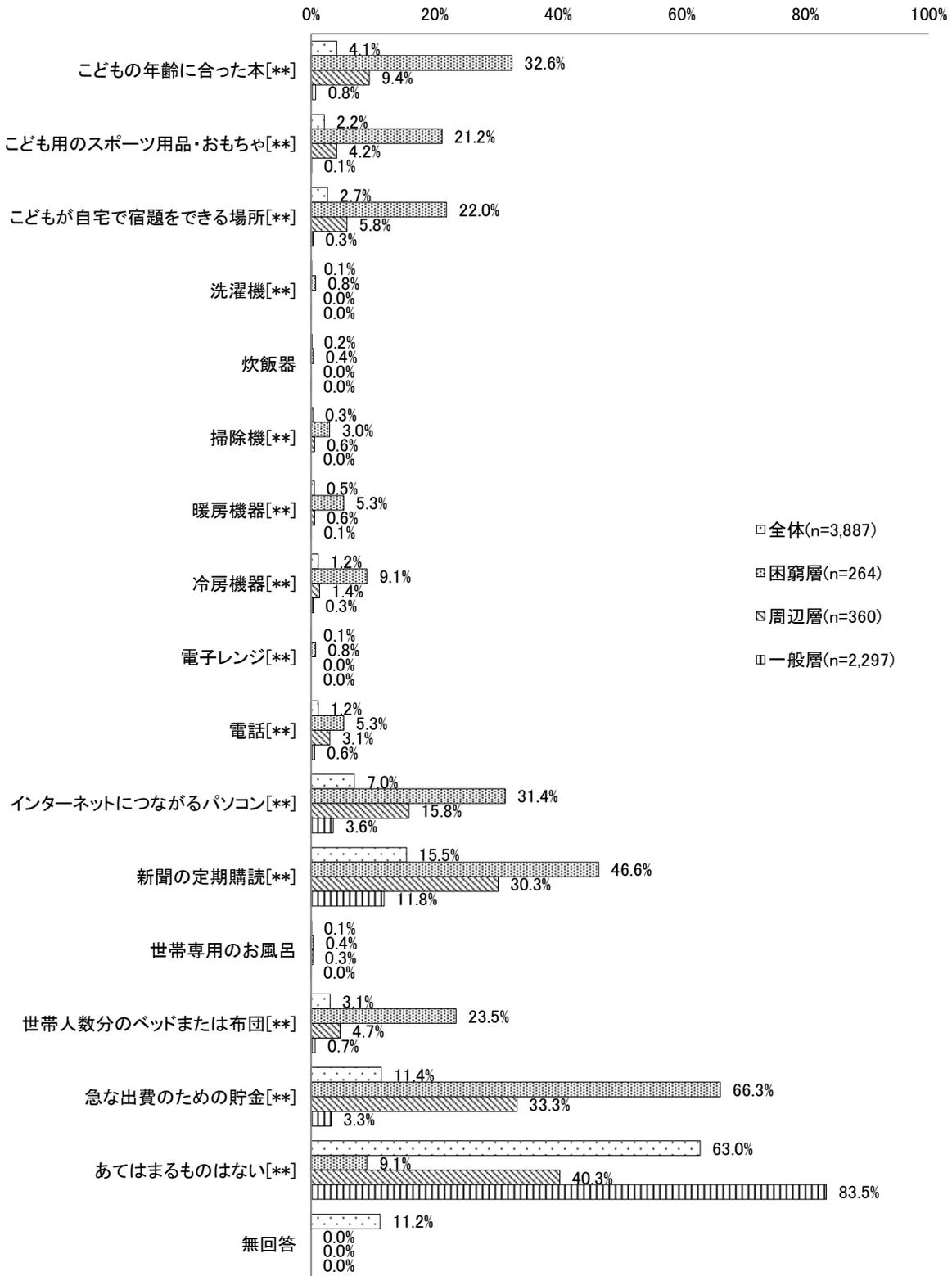
「困窮層」では、「新聞の定期購読」が46.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「新聞の定期購読」が30.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「新聞の定期購読」が11.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「新聞の定期購読」が15.4%でもっとも割合が高く、次いで「インターネットにつながるパソコン」が7.2%となっている。

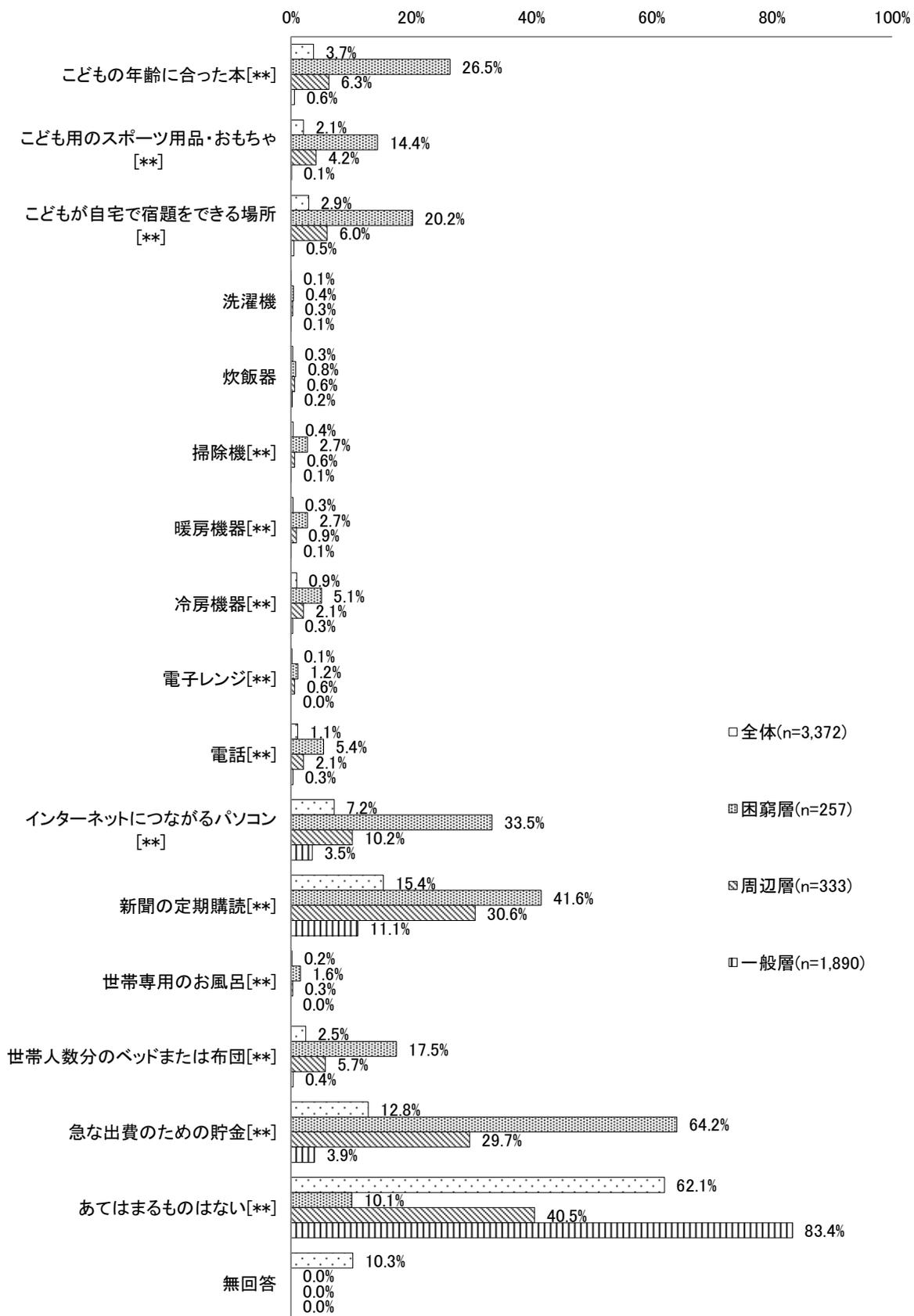
「困窮層」では、「新聞の定期購読」が41.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「新聞の定期購読」が30.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「新聞の定期購読」が11.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 42 世帯にないもの：複数回答（Q17）（生活困難度別）

<小学生>



< 中学生 >



(4) 健康状態

1) 回答者の健康状態

小学生の「全体」では、「ふつう」が34.9%でもっとも割合が高く、次いで「よい」が34.3%となっている。

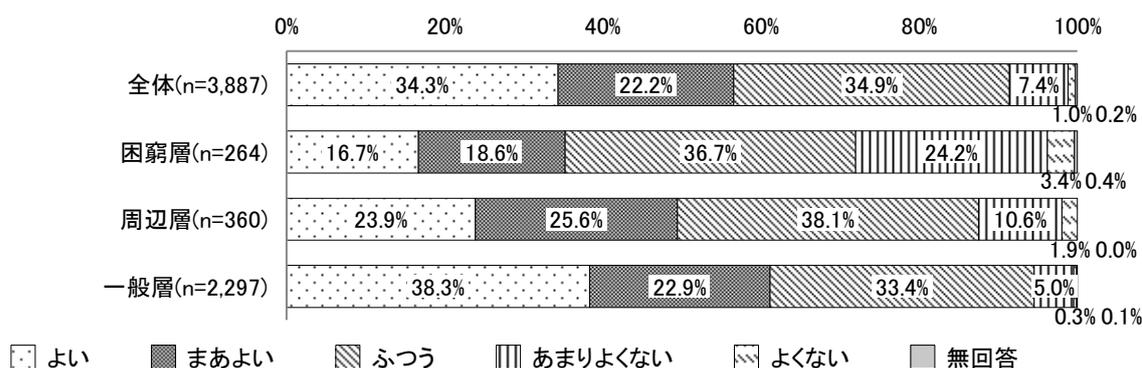
「困窮層」では、「ふつう」が36.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ふつう」が38.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「よい」が38.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ふつう」が38.1%でもっとも割合が高く、次いで「よい」が30.1%となっている。

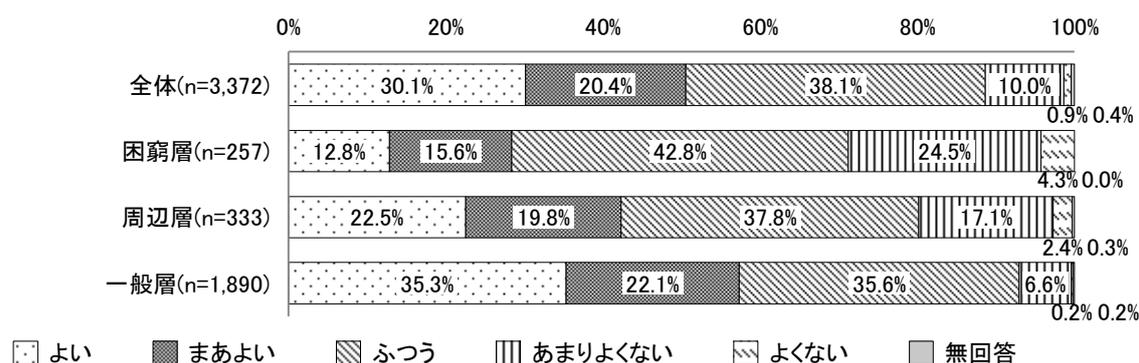
「困窮層」では、「ふつう」が42.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ふつう」が37.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ふつう」が35.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 43 回答者の健康状態：単数回答（Q18）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



2) お子さんの健康状態

小学生の「全体」では、「よい」が60.7%でもっとも割合が高く、次いで「まあよい」が19.3%となっている。

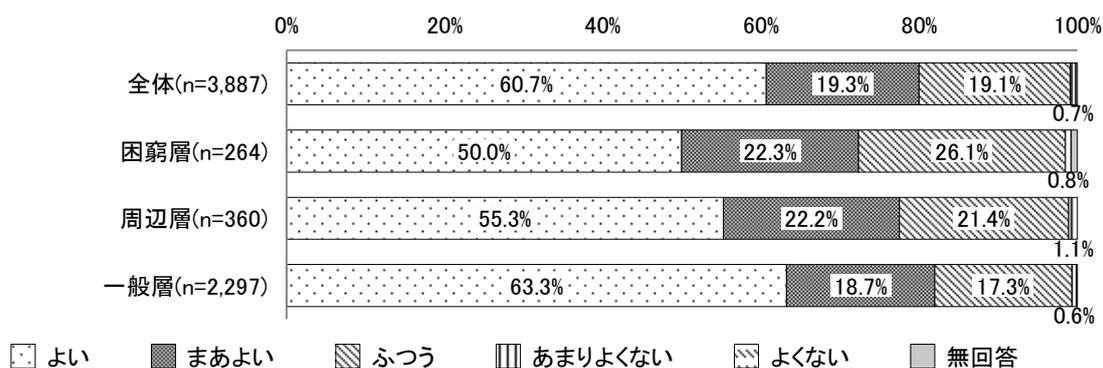
「困窮層」では、「よい」が50.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「よい」が55.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「よい」が63.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「よい」が53.5%でもっとも割合が高く、次いで「ふつう」が23.6%となっている。

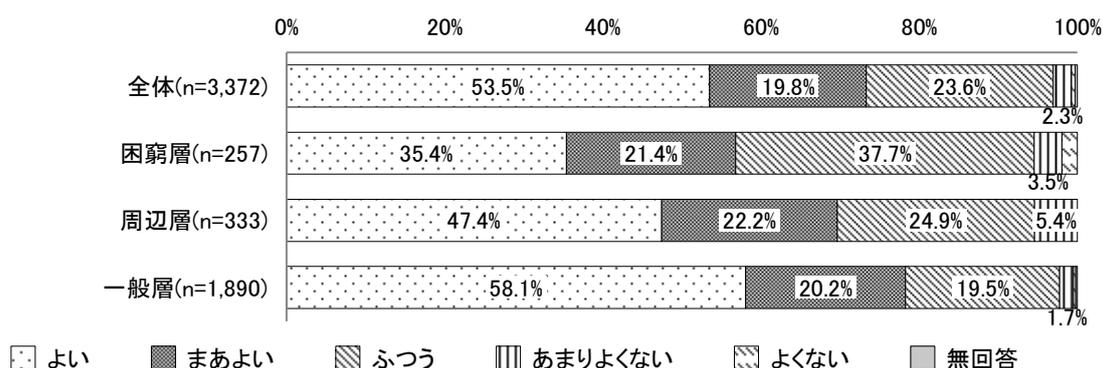
「困窮層」では、「ふつう」が37.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「よい」が47.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「よい」が58.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 44 お子さんの健康状態：単数回答（Q19）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



<数値表：小学生>

	合計	Q19 お子さんの健康状態					
		よい	まあよい	ふつう	あまりよ くない	よくない	無回答
全体	3,887	60.7	19.3	19.1	0.7	0.0	0.2
困窮層	264	50.0	22.3	26.1	0.8	0.0	0.8
周辺層	360	55.3	22.2	21.4	1.1	0.0	0.0
一般層	2,297	63.3	18.7	17.3	0.6	0.0	0.1

<数値表：中学生>

	合計	Q19 お子さんの健康状態					
		よい	まあよい	ふつう	あまりよ くない	よくない	無回答
全体	3,372	53.5	19.8	23.6	2.3	0.4	0.3
困窮層	257	35.4	21.4	37.7	3.5	1.9	0.0
周辺層	333	47.4	22.2	24.9	5.4	0.0	0.0
一般層	1,890	58.1	20.2	19.5	1.7	0.3	0.2

3) 心の状態_神経過敏に感じた

小学生の「全体」では、「全くない」が 45.3%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 21.9%となっている。

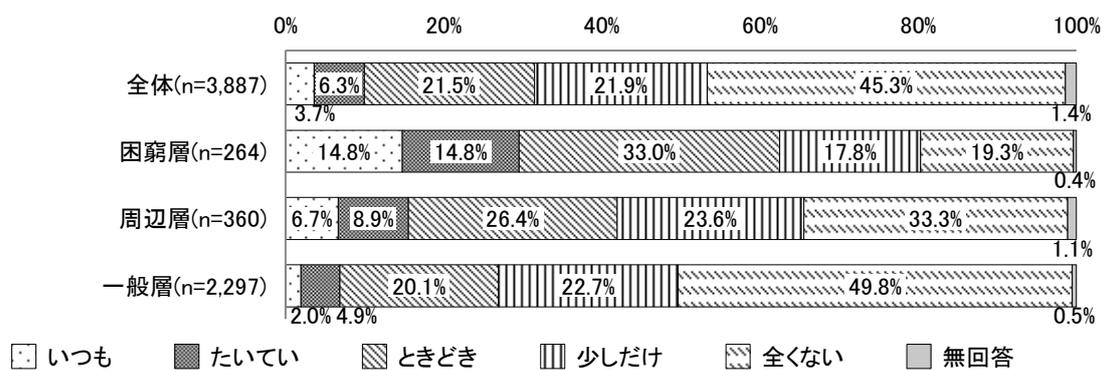
「困窮層」では、「ときどき」が 33.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 33.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 49.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くない」が 47.9%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 21.2%となっている。

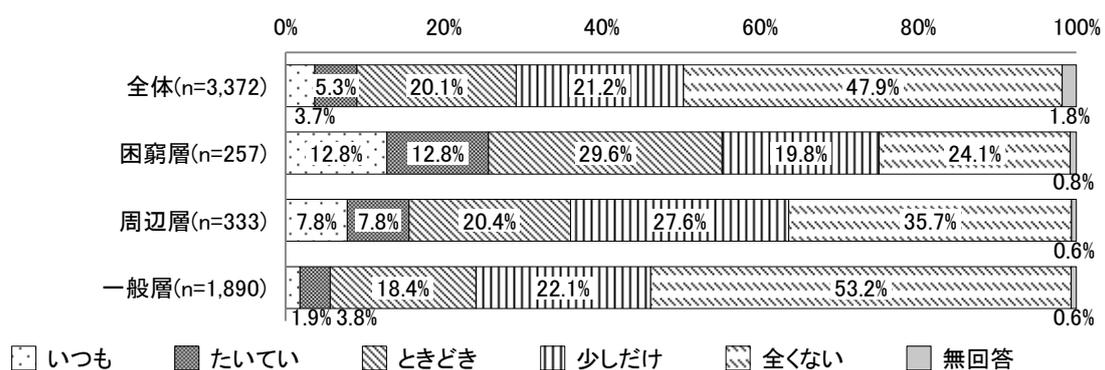
「困窮層」では、「ときどき」が 29.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 35.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 53.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 45 心の状態_神経過敏に感じた：単数回答 (Q20A) (生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



4) 心の状態_絶望的だと感じた

小学生の「全体」では、「全くない」が 68.8%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 13.8%となっている。

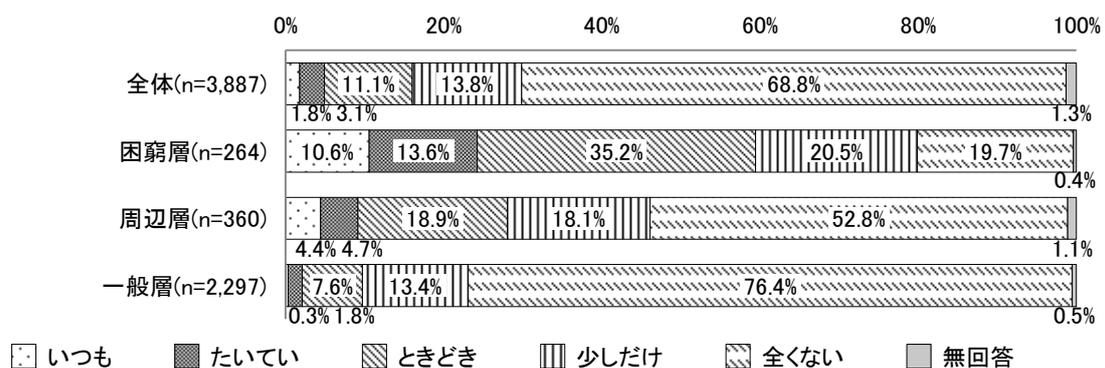
「困窮層」では、「ときどき」が 35.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 52.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 76.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くない」が 67.1%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 14.7%となっている。

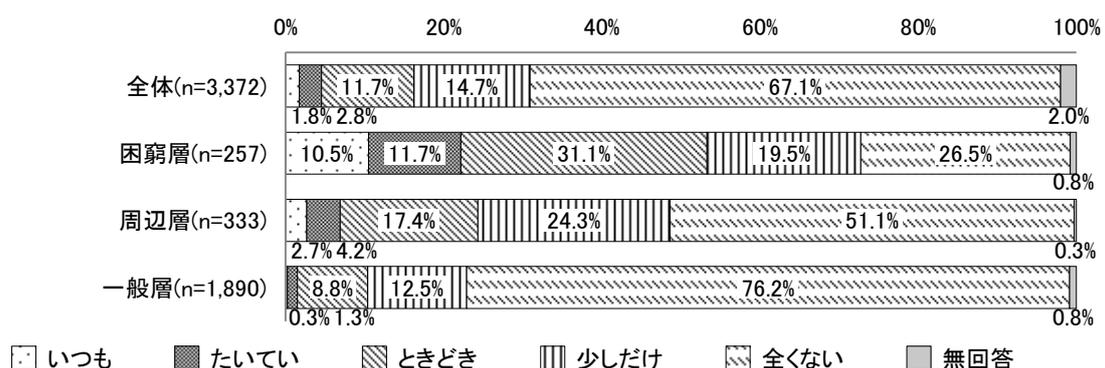
「困窮層」では、「ときどき」が 31.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 51.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 76.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 46 心の状態_絶望的だと感じた：単数回答 (Q20B) (生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



5) 心の状態_そろそろ、落ち着かなく感じた

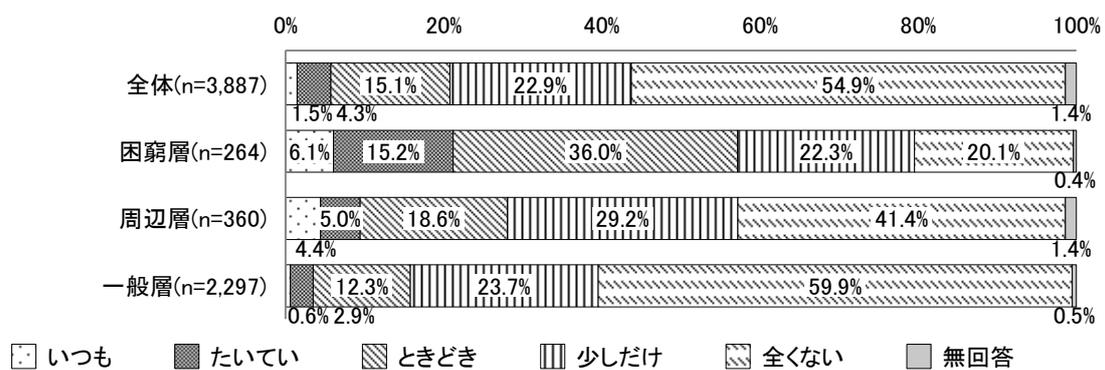
小学生の「全体」では、「全くない」が 54.9%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 22.9%となっている。

「困窮層」では、「ときどき」が 36.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 41.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 59.9%でもっとも割合が高くなっている。

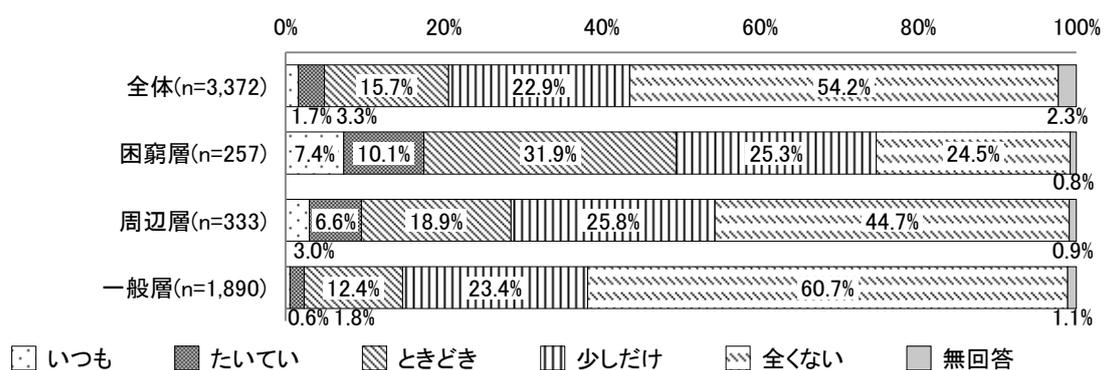
中学生の「全体」では、「全くない」が 54.2%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 22.9%となっている。

「困窮層」では、「ときどき」が 31.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 44.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 60.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 47 心の状態_そろそろ、落ち着かなく感じた：単数回答（Q20C）（生活困難度別）
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



6) 心の状態_気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた

小学生の「全体」では、「全くない」が 48.1%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 25.3%となっている。

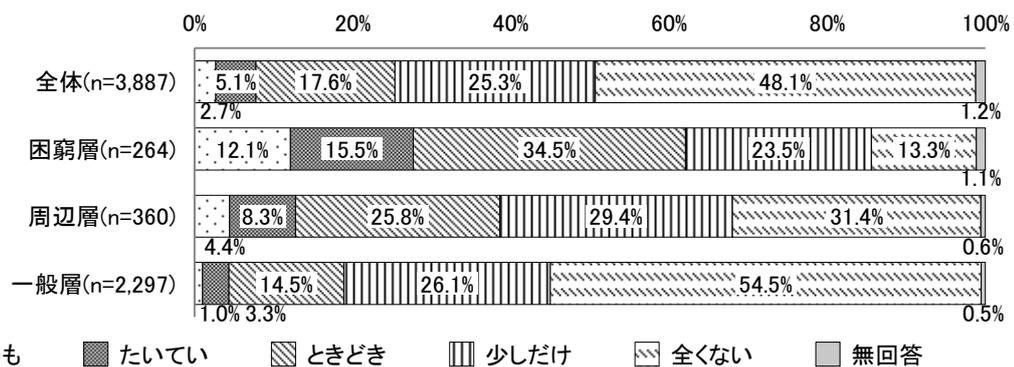
「困窮層」では、「ときどき」が 34.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 31.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 54.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くない」が 47.7%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 25.5%となっている。

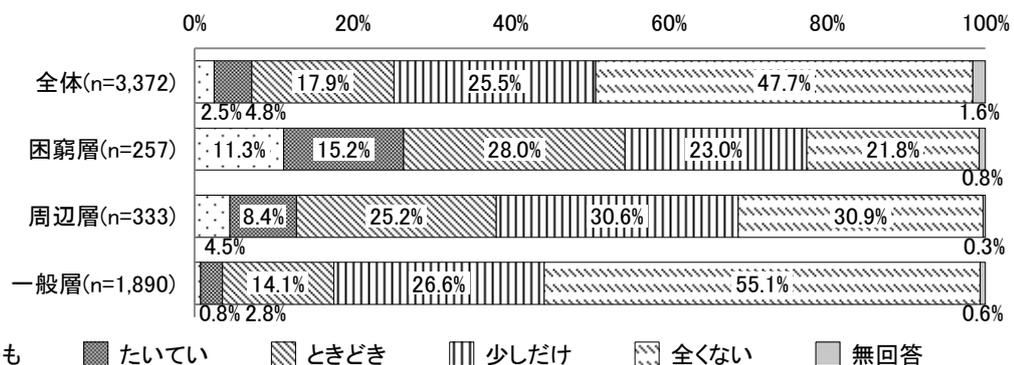
「困窮層」では、「ときどき」が 28.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 30.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 55.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 48 心の状態_気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた：単数回答 (Q20D) (生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



7) 心の状態_何をするのも骨折りだと感じた

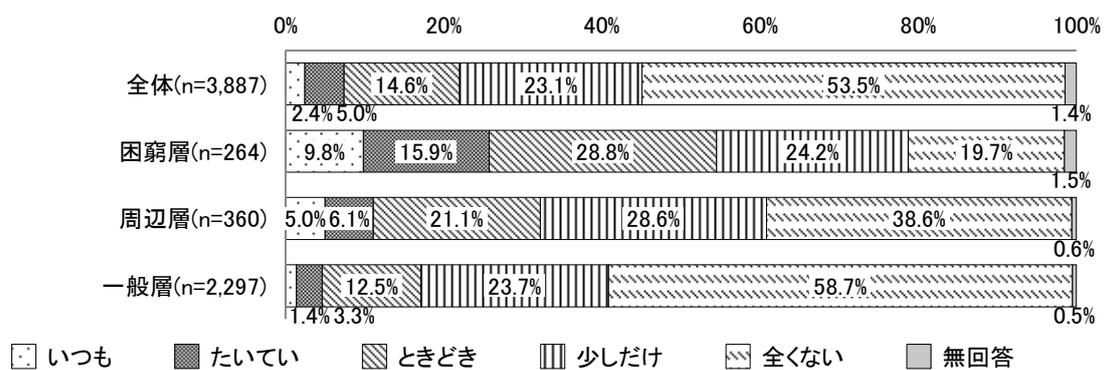
小学生の「全体」では、「全くない」が 53.5%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 23.1%となっている。

「困窮層」では、「ときどき」が 28.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 38.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 58.7%でもっとも割合が高くなっている。

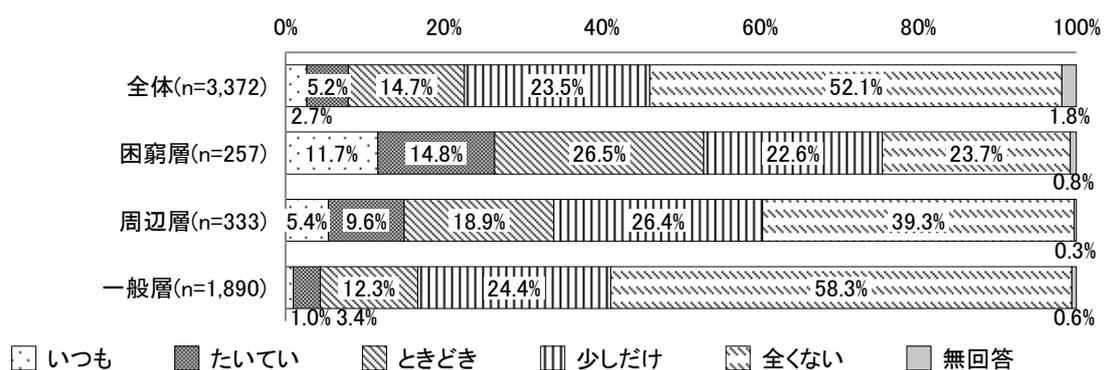
中学生の「全体」では、「全くない」が 52.1%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 23.5%となっている。

「困窮層」では、「ときどき」が 26.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 39.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 58.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 49 心の状態_何をするのも骨折りだと感じた：単数回答（Q20E）（生活困難度別）
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



8) 心の状態_自分は価値のない人間だと感じた

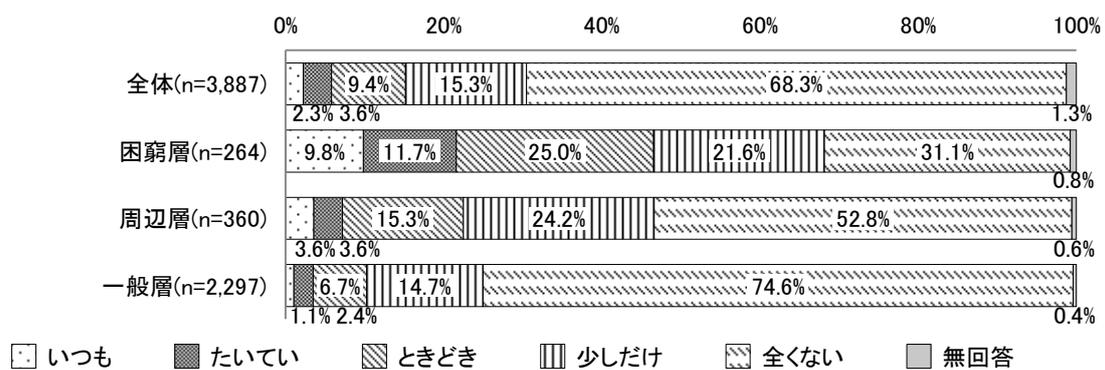
小学生の「全体」では、「全くない」が 68.3%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 15.3%となっている。

「困窮層」では、「全くない」が 31.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 52.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 74.6%でもっとも割合が高くなっている。

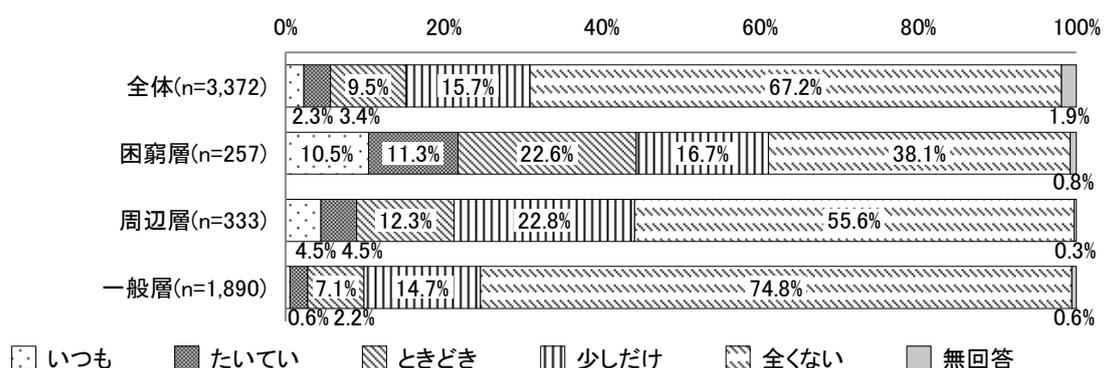
中学生の「全体」では、「全くない」が 67.2%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 15.7%となっている。

「困窮層」では、「全くない」が 38.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 55.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 74.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 50 心の状態_自分は価値のない人間だと感じた：単数回答（Q20F）（生活困難度別）
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



9) 自分の体で気になること

小学生の「全体」では、「よく頭がいたくなる」が33.6%でもっとも割合が高く、次いで「とくに気になることはない」が32.5%となっている。

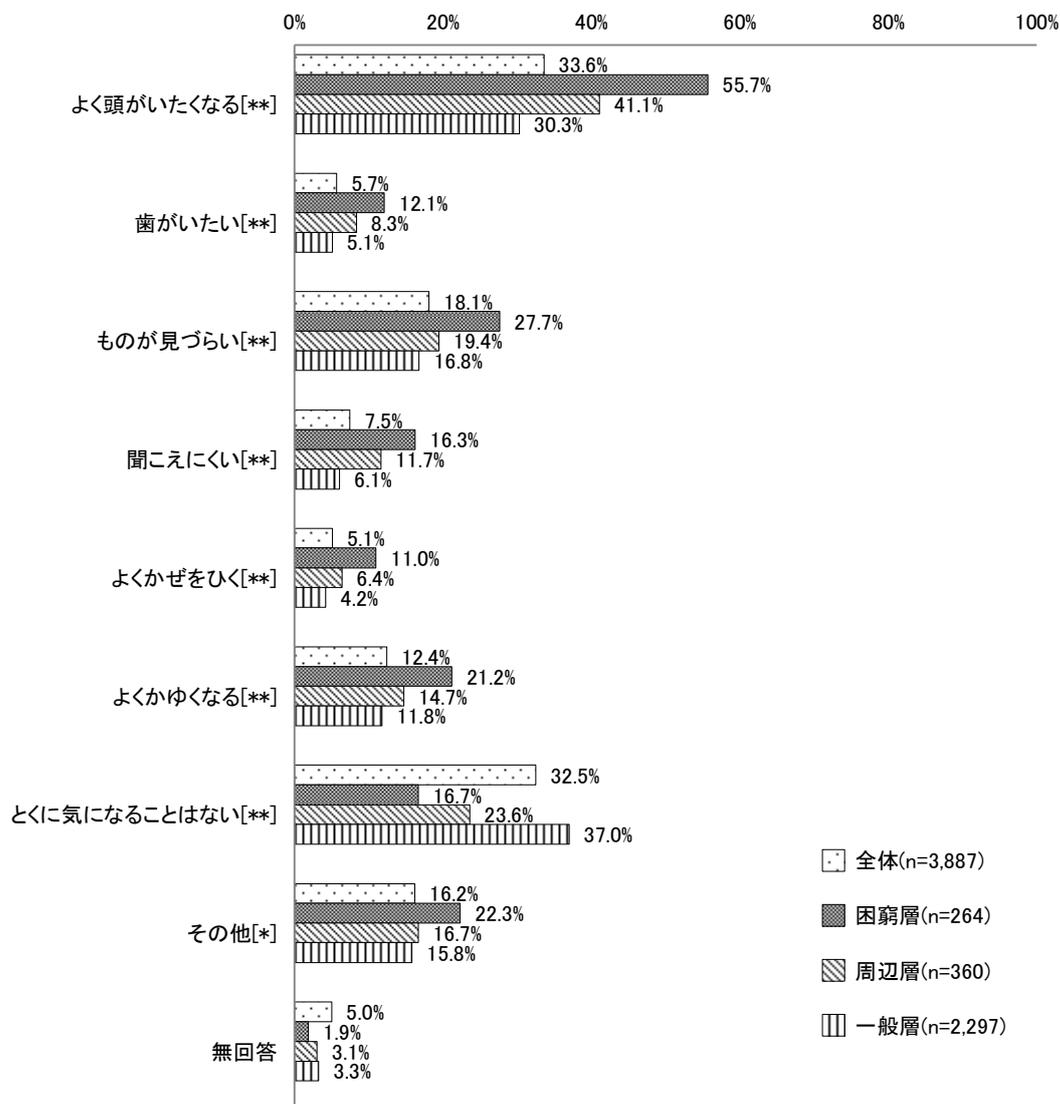
「困窮層」では、「よく頭がいたくなる」が55.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「よく頭がいたくなる」が41.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とくに気になることはない」が37.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「よく頭がいたくなる」が32.5%でもっとも割合が高く、次いで「とくに気になることはない」が29.6%となっている。

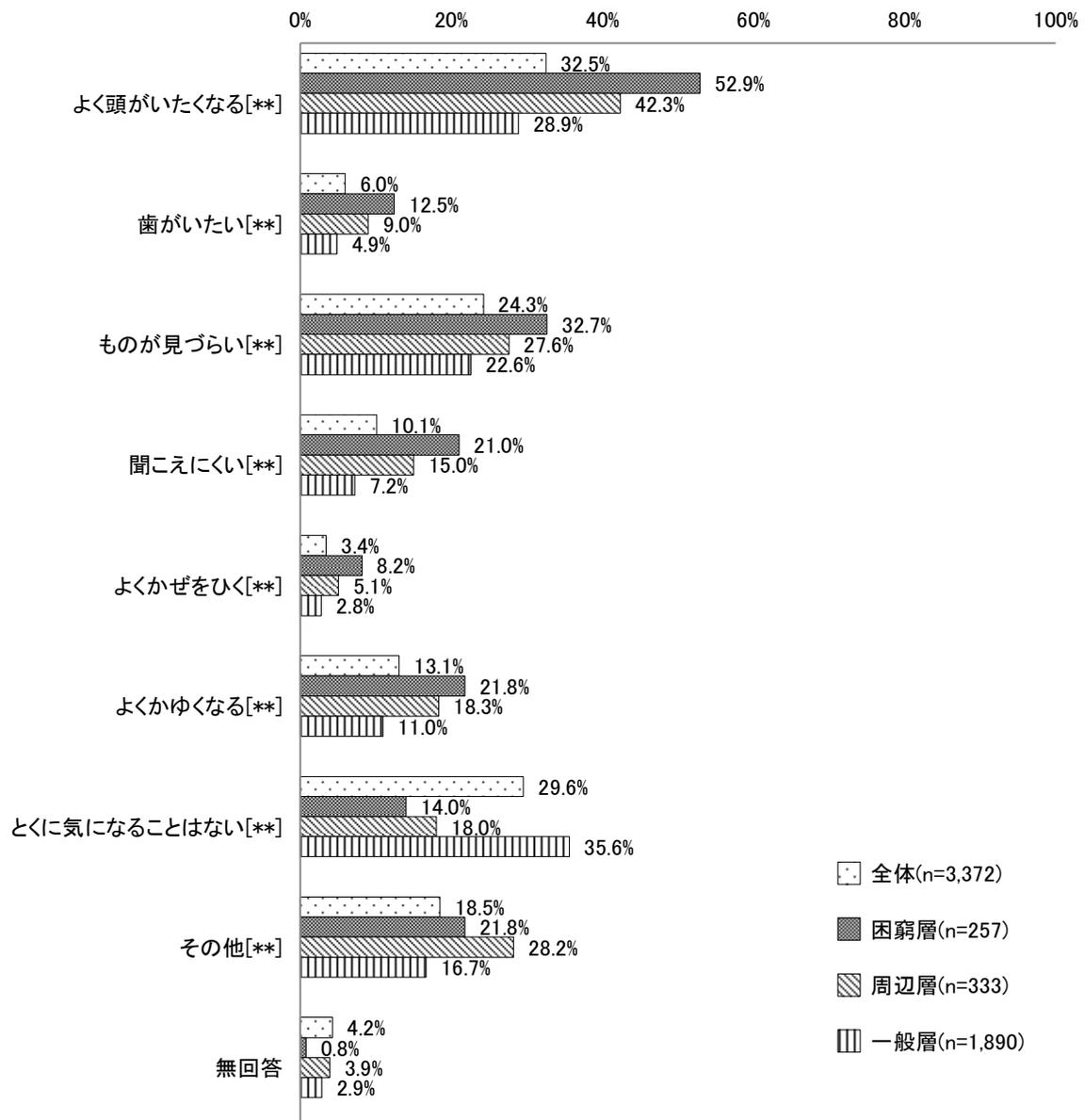
「困窮層」では、「よく頭がいたくなる」が52.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「よく頭がいたくなる」が42.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とくに気になることはない」が35.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 51 自分の体で気になること：複数回答（Q21）（生活困難度別）

<小学生>



< 中学生 >



10) 健康診断やがん検診の有無

小学生の「全体」では、「はい」が81.5%でもっとも割合が高く、次いで「いいえ」が18.2%となっている。

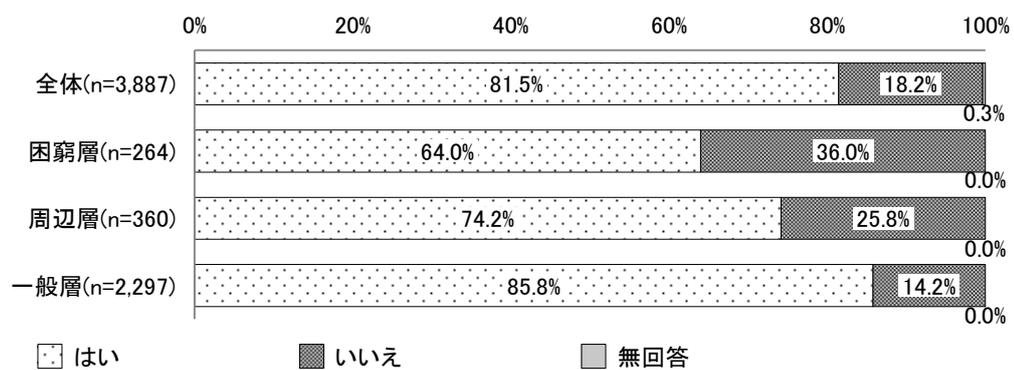
「困窮層」では、「はい」が64.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「はい」が74.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「はい」が85.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「はい」が82.1%でもっとも割合が高く、次いで「いいえ」が17.4%となっている。

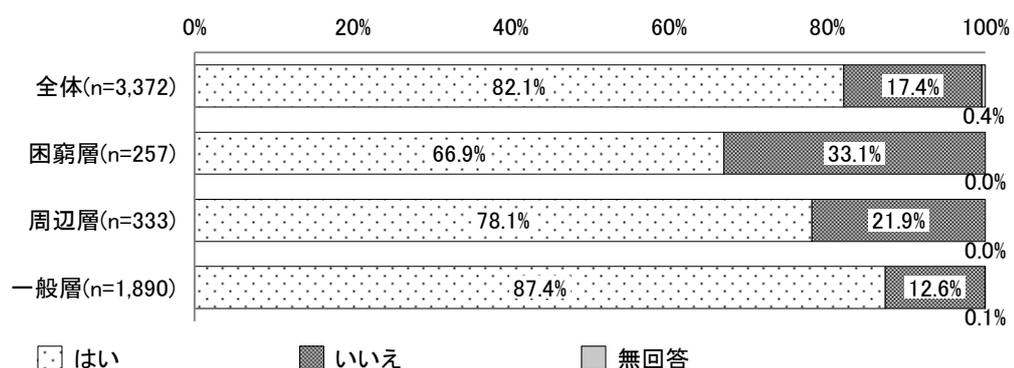
「困窮層」では、「はい」が66.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「はい」が78.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「はい」が87.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 52 健康診断やがん検診の有無：単数回答（Q22）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



11) 受けていない理由

健康診断やがん検診を受けていない場合について、受けていない理由をみると、小学生の「全体」では、「受診する時間がないから」が48.0%でもっとも割合が高く、次いで「費用がかかるから」が38.3%となっている。

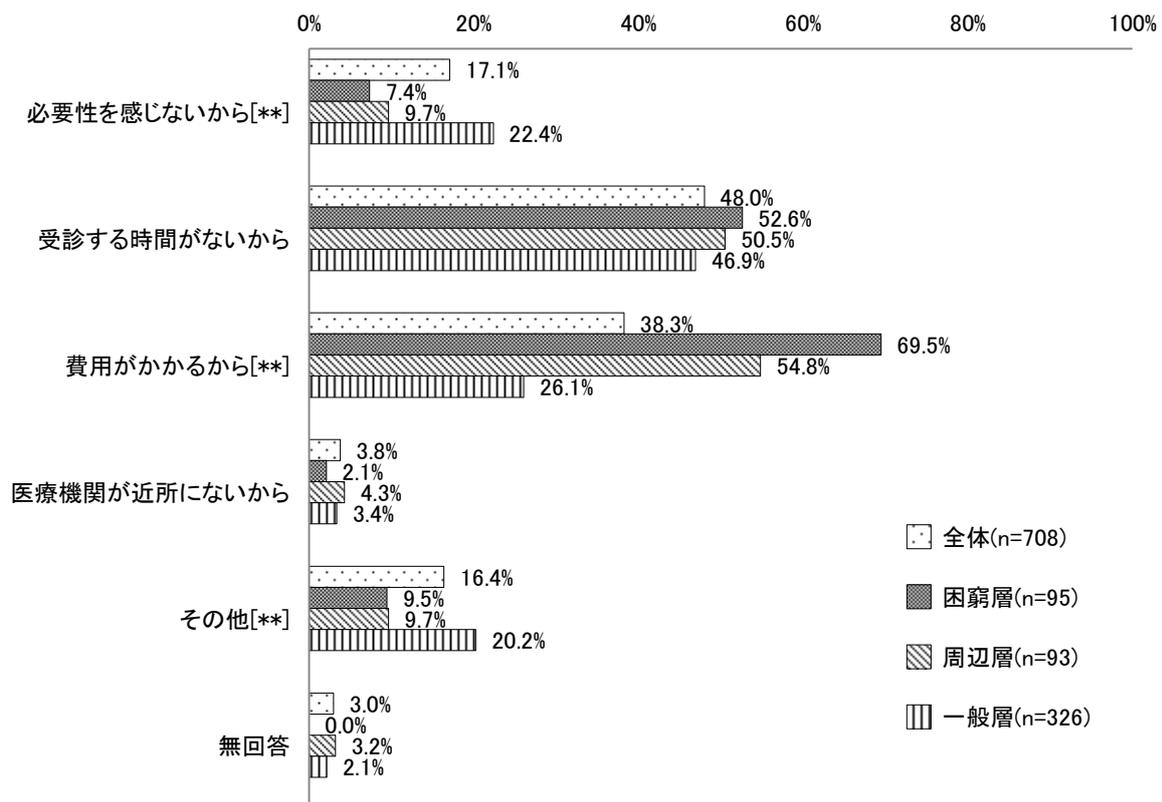
「困窮層」では、「費用がかかるから」が69.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「費用がかかるから」が54.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「受診する時間がないから」が46.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「受診する時間がないから」が45.2%でもっとも割合が高く、次いで「費用がかかるから」が32.8%となっている。

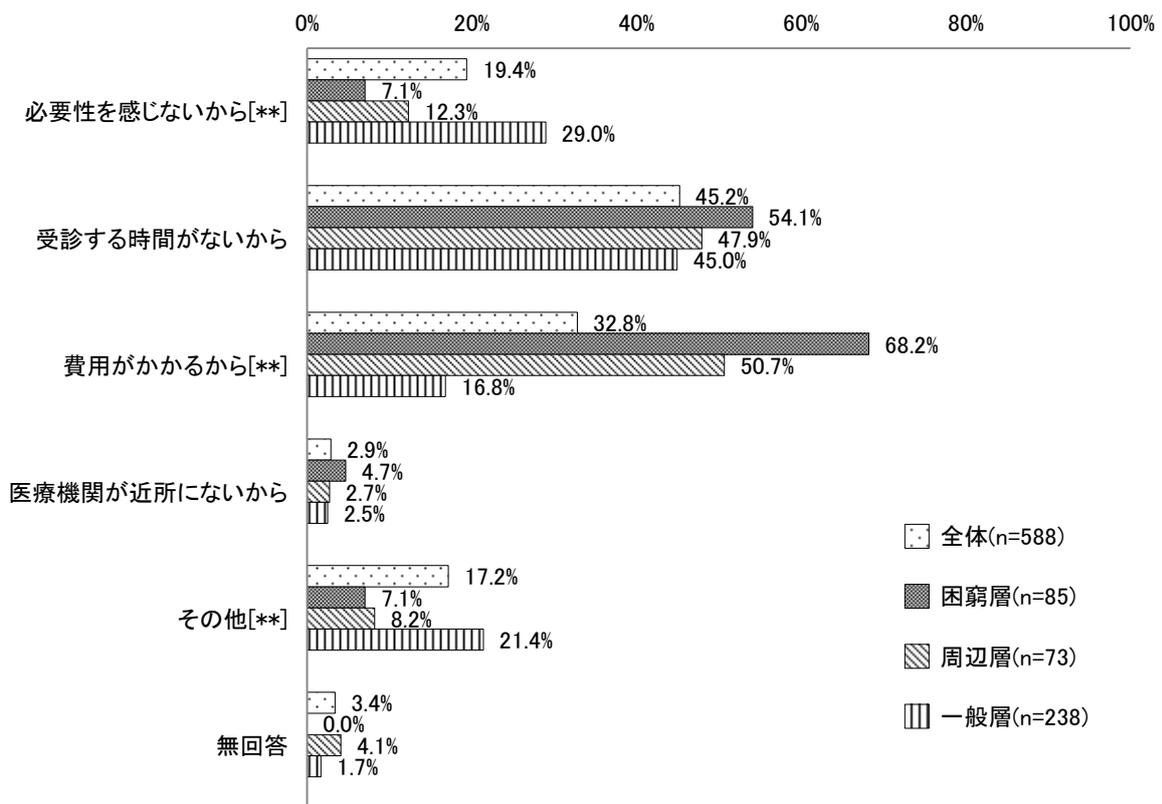
「困窮層」では、「費用がかかるから」が68.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「費用がかかるから」が50.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「受診する時間がないから」が45.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 53 受けていない理由：複数回答（Q23）（生活困難度別）

<小学生>



< 中学生 >



注) 対象は Q26 で「いいえ」と回答した者に限定

12) 回答者が受診した方がよいと思ったが、受診しなかったこと

小学生の「全体」では、「なかった」が67.1%でもっとも割合が高く、次いで「あった」が31.8%となっている。

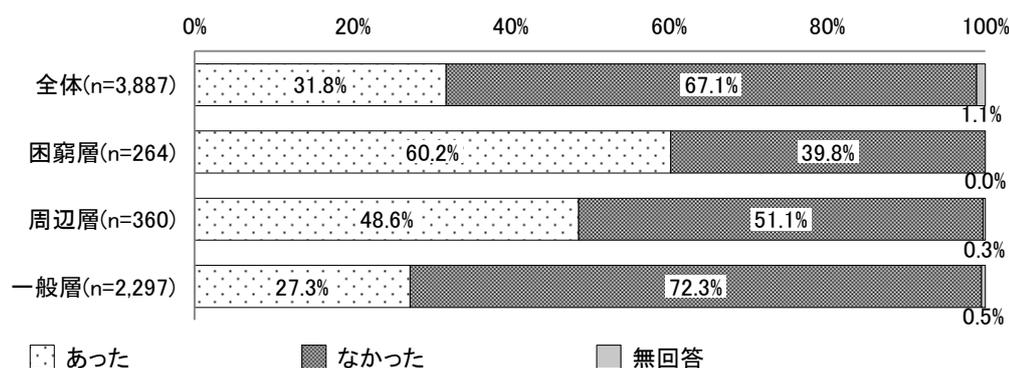
「困窮層」では、「あった」が60.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が51.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が72.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が69.2%でもっとも割合が高く、次いで「あった」が29.9%となっている。

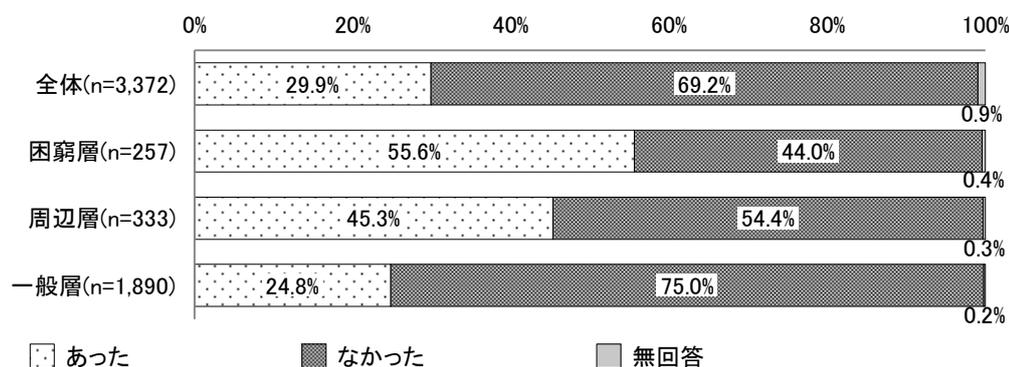
「困窮層」では、「あった」が55.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が54.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が75.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 54 回答者が受診した方がよいと思ったが、受診しなかったこと：単数回答 (Q24)
(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



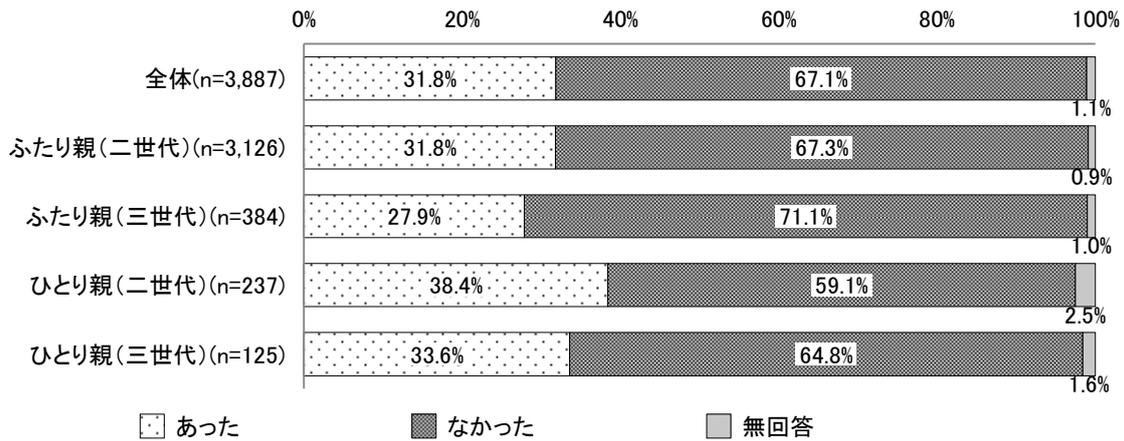
<中学生> (p<.01)



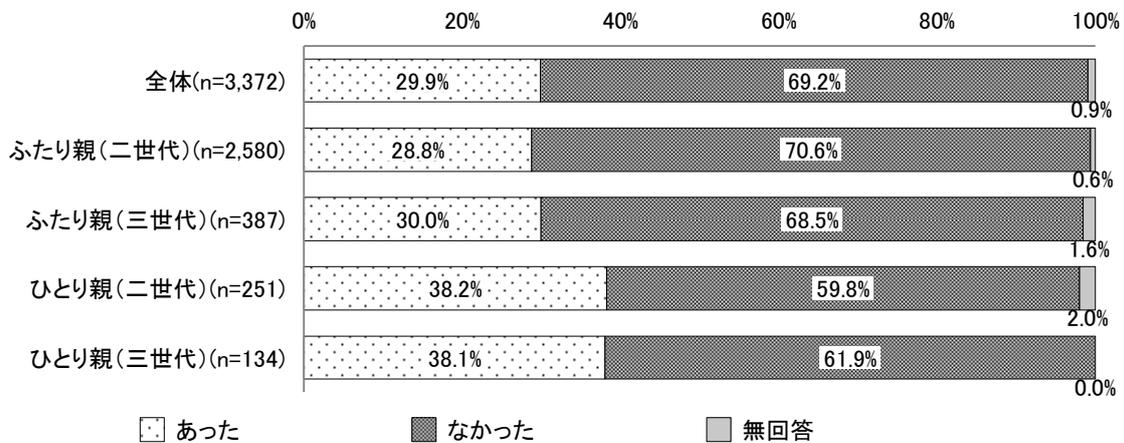
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世帯）」において「あった」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世帯）」「ひとり親（三世帯）」において「あった」とする割合が高くなっている。

図表 55 回答者が受診した方がよいと思ったが、受診しなかったこと：単数回答（Q24）（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.05)



<中学生> (p<.01)



13) 受診しなかった理由

回答者が受診したほうがよいと思ったが、受診しなかったことがあった場合について、受診しなかった理由をみると、小学生の「全体」では、「受診する時間がなかったから」が55.1%でもっとも割合が高く、次いで「費用がかかるから」が25.8%となっている。

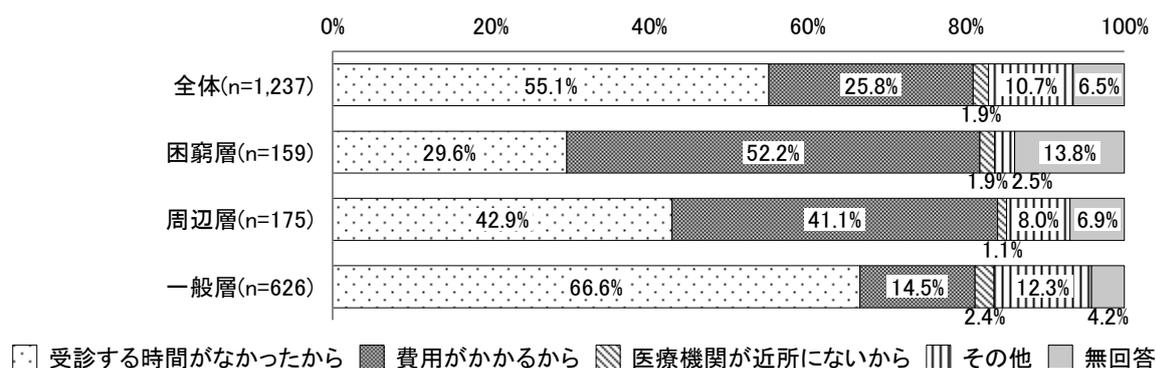
「困窮層」では、「費用がかかるから」が52.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「受診する時間がなかったから」が42.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「受診する時間がなかったから」が66.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「受診する時間がなかったから」が53.0%でもっとも割合が高く、次いで「費用がかかるから」が28.3%となっている。

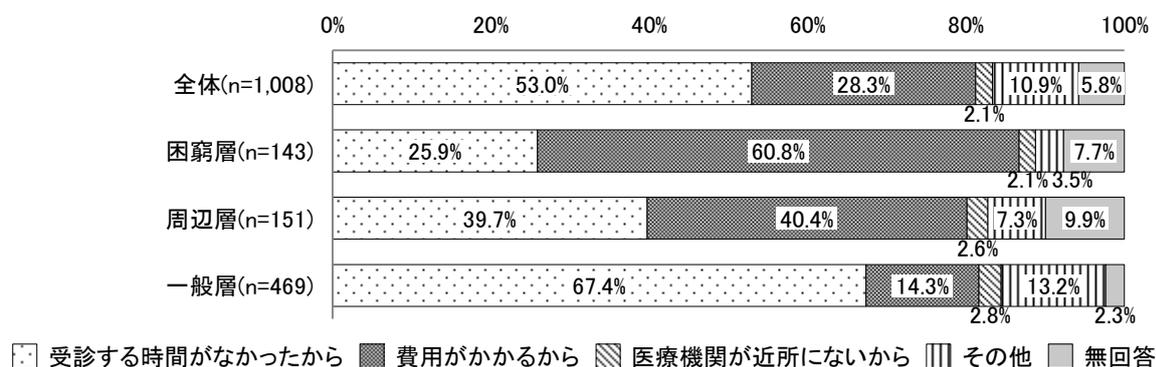
「困窮層」では、「費用がかかるから」が60.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「費用がかかるから」が40.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「受診する時間がなかったから」が67.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 56 受診しなかった理由：単数回答（Q25）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



注) 対象は Q24 で「あった」と回答した者に限定

14) お子さんを受診させた方がよいと思ったが、受診させなかったこと

小学生の「全体」では、「なかった」が 90.5%でもっとも割合が高く、次いで「あった」が 8.9%となっている。

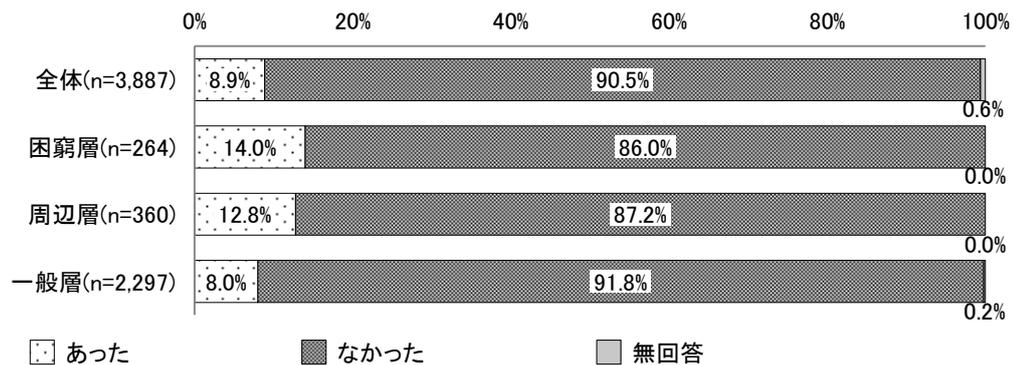
「困窮層」では、「なかった」が 86.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 87.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 91.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 89.8%でもっとも割合が高く、次いで「あった」が 9.4%となっている。

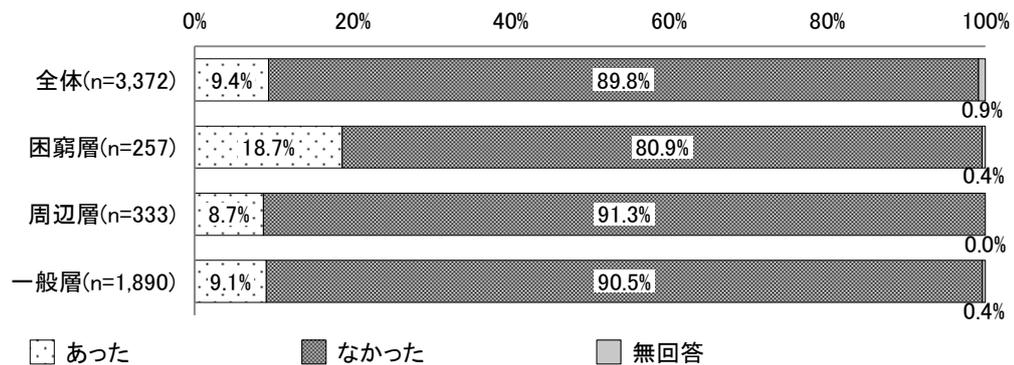
「困窮層」では、「なかった」が 80.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 91.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 90.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 57 お子さんを受診させた方がよいと思ったが、受診させなかったこと：単数回答 (Q26) (生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



15) 受診させなかった理由

お子さんを受診させた方がよいと思ったが、受診させなかったことがあった場合について、小学生の「全体」では、「最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が43.8%でもっとも割合が高く、次いで「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」が33.6%となっている。

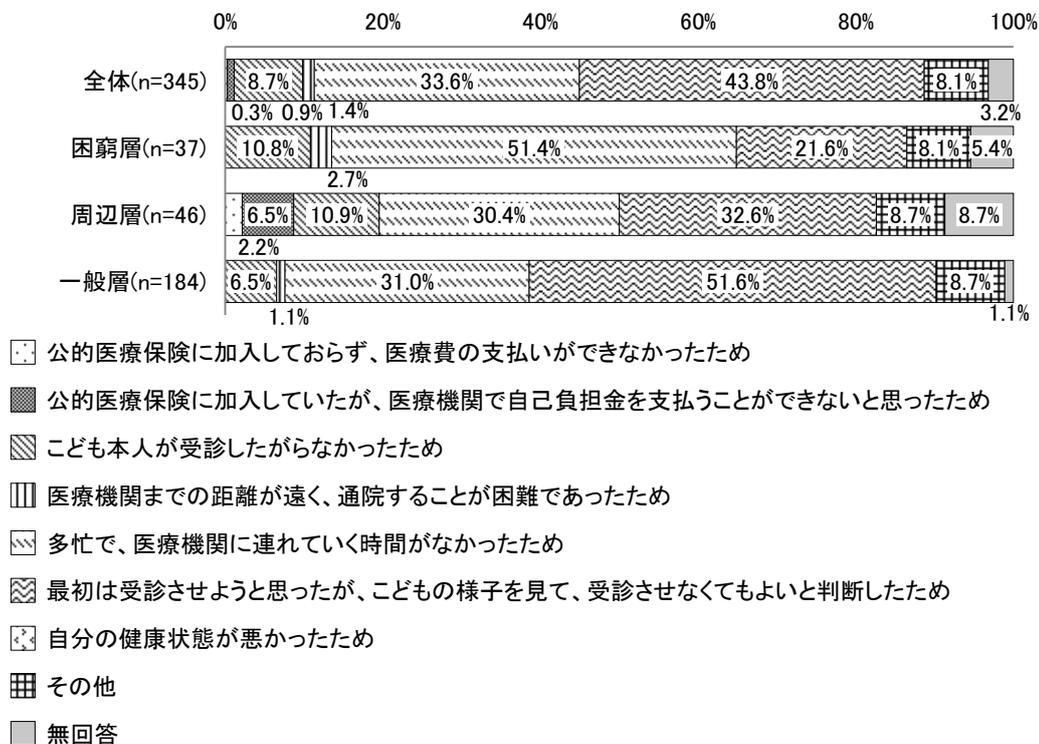
「困窮層」では、「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」が51.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が32.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が51.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が35.4%でもっとも割合が高く、次いで「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」が29.7%となっている。

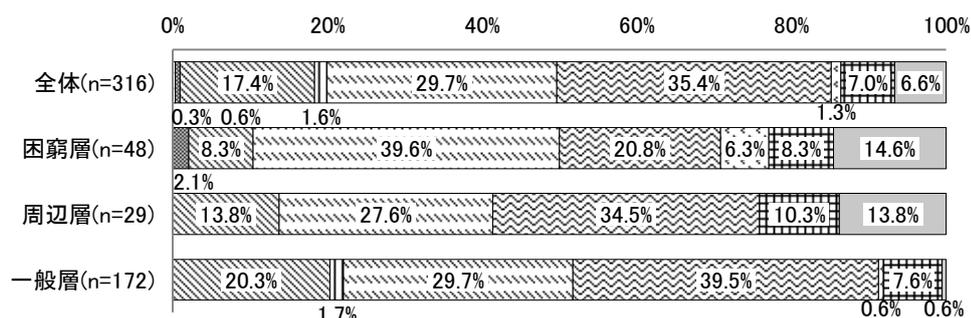
「困窮層」では、「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」が39.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が34.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が39.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 58 受診させなかった理由：単数回答（Q27）（生活困難度別）

<小学生>（検定不可）



<中学生> (検定不可)



- 公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため
- 公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため
- 子ども本人が受診しなかったため
- 医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため
- 多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため
- 最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため
- 自分の健康状態が悪かったため
- その他
- 無回答

注) 対象は Q26 で「あった」と回答した者に限定

<数値表：小学生>

	合計	Q27 受診させなかった理由								
		公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため	公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため	子ども本人が受診しなかったため	医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため	多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため	最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため	自分の健康状態が悪かったため	その他	無回答
全体	345	0.3	0.9	8.7	1.4	33.6	43.8	0.0	8.1	3.2
困窮層	37	0.0	0.0	10.8	2.7	51.4	21.6	0.0	8.1	5.4
周辺層	46	2.2	6.5	10.9	0.0	30.4	32.6	0.0	8.7	8.7
一般層	184	0.0	0.0	6.5	1.1	31.0	51.6	0.0	8.7	1.1

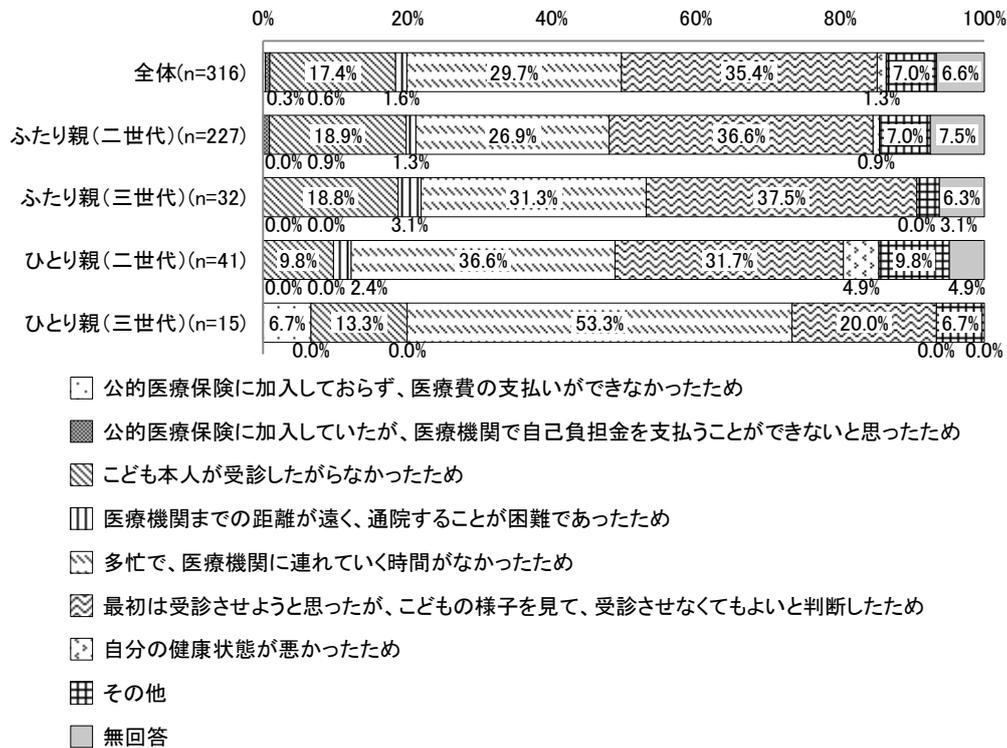
<数値表：中学生>

	合計	Q27 受診させなかった理由								
		公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため	公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため	子ども本人が受診しなかったため	医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため	多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため	最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため	自分の健康状態が悪かったため	その他	無回答
全体	316	0.3	0.6	17.4	1.6	29.7	35.4	1.3	7.0	6.6
困窮層	48	0.0	2.1	8.3	0.0	39.6	20.8	6.3	8.3	14.6
周辺層	29	0.0	0.0	13.8	0.0	27.6	34.5	0.0	10.3	13.8
一般層	172	0.0	0.0	20.3	1.7	29.7	39.5	0.6	7.6	0.6

世帯タイプ別にみると、中学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」とする割合が高くなっている。小学生では有意な差がみられなかった。

図表 59 受診させなかった理由：単数回答（Q27）（世帯タイプ別）

<中学生> (p<.05)



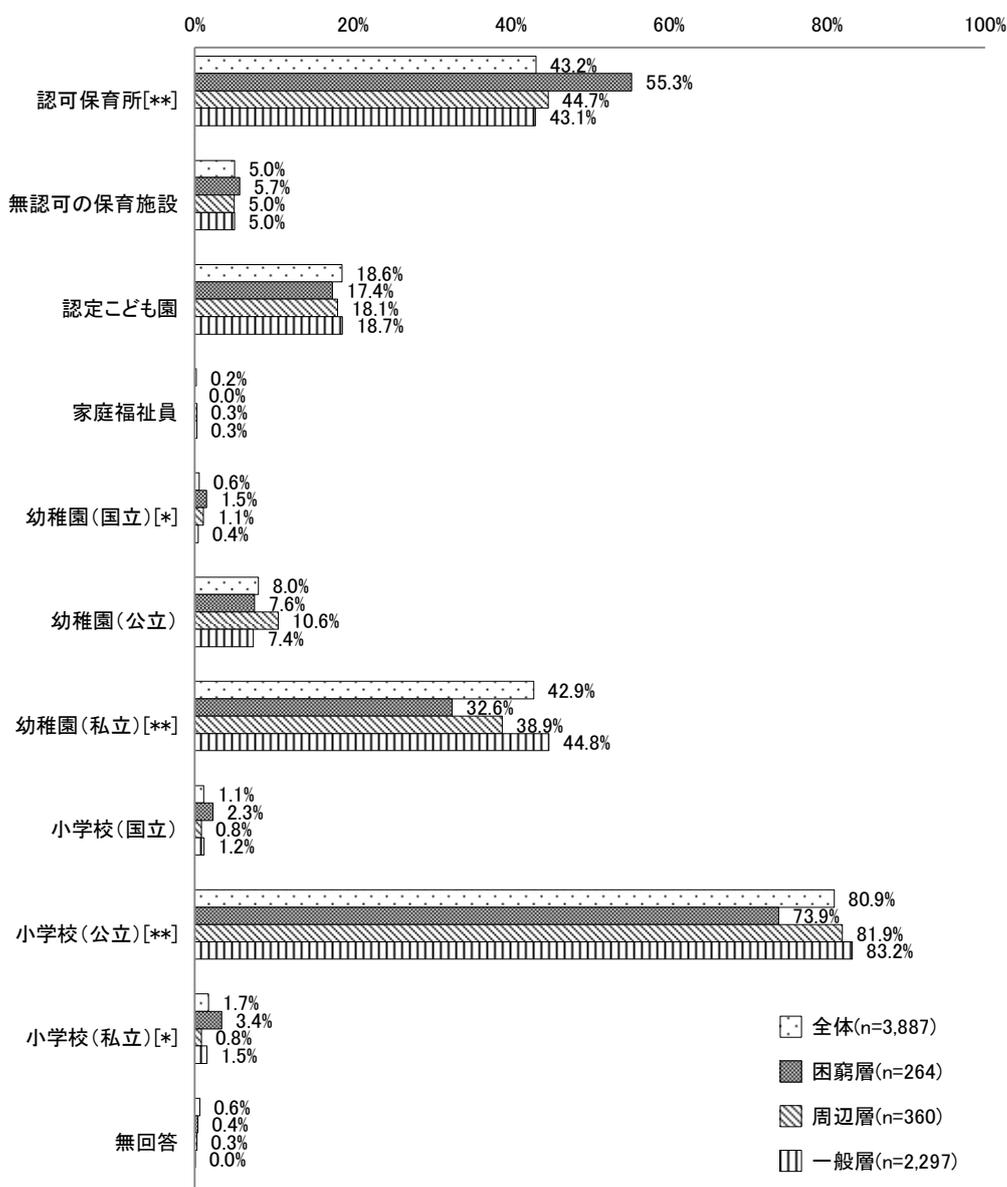
(5) こどもとの関わり

1) 通ったことのある保育・教育機関等

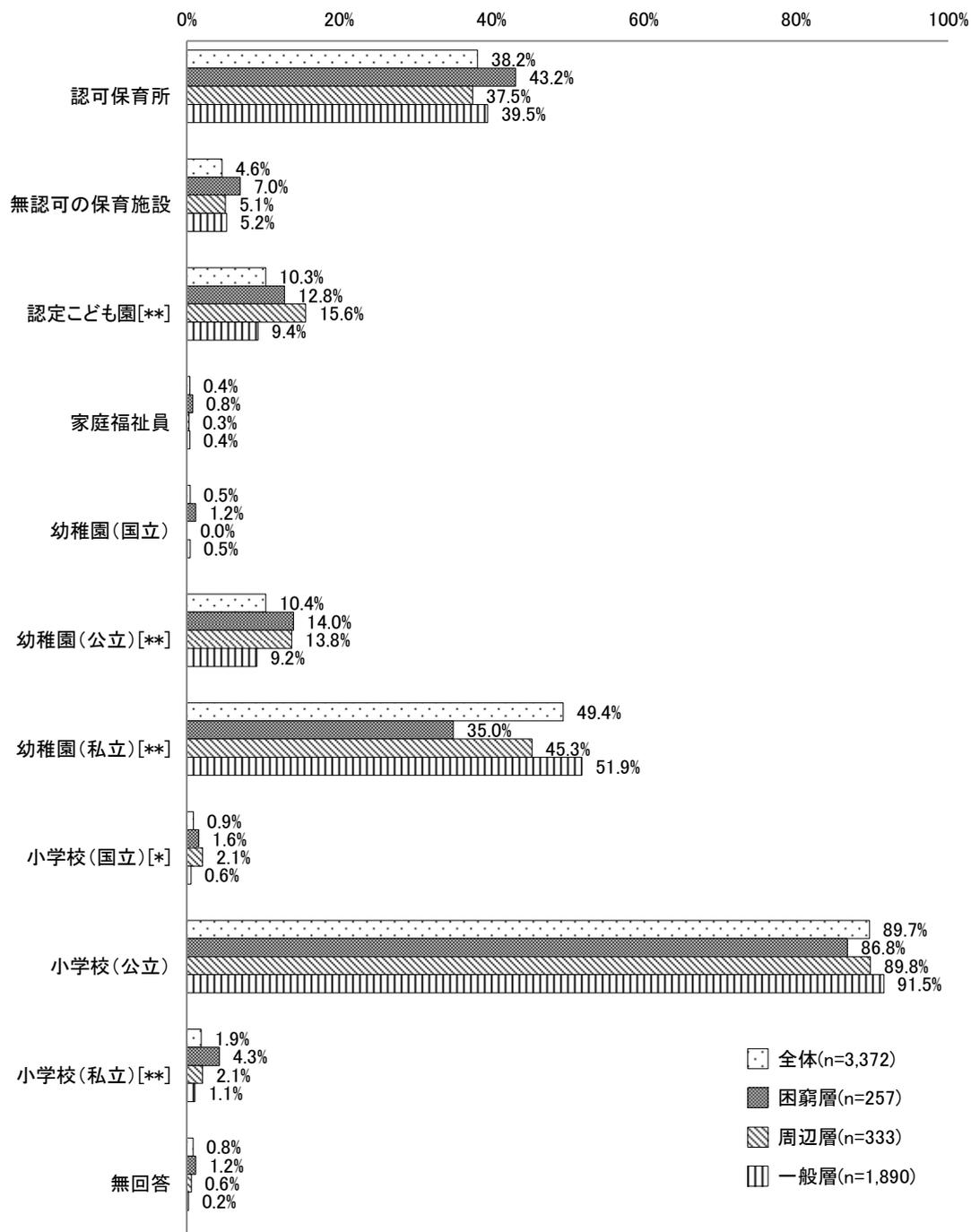
小学生の「全体」では、「小学校（公立）」が80.9%でもっとも割合が高く、次いで「認可保育所」が43.2%となっている。「困窮層」では、「小学校（公立）」が73.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「小学校（公立）」が81.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「小学校（公立）」が83.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「小学校（公立）」が89.7%でもっとも割合が高く、次いで「幼稚園（私立）」が49.4%となっている。「困窮層」では、「小学校（公立）」が86.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「小学校（公立）」が89.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「小学校（公立）」が91.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 60 通ったことのある保育・教育機関等：複数回答（Q28）（生活困難度別）
 <小学生>



< 中学生 >



2) 教育を受けさせたい段階

小学生の「全体」では、「大学またはそれ以上」が62.9%でもっとも割合が高く、次いで「まだわからない」が17.4%となっている。

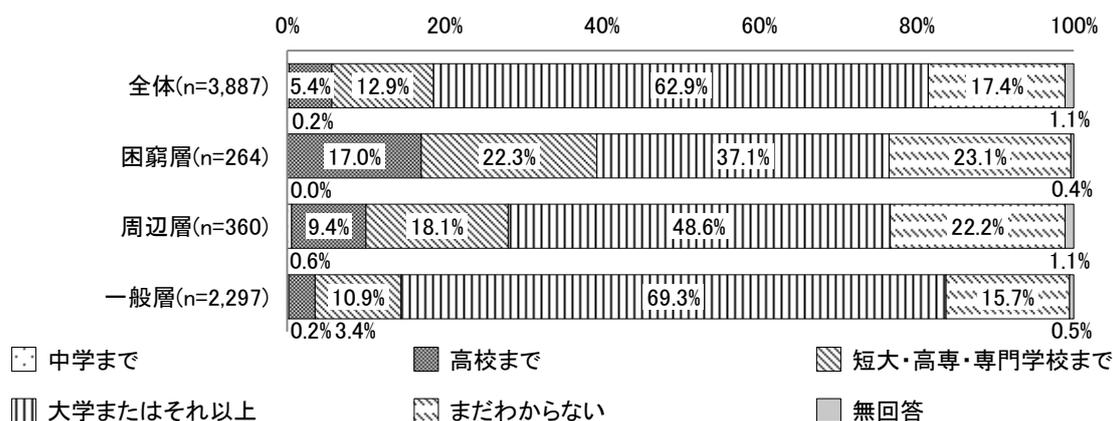
「困窮層」では、「大学またはそれ以上」が37.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「大学またはそれ以上」が48.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「大学またはそれ以上」が69.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「大学またはそれ以上」が59.7%でもっとも割合が高く、次いで「まだわからない」が16.4%となっている。

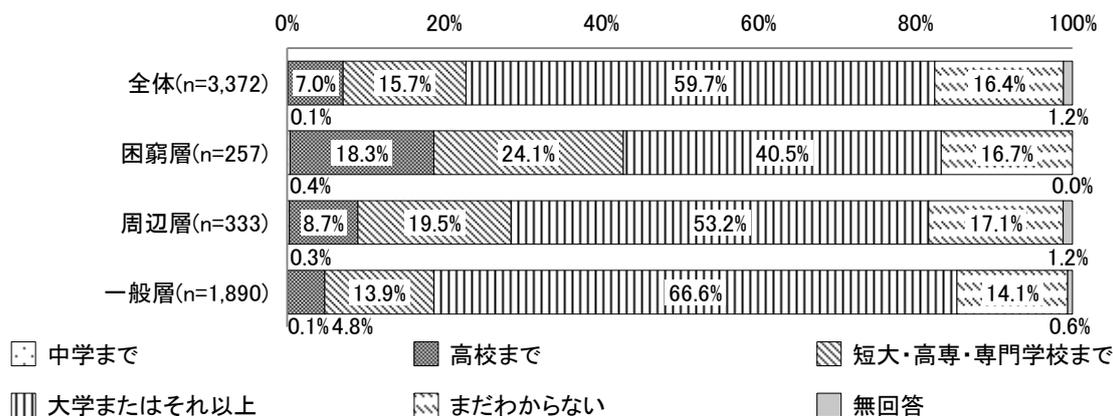
「困窮層」では、「大学またはそれ以上」が40.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「大学またはそれ以上」が53.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「大学またはそれ以上」が66.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 61 教育を受けさせたい段階：単数回答（Q29）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



3) 将来について、お子さんと一緒に考えたり、話すこと

小学生の「全体」では、「たまにする」が 62.6%でもっとも割合が高く、次いで「よくする」が 19.5%となっている。

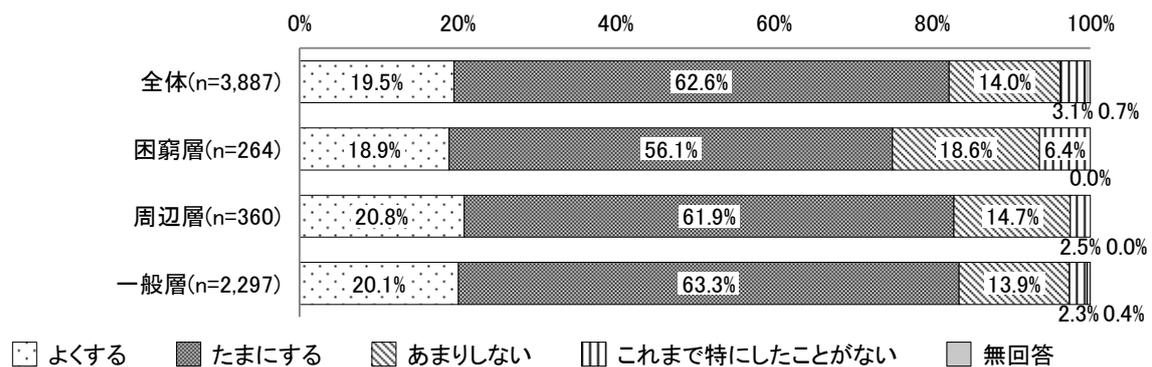
「困窮層」では、「たまにする」が 56.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「たまにする」が 61.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「たまにする」が 63.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「たまにする」が 64.1%でもっとも割合が高く、次いで「よくする」が 20.0%となっている。

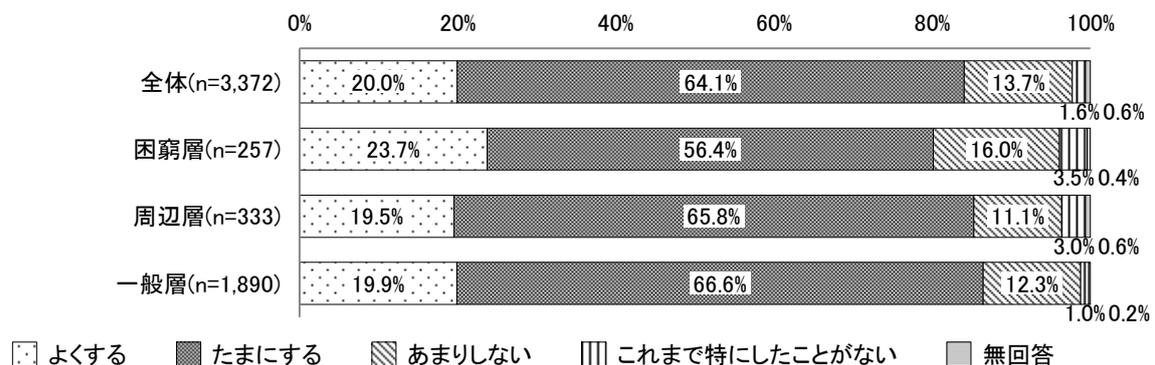
「困窮層」では、「たまにする」が 56.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「たまにする」が 65.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「たまにする」が 66.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 62 将来について、お子さんと一緒に考えたり、話すこと：単数回答（Q30）
（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



4) 毎月お小遣いを渡す

小学生の「全体」では、「していない/したくない」が47.1%でもっとも割合が高く、次いで「している」が43.8%となっている。

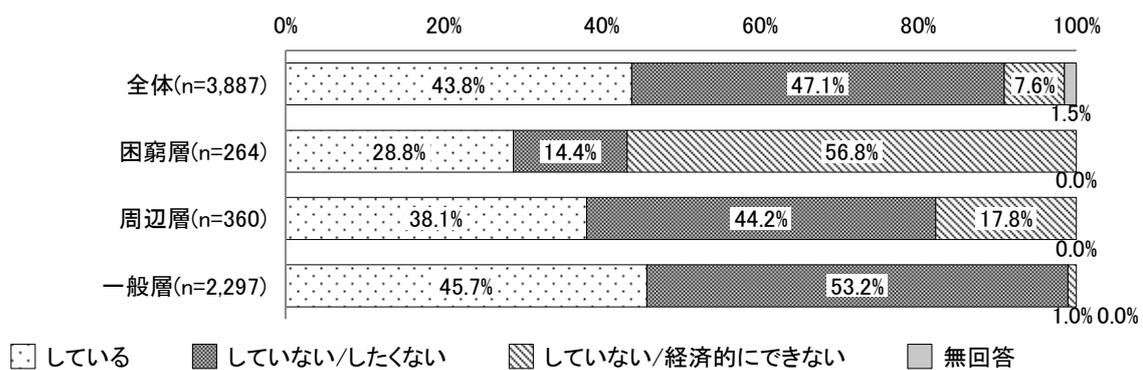
「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が56.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「していない/したくない」が44.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「していない/したくない」が53.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が58.1%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が32.5%となっている。

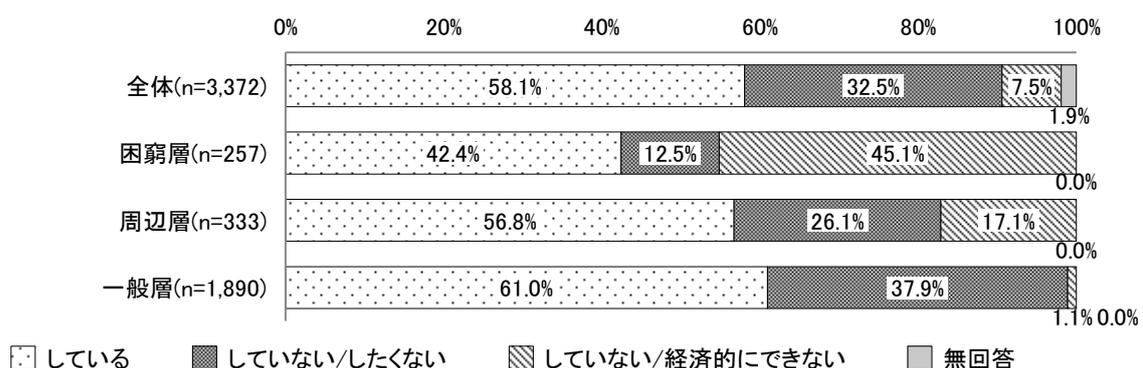
「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が45.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が56.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が61.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 63 毎月お小遣いを渡す：単数回答（Q31A）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



5) 毎年新しい洋服・靴を買う

小学生の「全体」では、「している」が92.0%でもっとも割合が高く、次いで「していない/経済的にできない」が3.8%となっている。

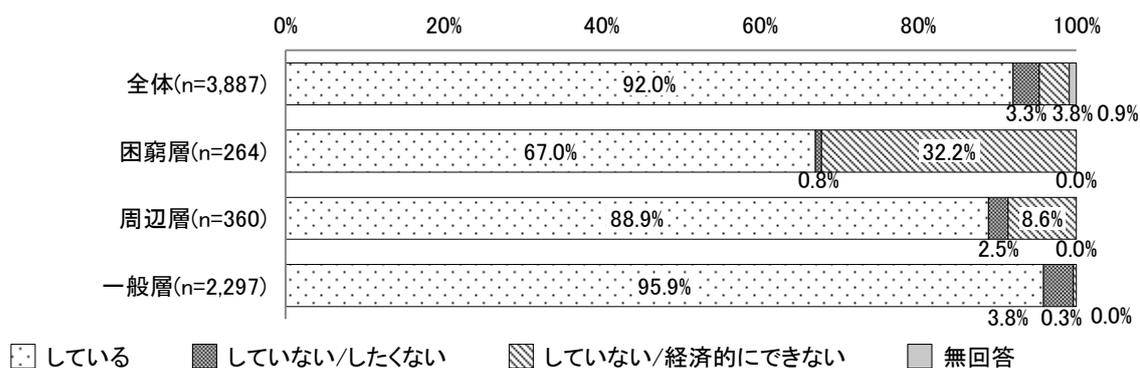
「困窮層」では、「している」が67.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が88.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が95.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が90.5%でもっとも割合が高く、次いで「していない/経済的にできない」が4.8%となっている。

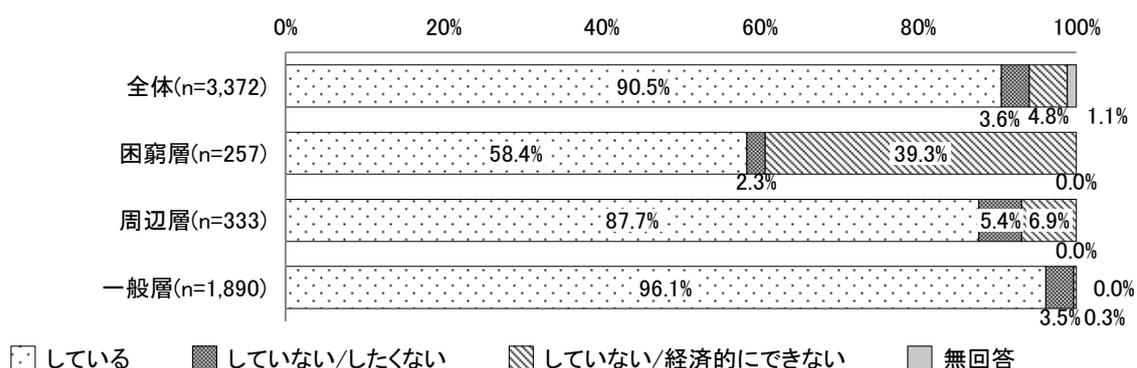
「困窮層」では、「している」が58.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が87.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が96.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 64 毎年新しい洋服・靴を買う：単数回答（Q31B）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



6) 習い事に通わせる

小学生の「全体」では、「している」が81.5%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が8.9%となっている。

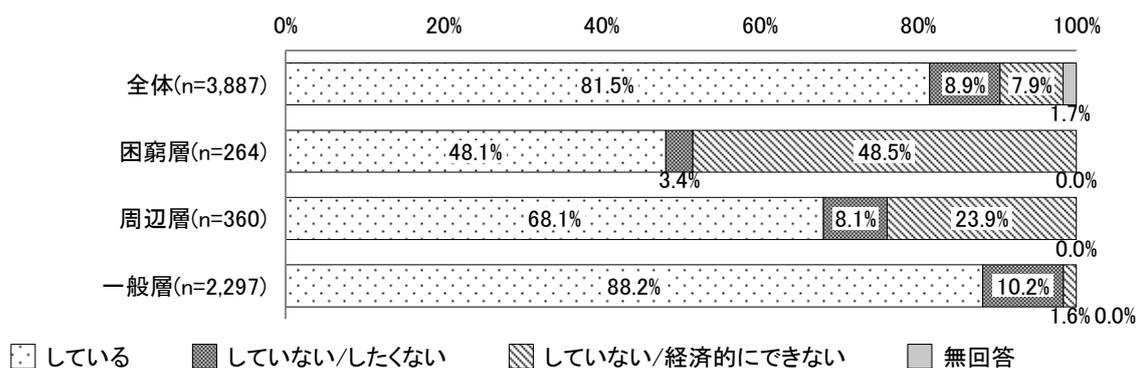
「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が48.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が68.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が88.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が61.8%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が21.9%となっている。

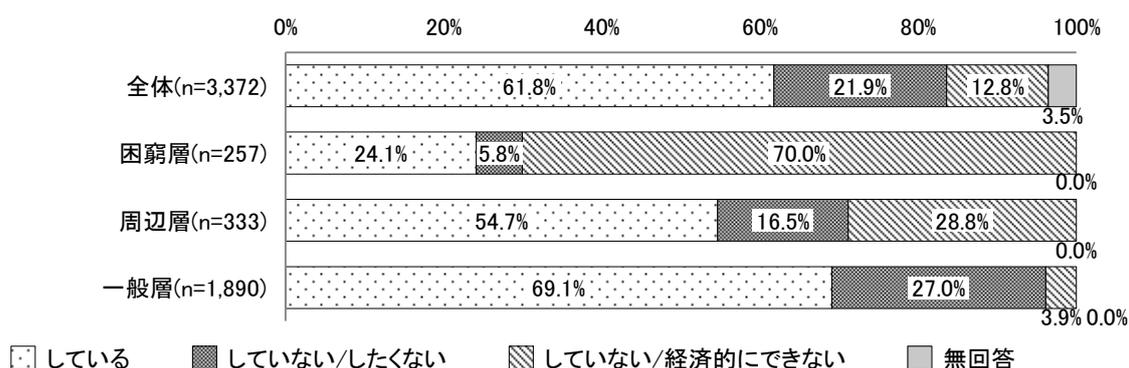
「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が70.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が54.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が69.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 65 習い事に通わせる：単数回答 (Q31C) (生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



7) 学習塾に通わせる

小学生の「全体」では、「している」が 53.5%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が 28.9%となっている。

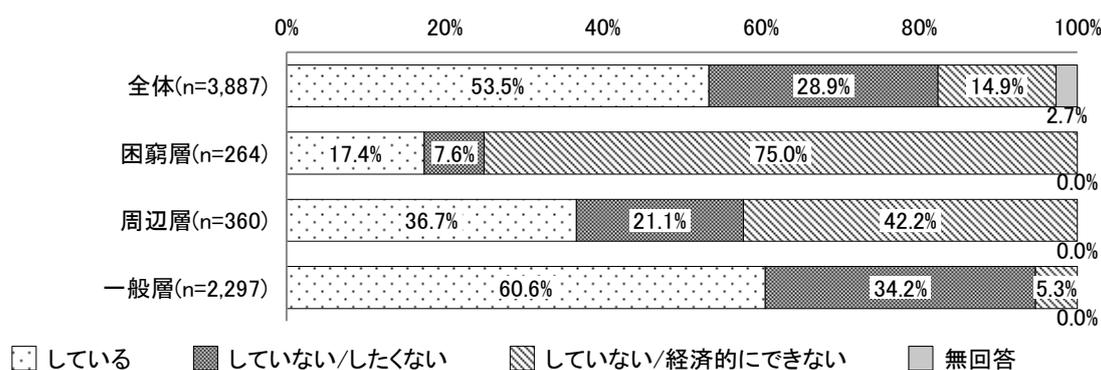
「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が 75.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「していない/経済的にできない」が 42.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 60.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が 61.2%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が 21.2%となっている。

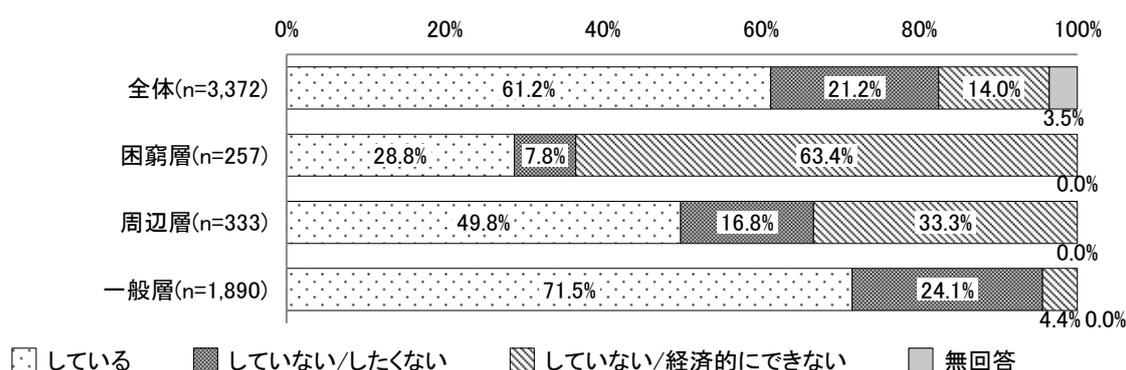
「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が 63.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が 49.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 71.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 66 学習塾に通わせる：単数回答 (Q31D) (生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



8) お誕生日のお祝いをする

小学生の「全体」では、「している」が98.7%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が0.4%、「していない/経済的にできない」が0.4%となっている。

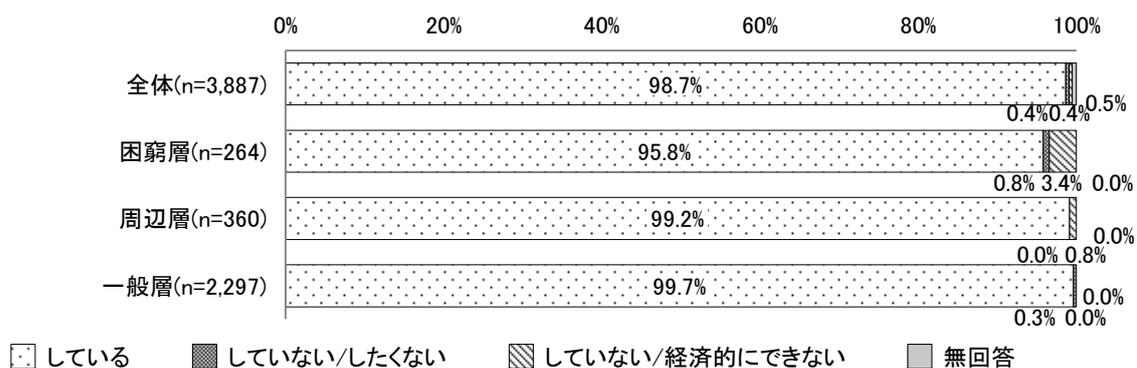
「困窮層」では、「している」が95.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が99.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が99.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が97.8%でもっとも割合が高く、次いで「していない/経済的にできない」が0.9%となっている。

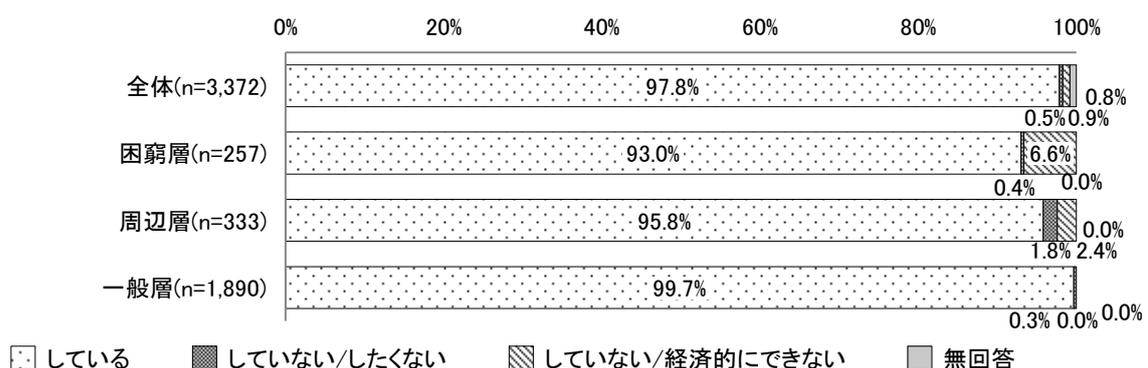
「困窮層」では、「している」が93.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が95.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が99.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 67 お誕生日のお祝いをする：単数回答（Q31E）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



9) 1年に1回くらい家族旅行に行く

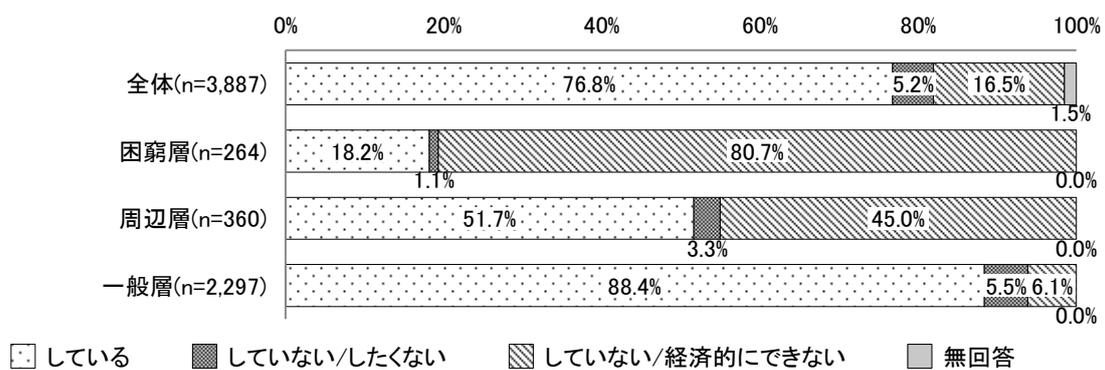
小学生の「全体」では、「している」が76.8%でもっとも割合が高く、次いで「していない/経済的にできない」が16.5%となっている。

「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が80.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が51.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が88.4%でもっとも割合が高くなっている。

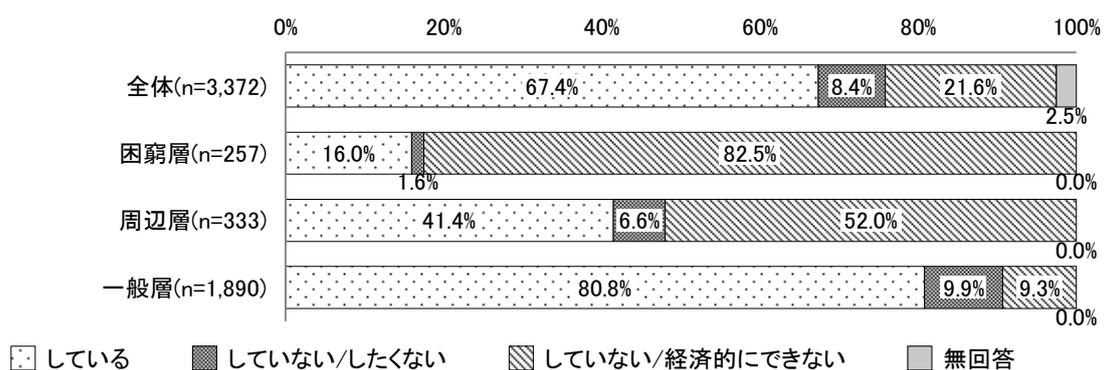
中学生の「全体」では、「している」が67.4%でもっとも割合が高く、次いで「していない/経済的にできない」が21.6%となっている。

「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が82.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「していない/経済的にできない」が52.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が80.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 68 1年に1回くらい家族旅行に行く：単数回答（Q31F）（生活困難度別）
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



10) クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

小学生の「全体」では、「している」が96.0%でもっとも割合が高く、次いで「していない/経済的にできない」が2.2%となっている。

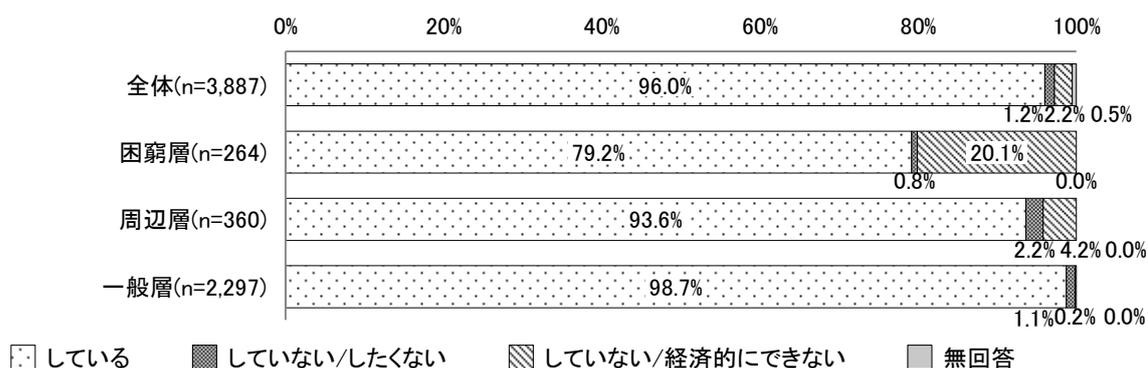
「困窮層」では、「している」が79.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が93.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が98.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が93.9%でもっとも割合が高く、次いで「していない/経済的にできない」が2.8%となっている。

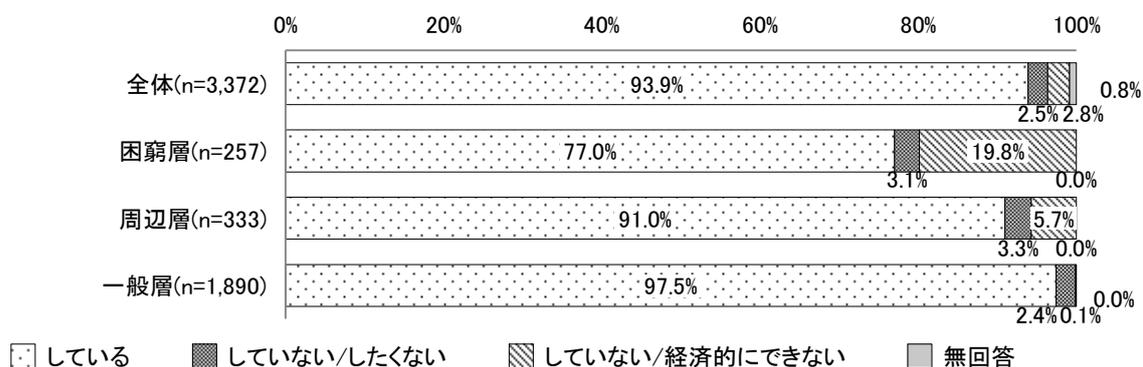
「困窮層」では、「している」が77.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が91.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が97.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 69 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる：単数回答 (Q31G)
(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



11) こどもの学校行事などへ親が参加する

小学生の「全体」では、「している」が97.9%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が1.0%となっている。

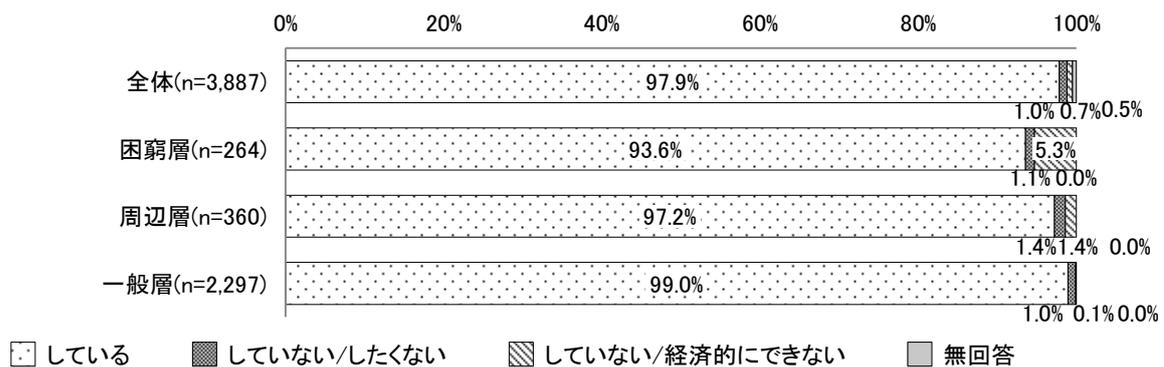
「困窮層」では、「している」が93.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が97.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が99.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が95.4%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が2.6%となっている。

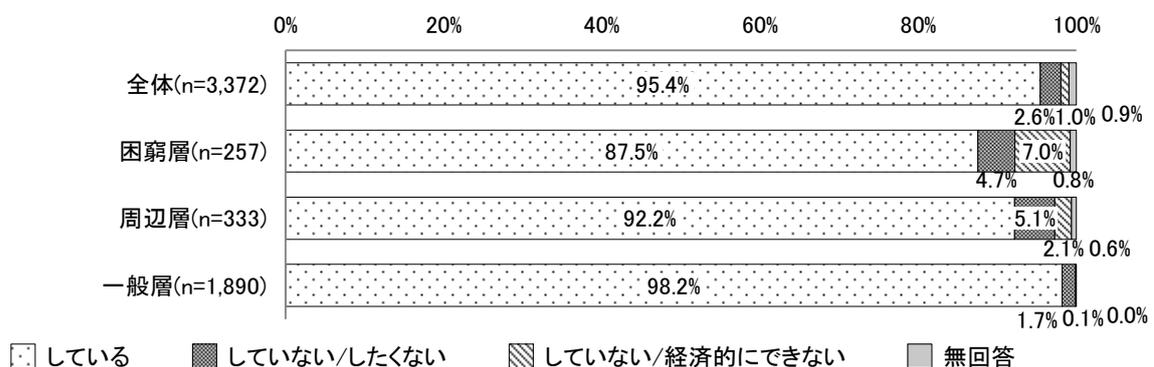
「困窮層」では、「している」が87.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が92.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が98.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 70 こどもの学校行事などへ親が参加する：単数回答（Q31H）
（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



12) 海水浴に行く

小学生の「全体」では、「ある」が47.2%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が37.1%となっている。

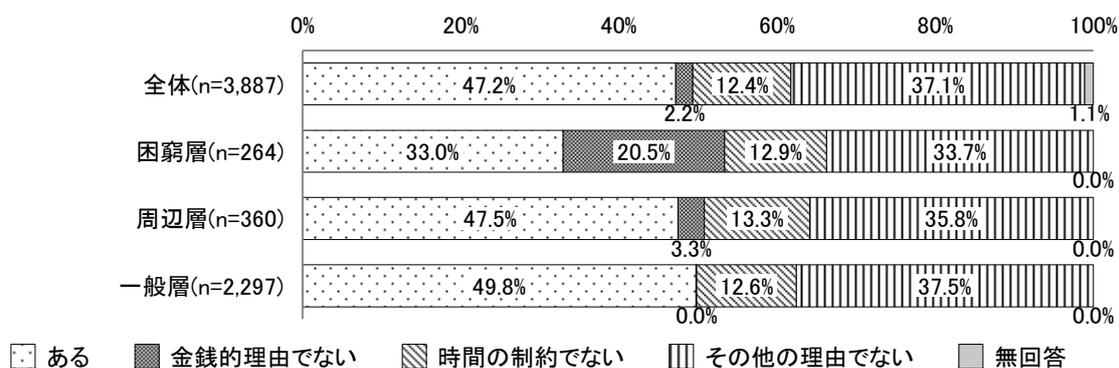
「困窮層」では、「その他の理由でない」が33.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が47.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が49.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「その他の理由でない」が47.5%でもっとも割合が高く、次いで「ある」が29.0%となっている。

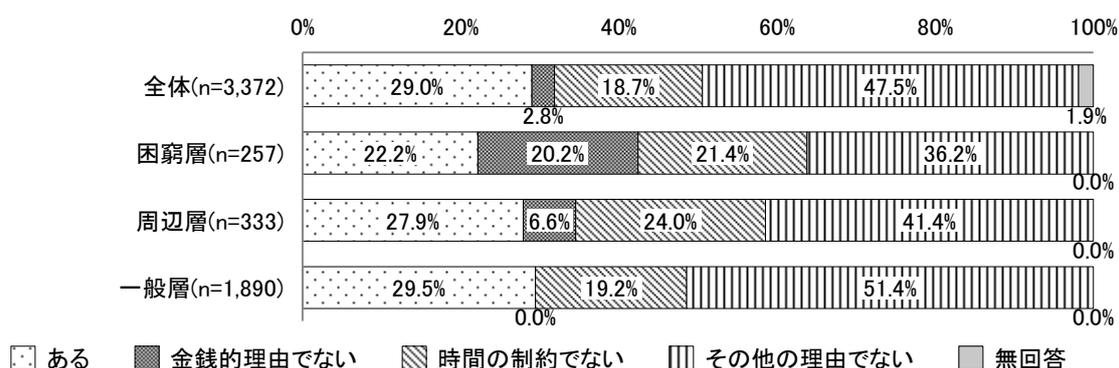
「困窮層」では、「その他の理由でない」が36.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「その他の理由でない」が41.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「その他の理由でない」が51.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 71 海水浴に行く：単数回答（Q32A）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



13) キャンプやバーベキューに行く

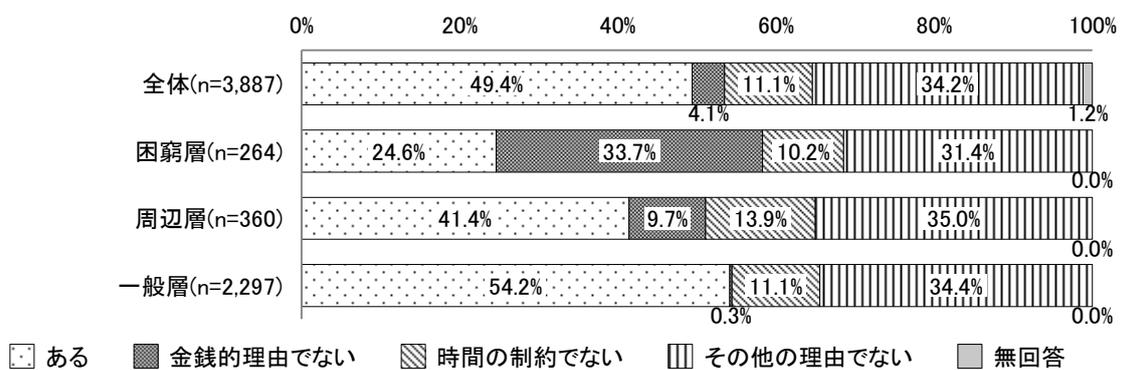
小学生の「全体」では、「ある」が 49.4%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が 34.2%となっている。

「困窮層」では、「金銭的理由でない」が 33.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 41.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 54.2%でもっとも割合が高くなっている。

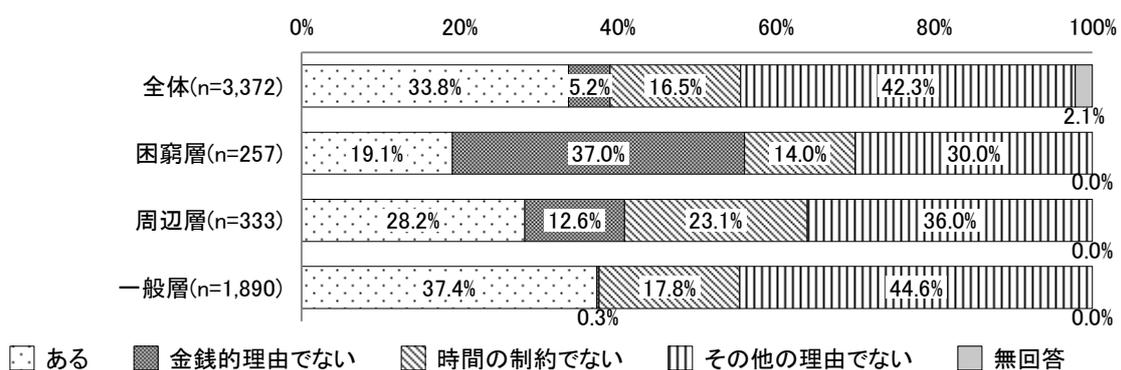
中学生の「全体」では、「その他の理由でない」が 42.3%でもっとも割合が高く、次いで「ある」が 33.8%となっている。

「困窮層」では、「金銭的理由でない」が 37.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「その他の理由でない」が 36.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「その他の理由でない」が 44.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 72 キャンプやバーベキューに行く：単数回答（Q32B）（生活困難度別）
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



14) 博物館・科学館・美術館などに行く

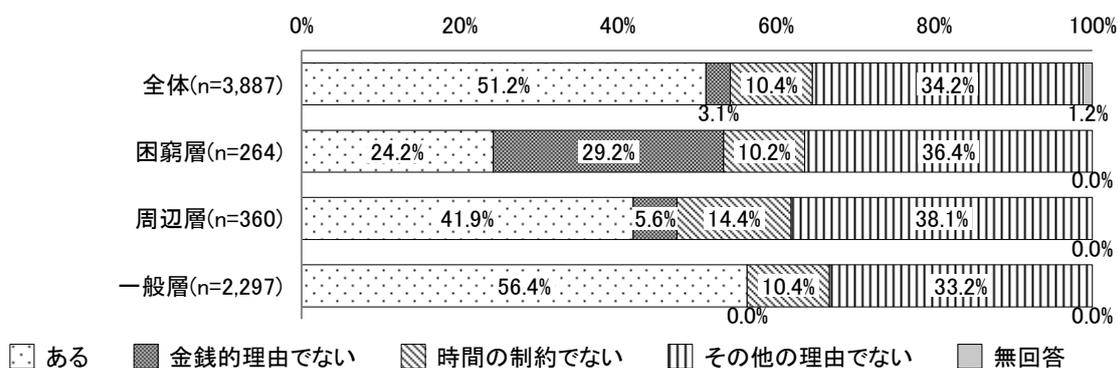
小学生の「全体」では、「ある」が51.2%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が34.2%となっている。

「困窮層」では、「その他の理由でない」が36.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が41.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が56.4%でもっとも割合が高くなっている。

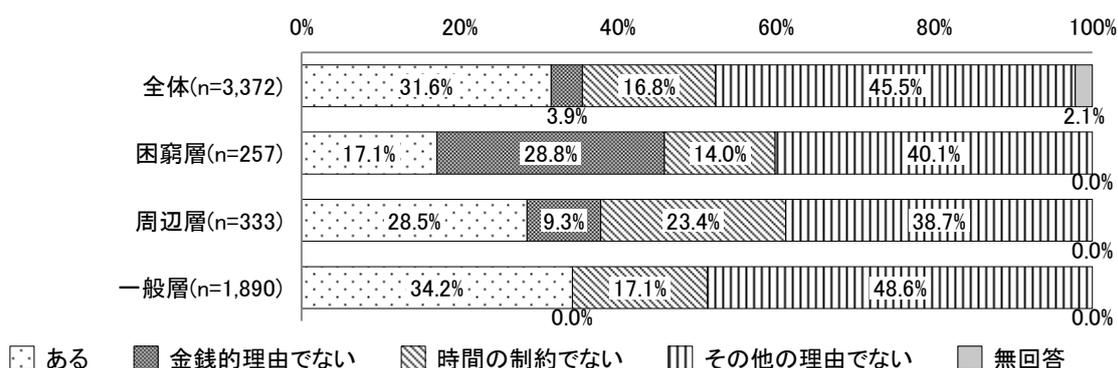
中学生の「全体」では、「その他の理由でない」が45.5%でもっとも割合が高く、次いで「ある」が31.6%となっている。

「困窮層」では、「その他の理由でない」が40.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「その他の理由でない」が38.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「その他の理由でない」が48.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 73 博物館・科学館・美術館などに行く：単数回答（Q32C）（生活困難度別）
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



15) スポーツ観戦や劇場に行く

小学生の「全体」では、「ある」が45.4%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が39.7%となっている。

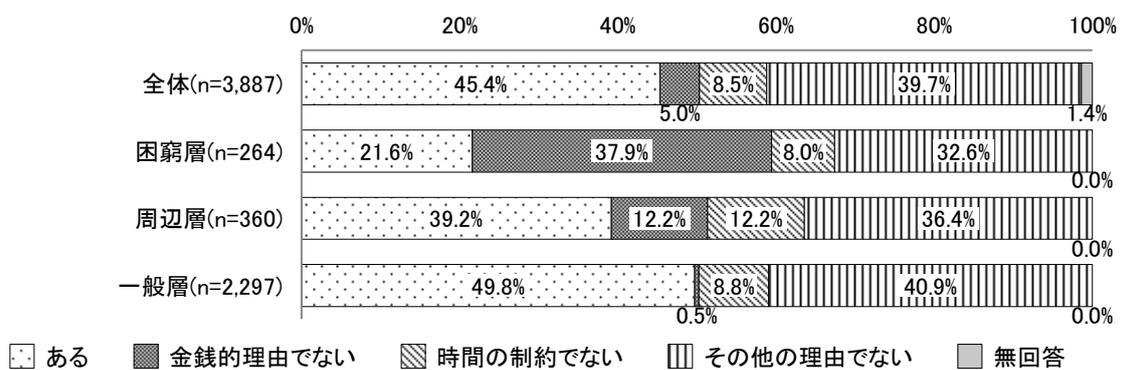
「困窮層」では、「金銭的理由でない」が37.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が39.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が49.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「その他の理由でない」が44.6%でもっとも割合が高く、次いで「ある」が35.1%となっている。

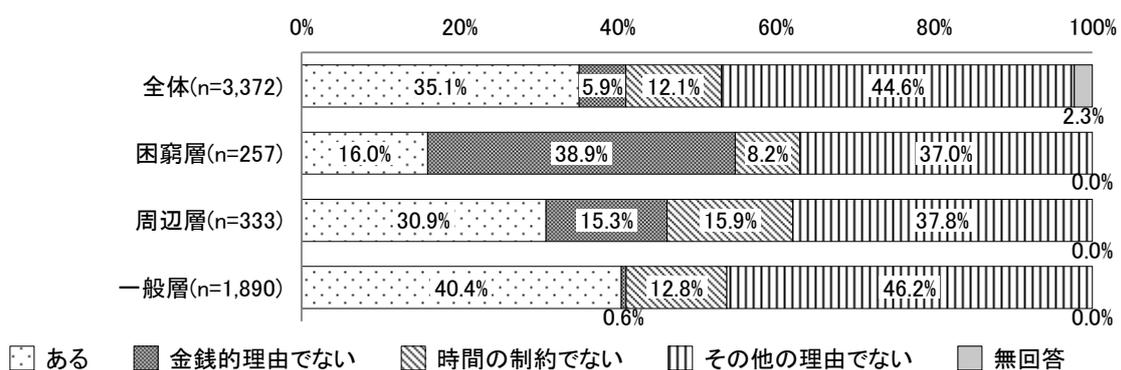
「困窮層」では、「金銭的理由でない」が38.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「その他の理由でない」が37.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「その他の理由でない」が46.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 74 スポーツ観戦や劇場に行く：単数回答（Q32D）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



16) 映画鑑賞に行く

小学生の「全体」では、「ある」が 77.6%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が 14.3%となっている。

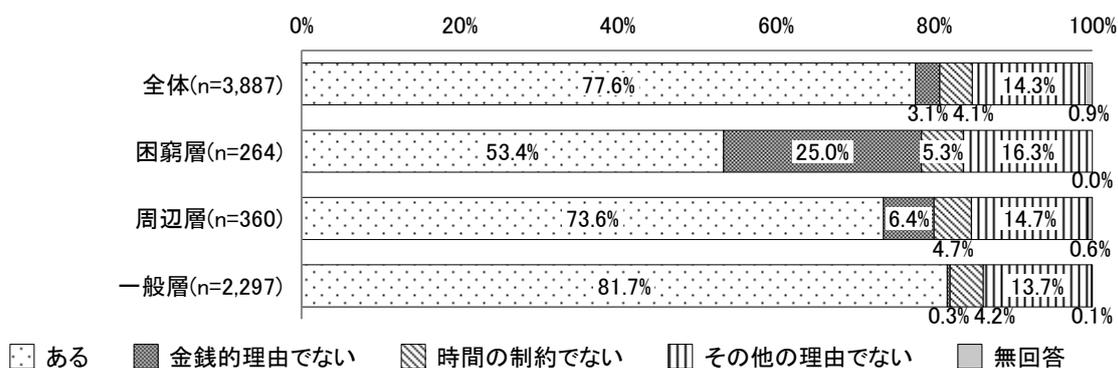
「困窮層」では、「ある」が 53.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 73.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 81.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 69.4%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が 19.3%となっている。

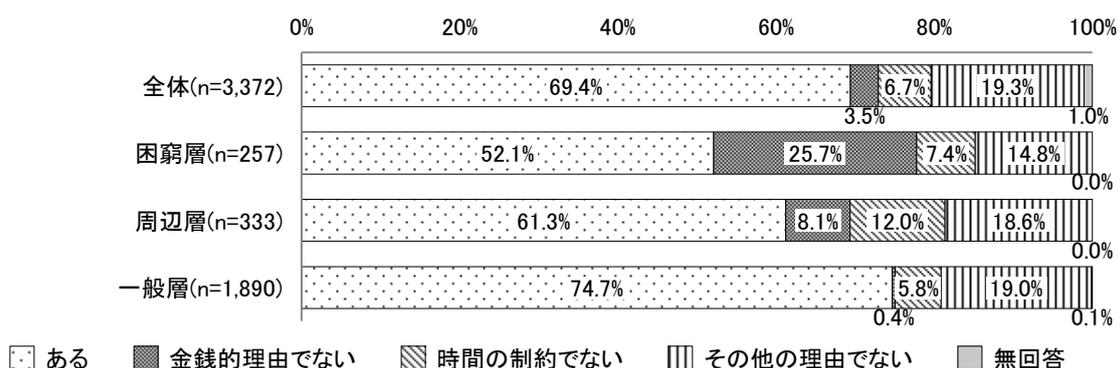
「困窮層」では、「ある」が 52.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 61.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 74.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 75 映画鑑賞に行く：単数回答（Q32E）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



17) 遊園地やテーマパークに行く

小学生の「全体」では、「ある」が 75.7%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が 9.7%となっている。

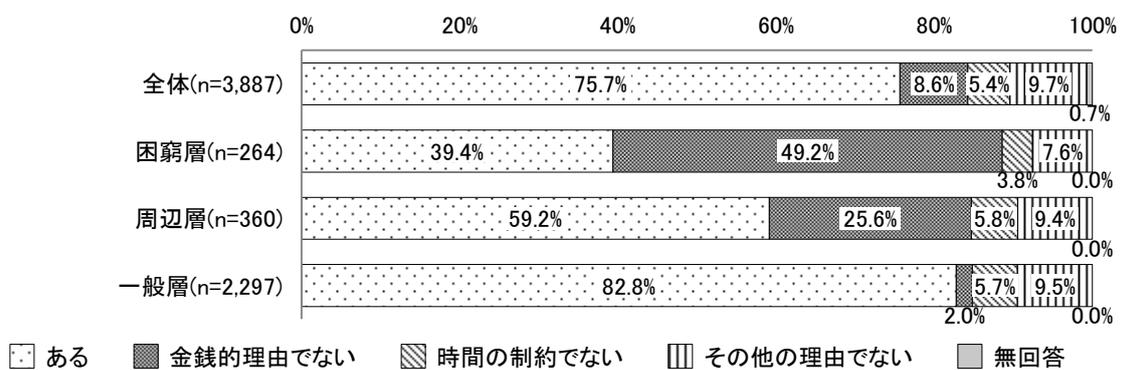
「困窮層」では、「金銭的理由でない」が 49.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 59.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 82.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 58.1%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が 20.1%となっている。

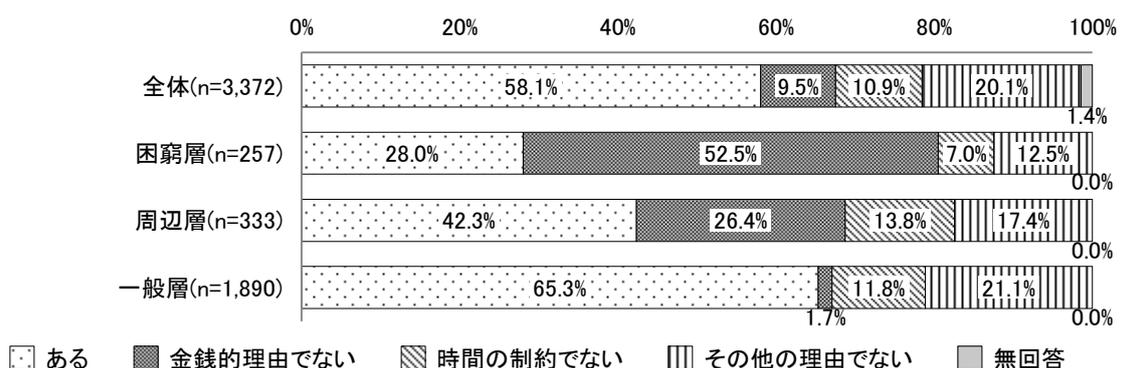
「困窮層」では、「金銭的理由でない」が 52.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 42.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 65.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 76 遊園地やテーマパークに行く：単数回答（Q32F）（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



18) 一緒に朝食をたべる

小学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 56.0%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1~2 回」が 16.8%となっている。

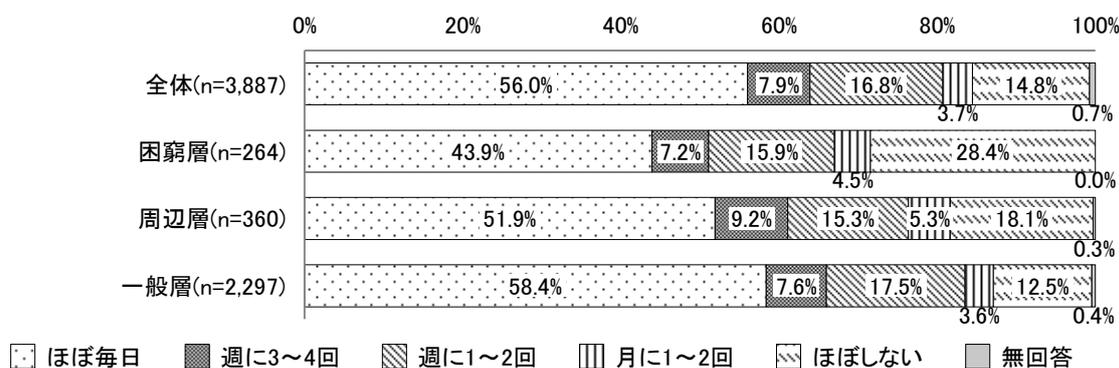
「困窮層」では、「ほぼ毎日」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 51.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 58.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 44.0%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼしない」が 23.6%となっている。

「困窮層」では、「ほぼ毎日」が 35.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 40.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 45.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 77 一緒に朝食をたべる：単数回答 (Q33A) (生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)

